

第二類 河 川 河川法第三十二條第二項ノ費用補助ニ關スル件 二六八

◎河川法第三十二條第二項ノ費用補助ニ關スル件 (明治三十二年四月六日) 勅令第一二二二號

- 第一條 河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ニ對シ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ補助ヲ爲スニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス
 - 一 河川法第十七條ニ記載スル工作物ノ新築改築若ハ除却ナルコト
 - 二 工事ノ必要ヲ生シタル程度ニ於ケル工費ニシテ其ノ管理者タル行政廳ノ直接ニ管轄スル公共團體又ハ管理者タル私人ノ資力ニ比シ大ナルコト
- 第二條 河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ノ費用ニ對スル補助ハ其ノ工費ノ三分ノ二以內トス但シ他ノ工事ノ管理者ニシテ私人ナルトキ又ハ特別ノ事情アル場合ハ此限ニアラス
- 第三條 此ノ勅令ノ規定ニ依リ國庫ヨリ工事ノ豫算費用ニ對シ補助シタル場合ニ於テハ工事費用精算ノ上豫算ヨリ減スルコトアルモ既ニ與ヘタル補助金ハ之ヲ還付セシメサルコトヲ得
- 第四條 河川ニ關スル工事ニ因リテ必要ヲ生シタル他ノ工事ニシテ其ノ管理者不明ナルトキハ河川ニ關スル費用ノ内ヨリ其ノ工費ノ全部ヲ支辨スルコトヲ得
- 第五條 府縣ニ於テ河川法第二十六條ニ依リ補助ヲ受ケタル場合ニ於テ此ノ勅令ノ規定ニ依リ補助又ハ支辨ヲ爲サントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス其ノ變更又ハ廢止ヲ爲サントスルトキ亦同シ

◎河川法施行ニ係ル河川敷地及流水占用規則

(大正二年四月二十一日) 府令第三二二號

改(大正六年七月府令第四〇號、十一年) 正(二月第八號、十五年六月第七一號)

- 第一條 河川法ニ基キ河川敷地及流水占用ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ本則ニ依ルヘシ
- 第二條 占用願書ニハ左ノ事項ヲ記載シ尙丈量又ハ實測圖及附近ノ模樣竝方位等ヲ詳記セル實況圖ヲ添付スヘシ但シ河川法施行規程第九條ニ該當スル敷地ヲ占用セムトスルモノハ舊地番地種目段別若ハ坪數及其ノ理由ヲ併記スヘシ
 - 一 所屬ノ郡市町村大字及字名
 - 二 占用箇所ノ種類、面積、目的及期間
 - 三 願人ノ住所氏名願人カ法人ナルトキハ其ノ名稱
 - 四 占用地ニ立竹木其ノ他ノ物件存在スルトキハ其ノ種類、員數
- 代理人ニ依リテ出願スルトキハ其ノ權限ヲ證スル書面
- 第三條 工作物ノ施設ヲ目的トスル占用ニアリテハ第二條ノ外工作物ノ平面圖、斷面圖、側面圖又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ工作物ヲ明瞭ナラシメ仕様書設計書ヲ添付シ工事着手ノ日ヨリ竣功ニ至ル豫定日數ヲ記載スヘシ但シ輕易ナル工事ニアリテハ前項ノ規定ニ拘ラス見取圖ニ仕様書ヲ添付シ出願スルモ妨ケナシ
- 2 工事竣功シタルトキハ三日以內ニ届出テ検査ヲ受クヘシ
- 第四條 願書ニハ管内居住者ニシテ身元確實ナル保證人竝占用地若ハ流水ニ沿ヘル土地又ハ家屋

第二類 河 川 河川法施行ニ係ル河敷地及流水占用規則

第二類 河 川 河川法施行ニ係ル河敷地及流水占用規則

占有者ノ連署ヲ要ス若シ占有者カ連署ヲ拒ミタルトキハ其ノ事實ヲ附記スヘシ但シ公共團體若ハ公共組合ニ於テ公共ノ用ニ供スル事業ノ爲メ占用スル場合ハ此ノ限ニアラス

第五條 共同シテ占用ノ許可ヲ受ケタル者又ハ保證人ハ占用ニ因リテ生スル義務ハ各連帯ノ負擔トス

第六條 占用ノ目的ヲ變更シ又ハ工作物ノ新築改築若ハ構造ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ更ニ許可ヲ受クヘシ

第七條 占用ノ許可ヲ受ケタル敷地ニハ地上長二尺太サ三寸角ノ標木ヲ建設シ流水ハ其ノ水面上長六尺ノ杭木ニ標札ヲ釘着シ占用ノ期間、坪數、目的、住所、氏名ヲ記載スヘシ

第八條 期限ニ至リ尙引續キ占用セムトスルモノハ期間一ヶ月前ニ第二條ニ規定セル事項ヲ具備シ保證人連署出願スヘシ

第九條 占用ノ許可ニ依リ生スル權利義務ヲ他人ニ移サムトスルトキハ第二條ニ規定セル事項ヲ具備シ當事者双方竝保證人連署出願スヘシ

第十條 占用人及保證人カ改氏名又ハ轉居シタルトキハ十四日以内ニ其旨届出ツヘシ

第十一條 占用人ハ占用期間内其ノ敷地保護ノ責ニ任シ流水ノ疏通ヲ圖ルコトヲ要ス

2 不抗力ニ依リ占用地又ハ河川ノ附屬物ニ異動ヲ生シタルトキハ速ニ届出ツヘシ

第十二條 占用期間中他ニ障害ヲ加ヘ又ハ加ヘントセル虞アリト認ムルトキハ占用人ノ費用ヲ以テ相當ノ除害方法ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條 必要アリト認ムルトキハ保證金ヲ納付セシムルコトアルヘシ

第十四條 左ノ場合ニ於テハ許可ヲ取消シ期限ヲ定メ原狀ニ回復ヲ命スルコトアルヘシ

一 法令ノ施行上若ハ官廳ノ許可シタル事業施行ノ爲メ其ノ他公益上必要アリト認メタルトキ

二 虚偽若ハ錯誤アリタルトキ

三 占用人ニ於テ本則又ハ許可條件ニ違背シタルトキ

第十五條 本則ノ規定又ハ許可ノ條件ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可ヲ受ケタル者ニ於テ損害ヲ蒙ルコトアルモ之カ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

第十六條 占用期間中其ノ占用ヲ止メ又ハ期間満了ノ場合ハ原形ニ回復シ其ノ旨届出ツヘシ

第十七條 公共事業ノ爲メ占用スル場合ノ外ハ明治二十四年大阪府告示第五十六號官有土地森林原野收入金徵收規程ニ準シ占用料ヲ徵收ス但シ左ノ場合ニ於テハ占用料ヲ減額又ハ特免スルコトアルヘシ

一 河川ニ關スル工事ノ爲メ土地ヲ寄附シタル場合ニ於テ其ノ寄附ニヨリテ生シタル河川敷地又ハ流水ヲ其ノ寄附者ニ占用ヲ許可スルトキ

二 道路ト效用ヲ兼ヌル堤防敷ノ占用ヲ許可スル場合ニ於テ道路占用料ヲ徵收スルトキ

第十八條 本則ニ依リ提出スル書類ハ市(大阪市ハ區)役所又ハ町村役場ヲ經由スヘシ

第十九條 本則施行前既ニ許可ヲ受ケ其ノ期間ノ存續中ニ在ルモノハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十條 明治三十一年五月大阪府告示第八十二號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第二類 河 川 河川法施行ニ係ル河川敷地及流水占用規則

第二類 河 川

河川法ノ規定ヲ準用スル河川ヨリ生スル收入ニ關スル件、淀川及其ノ他ノ河川ト認定セシモノニシテ市町村其ノ他ノ公共團體ニ於テ費用ヲ負擔スル堤防及河川ノ敷地流水占

◎河川法ノ規定ヲ準用スル河川ヨリ生スル收入ニ關スル件

(大正五年六月八日發土第四三號) 各地方長官宛、土木局長通牒)

河川法ノ規定ヲ準用スル河川ノ使用料占用料其ノ他ノ收入ハ其ノ河川ニ關スル費用ヲ負擔スル公共團體ニ歸スヘキ儀ニ候條御了知相成度

◎淀川及其ノ他ノ河川ト認定セシモノニシテ市町村其ノ他ノ公共團體ニ

於テ費用ヲ負擔スル堤防及河川ノ敷地流水占用處分方

(明治三十一年五月十九日) 大阪府令第三九號

改(明治三十一年十月) 府令第六九號
正(三十三年七月同第四五號、九月同第五九號)

- 1 河川法ニ依リ淀川ノ支川ト認定セシ支川ニシテ町村其ノ他ノ公共團體ニ於テ其ノ費用ヲ負擔スル堤防及河川ノ敷地流水ノ占用ハ所屬町村其ノ他ノ公共團體ヲ管理スル行政廳ニ於テ當廳ノ認可ヲ受ケ處分スヘシ
 - 2 前項ノ占用料並堤防及河川ヨリ生スル收益ハ所屬町村其ノ他ノ公共團體ノ收入ニ歸ス
 - 3 本令施行前ニ係ル收入ニ關シテモ前項ヲ適用ス
- 但シ第一項中ノ河川ノ敷地、流水ノ占用料ニ付キテハ此ノ限ニ在ラス

◎淀川支川ニ關スル占用並收益其ノ他取扱規程

(明治三十三年十月十一日) 府訓令第六十三號

改(明治四十五年六月) 訓令第一八號、大正二年
正(六月同第一九號、十五年六月同第四二號)

町村役場 水利組合役場

(淀川ノ支川ニ關係ナキ郡市町村及水利組合ヲ除ク)

- 第一條 河川、敷地、堤防、流水ノ占用ヲ許可セムトスルトキハ第一號様式ノ調査表並圖面ヲ添付シ認可ヲ受クヘシ但シ許可セサル場合ニ在リテハ其ノ事由ヲ具シ認可ヲ受クヘシ
- 2 河川敷地及流水占用規則第六條ノ許可ヲ爲サムトスルトキハ認可ヲ受クヘシ
- 第二條 河川法第十七條ニ該當スル行爲ニ付許可ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ目的ノ爲ニ占用ヲ許可スル場合ニ在リテハ前條ノ認可ヲ受クルコトヲ要セス
- 第三條 河川敷地及流水占用規則第七條ノ届出ヲ受ケタルトキハ即時報告スヘシ
- 第四條 土石、砂利ノ採取又ハ生産物ノ刈採リヲ許可セムトスルトキハ第二號様式ノ調査表並圖面ヲ添付シ認可ヲ受クヘシ
- 第五條 官有土石砂利拂下規程第六條乃至第八條又ハ河川内生産物拂下規程第六條、第七條ノ場合ニ於テハ本知事ノ指揮ヲ受ケ處分スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ニ限り便宜處分シ報告スルコトヲ妨ケス
- 第六條 第一條第四條ノ場合ニ於テ許可ニ附スル條件又ハ出願ノ事項ヲ變更シテ許可セムトスルノ必要アルトキハ其ノ事由ヲ詳具スヘシ

第二類 河 川

淀川支川ニ關スル占用並收益其ノ他取扱規程

第二類 河 川

淀川支川ニ關スル占用竝収益其ノ他取扱規程
市町村其ノ他公共團體ニ於テ河川ニ關スル費
用ノ負擔方ハ明治三十一年府令第三十九號ノ
規定準用ノ件

第七條 町村其ノ他公共團體ニ於テ直接ニ河川敷地、堤防、流水ヲ占用シ又ハ土石砂利ヲ採取シ
若ハ生産物ノ刈採リヲ爲サムトスル場合ニ在リテモ本規程ヲ準用ス
第八條 國、府ノ事業ノ爲河川敷地、堤防、流水ヲ占用シ若ハ土石砂利ノ採取ヲ要スル場合ハ町
村長其ノ他公共團體ノ管理者ヘ通知スルモノトス
第九條 公益ノ爲必要アルトキ又ハ公害アルヲ發見シタルトキ其ノ他本知事ニ於テ必要アリト認
ムルトキハ認可シタル條件ヲ變更シ若ハ必要ナル處分ヲ爲サシムルコトアルヘシ
(様式略)

◎市町村其ノ他公共團體ニ於テ河川ニ關スル費用ノ負擔方ハ
明治三十一年府令第三十九號ノ規定準用ノ件 (明治三十四年五月二日)
府令 第六九號

河川法ニ規定シタル事項ヲ準用セシ河川ニシテ市町村其ノ他公共團體ニ於テ其ノ河川ニ關スル費
用ヲ負擔スル河川ニハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ明治三十一年大阪府令第三十九號ノ規定ヲ準用ス

◎河川ニ關スル占用竝収益其ノ他取扱方 (明治三十四年六月十三日)
府訓令 第三一號

(郡役所) 市役所 町村役場 水利組合役場

明治三十四年大阪府令第六十九號ノ河川ニ關スル占用竝収益其ノ他取扱ニ付テハ明治三十三年大
阪府訓令第六十三號ノ規程ニ準據スヘシ

◎河川使用料規程

(明治四十三年五月二十七日)
大阪告示 第四五號

改(大正三年四月告示第三二號、七年四月同第三五號)
正(九年四月同第四九號、十一年五月同第四六號)

第一條 本市内川中ノ使用又ハ河川法ニ規定シタル事項ヲ準用セル河川占用ノ許可ヲ受ケタルモ
ノニ對シテハ此ノ規程ニ據リ使用料若クハ占用料ヲ徵收ス可シ
第二條 使用料及占用料ハ別表ノ區分ニ依リ徵收ス可シ
第三條 使用料又ハ占用料徵收期左ノ如シ
一 年ヲ以テ使用又ハ占用ヲ許可シタルモノハ左ノ二期ニ徵收ス
但徵收期限後新タニ使用又ハ占用ノ許可ヲ受ケタルモノハ其ノ許可ノ日ヨリ十日以内トス
第一期 其 年 四月ヨリ 其 年 四月一日ヨリ
九月マテ 同月十五日限

第二類 河 川 河川ニ關スル占用竝収益其ノ他取扱方
河川使用料規程

第二類 河川 河川使用料規程

第二期 翌年 三月ヨリ 其年 十月一日ヨリ 十月十五日限

二月又ハ日ヲ以テ使用又ハ占用ヲ許可シタルモノハ其許可ノ日ヨリ十日以内ニ全額ヲ徴收ス

第四條 公益ノ爲メ使用又ハ占用スルモノニ對シテハ市參事會ニ於テ特ニ其料金を輕減又ハ免除スルコトアルヘシ

附則

明治二十四年五月本市告示參第十六號川中使用料徵收法ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス

(別表)

河川使用及占用料 (一坪年額)		
等級	河川使用目的	
一	道頓堀川深里橋上流、西横堀川信濃橋上流、京町橋ニ至ル	諸廣告 料理船 物置場、工物掛出、工作物施設 遊船、貯藏及居住ニ類 造解修繕、洲生洲船、漁船、生洲籠
二	道頓堀川深里橋下流、西横堀川一以外、東横堀川、長堀川、京町堀川	諸廣告 料理船 物置場、工物掛出、工作物施設 遊船、貯藏及居住ニ類 造解修繕、洲生洲船、漁船、生洲籠

等級	河川使用目的	諸廣告	料理船	物置場、工物掛出、工作物施設	遊船、貯藏及居住ニ類	造解修繕、洲生洲船、漁船、生洲籠
三	江戶堀川、阿波堀川、岡崎橋、上流、立賣堀川、難波新川、中之島堀、阿波堀川、岡崎橋、寺町橋、初橋上流、古川	14,000	8,000	5,000	4,000	3,500
四	天滿堀川、入堀川、川葉橋、川萬歲橋、七瀬川、逆川	12,500	5,500	4,000	3,500	3,000
五	川葉橋、川萬歲橋、七瀬川、逆川	8,500	4,000	3,000	2,000	1,500
六	猫間川、十三間川、萬歲橋上流	5,500	3,000	2,000	1,500	1,000

1 使用又ハ占用ノ期間一箇年未滿ハ一箇月ニ付年額ノ十分ノ一、一箇月未滿ハ一日ニ付月額ノ二十分ノ一トス

2 一箇年又ハ一箇月ニ滿タサルモノニシテ料金ノ總額カ一箇年分又ハ一箇月分ヲ超過スルモノハ之ヲ年額又ハ月額ニ止ム

第二類 河川 河川使用料規程

第二類 河 川 河川使用料規程、曳船道使用料及徴收方

3 一箇年又ハ一箇月ヲ超過スルモノニシテ年又ハ月ニ滿タサル端數アルトキハ其ノ端數ニ對シテハ前二項ノ例ニ依ル
 4 諸廣告ノ爲メ使用又ハ占用スルモノニシテ其廣告板ノ面積カ敷地ノ面積ヨリ廣キトキハ廣告板ノ面積ニ依ル前項廣告板ノ面積ハ利用セラレタル各面ノ面積ヲ加算シタルモノヲ謂フ

◎曳船道使用料及徴收方

(明治四十二年四月二十二日大阪市參事會議決)
 同 年六月八日土木課通牒
 改正(大正九年四月、同十一年一月)

曳船道使用料別表ノ通増額ノ儀本年五月二十六日付ヲ以テ其ノ筋ヨリ認可相成候條認可ノ日ヨリ日割計算ヲ以テ増徴スルコトニ御取計相成度此段及通牒候也

曳船道使用料

等級	年坪料金	所 屬	河 川
一 等	11,000		道頓堀川(深里橋上流)、西横堀川(信濃橋上流京町橋ニ至ル)
二 等	8,500		道頓堀川(深里橋下流)、西横堀川(一等以外)、東横堀川、長堀川、京町堀川

三 等	7,000		江戸堀川、阿波堀川(岡崎橋上流)、百間堀川(江之子島橋上流)、立賣堀川、堀江川、海部堀川
四 等	5,500		阿波堀川(岡崎橋下流)、百間堀川(江之子島橋下流)、薩摩堀川、曾根崎川、高津入堀川、古川
五 等	4,000		鯉江川(野田橋下流)
六 等	3,000	同	(野田橋上流)

料金徴收ニ關シテハ河川使用料規程ヲ準用ス

◎廢川敷地處分令

(大正十一年五月三十一日) 勅令 第三〇三號

第一條 本令ニ於テ廢川敷地ト稱スルハ河川法第四十四條ニ規定スル河川敷地ノ公用ヲ廢シタルモノヲ謂フ

第二條 廢川敷地ノ處分ハ其ノ所在地ヲ管轄スル府縣知事之ヲ行フ

第三條 廢川敷地ハ府縣知事内務大臣ノ認可ヲ受ケ之ヲ告示スヘシ

第四條 廢川敷地ノ處分ノ費用ハ府縣ノ負擔トス

第二類 河 川 曳船道使用料及徴收方、廢川敷地處分令

第二類 河 川 廢川敷地處分令

第五條 廢川敷地ニシテ御料地又ハ内務省所管以外ノ國有地ト爲スノ必要アルモノニ付テハ宮内大臣又ハ主務大臣ハ第三條ノ規定ニ依ル告示ノ日ヨリ三月内ニ内務大臣ニ協議スヘシ

2 廢川敷地ニシテ前項ノ協議調ヒタルモノ又ハ内務省所管ノ國有地ト爲スノ必要アルモノニ付テハ内務大臣府縣知事ヲシテ之ヲ御料地又ハ國有地ニ編入セシムヘシ

第六條 河川法第四十四條但書ノ規定ニ依リ廢川敷地ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ前條第一項ニ規定スル期間内ニ府縣知事ニ申請スヘシ

2 前項ノ期間經過後爲シタル申請ト雖府縣知事宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ之ヲ受理スルコトヲ得

第七條 第五條ノ規定ニ依リ御料地若ハ國有地ニ編入セス又ハ河川法第四十四條但書ノ規定ニ依リ私人ニ下付セサル廢川敷地ハ府縣ニ歸屬ス但シ其ノ府縣以外ノ公共團體カ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔シテ施行セラレタル河川ニ關スル工事ニ因リ生シタル廢川敷地ニ付テハ府縣知事内務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ歸屬ヲ定ム

第八條 廢川敷地ニシテ現ニ他ノ公用又ハ公共ノ用ニ供セラルルモノニ付テハ府縣知事ハ内務大臣ノ認可ヲ受ケ前各條ノ規定ニ拘ラス特別ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第九條 廢川敷地ヲ取得シタル者ハ公用ヲ廢シタル日ヨリ其ノ土地ノ所有權ヲ取得ス

附 則

- 1 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 2 本令施行前府縣知事ノ告示シタル廢川敷地ノ處分ニ關シテハ第五條、第六條及第七條但書ノ規定ヲ除クノ外仍從前ノ例ニ依ル

◎河川法第四十七條ニ依レル命令ノ件 (明治三十三年七月十三日) 勅令第三〇〇號

第一條 河川附近ノ土地ノ形狀又ハ家屋其ノ他ノ工作物ニシテ河川ニ害ヲ及ホシ又ハ及ホス虞アルトキハ府縣知事ハ其ノ土地ノ形狀ヲ變更シ又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ改築若ハ除却シ又ハ其ノ所有者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第二條 河川附近ノ土地ニ在ル土砂、竹木等ニシテ河川ニ害ヲ及ホシ又ハ及ホス虞アルトキハ府縣知事ハ其ノ所有者ヲシテ之ヲ除却セシムルコトヲ得

第三條 河川ニ關シ必要アルトキハ府縣知事ハ河川附近ノ土地ニ立入り又ハ之ニ標柱等ヲ設置スルコトヲ得

第四條 左ニ掲ケタル行爲ヲ爲サムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

一 河川附近ノ土地ニ於ケル家屋以外ノ工作物ノ新築、改築又ハ除却

二 河川附近ノ土地ノ掘鑿其ノ他土地ノ形狀ノ變更

三 堤外地ニ於ケル家屋ノ新築、改築若ハ除却又ハ竹木ノ栽植若ハ伐採

第五條 沿岸土地ノ所有者ハ其ノ土地ヲ曳船道ニ供スヘシ

2 前項制限ノ範圍ハ各曳船道ニ付府縣知事之ヲ定ム

第六條 沿堤土地ノ所有者ハ堤防ヨリ雨水ノ自然ニ流レ來ルヲ妨ケ又ハ其ノ土地ノ水ヲ堤防ニ注流セシムル設備ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 第一條、第二條、第三條又ハ第五條ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ府縣ハ相當ノ補償金ヲ下付スヘシ

第二類 河 川 河川法第四十七條ニ依レル命令ノ件

第二類 河 川

河川法第四十七條ニ依レル命令ノ件
河川法第四十八條ニ依レル命令ノ件

第八條 府縣知事ニ於テ第一條ニ依リ土地ノ形狀ヲ變更シ又ハ家屋其ノ他ノ工作物ヲ改築若ハ除却セムトスルトキハ少クトモ十五日前ニ、第三條ニ依リ土地ニ立入り又ハ標柱等ヲ設置セムトスルトキハ少クトモ五日前ニ其ノ所有者及占有者ニ之ヲ通知スヘシ

第九條 左ニ掲ケタル事項及其ノ變更又ハ廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 第一條ニ依ル處分

二 第四條ニ掲ケタル行爲ニシテ重大ナルモノノ許可

第十條 第四條又ハ第六條ノ規定ニ違背シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三箇月以下ノ(重禁錮)ニ處ス

◎河川法第四十八條ニ依レル命令ノ件

(明治三十年十月二十三日) 勅令第三七七號

(改)大正十五年八月二十七日 正(勅令第二八九號)

第一條 此ノ勅令ニ於テ河川トナルヘキ區域ト稱スルハ河川ニ關スル工事ニ因リ新ニ河川トナルヘキ區域ヲ謂フ

第二條 河川トナルヘキ區域竝ニ其ノ附近ノ土地ノ區域ハ府縣知事ニ於テ内務大臣ノ定ムル方法ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第三條 河川トナルヘキ區域ニ於テ其ノ土地ニ固著シテ施設スル工作物又ハ之ニ沿ヒ若ハ之ヲ横

過シ若ハ其ノ地下ニ於テ施設スル工作物ヲ新築、改築若ハ除却セムトスル者ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 工事、營業其ノ他ノ行爲ニシテ河川トナルヘキ區域ノ現狀若ハ新ニ生スヘキ河川ニ影響ヲ及ボスノ虞アルモノハ府縣知事ニ於テ命令ヲ以テ之ヲ禁止若ハ制限シ又ハ許可ヲ受ケシムルコトヲ得

第五條 此ノ勅令ニ依リ許可シタル事項ニ關シテハ府縣知事ハ左ノ場合ニ於テ許可ヲ取消シ若ハ其ノ效力ヲ停止シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ又ハ既ニ施設シタル工作物ヲ改築若ハ除却セシメ又ハ原形ノ回復ヲ命シ又ハ許可セラレタル事項ニ因リテ生スル危害ヲ豫防スル爲ニ必要ナル設備ヲナサシムルコトヲ得

一 工事施行ノ方法若ハ施行後ニ於ケル管理ノ方法公安ヲ害スルノ虞アルトキ

二 許可ノ後ニ起リタル事實ニ因リ必要ヲ生スルトキ

三 河川ニ關スル工事ヲ施行シ又ハ許可ヲ與ヘタルモノノ外ニ工事ヲ許可スル爲ニ必要ナルトキ

四 河川法ニ基キテ發スル命令ノ規程ニ依リ必要ヲ生スルトキ

五 法律命令ニ違背シタルトキ

六 公益ノ爲ニ必要ナルトキ

第六條 此ノ勅令ニ依リ與ヘタル許可ニ關シテハ河川法第二十一條ヲ準用ス

第七條 河川ニ關スル工事ノ爲ニ必要ナルトキハ府縣知事ハ河川トナルヘキ區域ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ材料置場等ニ供シ又ハ已ムヲ得サルトキハ其ノ土地ニ現在スル建設物其ノ他ノ障害物ヲ

第二類 河 川

河川法第四十八條ニ依レル命令ノ件

第二類 河 川

河川法第四十八條ニ依レル命令ノ件
河川行政監督令

除却スルコトヲ得

2 河川トナルヘキ區域ニ沿ヒタル土地ニ關シテハ其ノ地先ニ施行スヘキ工事ノ爲必要ナル場合ニ
限リ前項ヲ適用スルコトヲ得

3 前二項ノ場合ニ關シテハ河川法第三十九條第三項及第六十二條ヲ準用ス

第八條 前條第一項及第二項ノ場合ニ於テハ明治二十九年勅令第二百三十六號第七條ヲ準用ス

第九條 河川法第四十五條及第四十七條ニ基キ河川附近ノ土地ニ關シ發スル命令ニ規定シタル事

第十條 河川法第八條ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ公共團體ノ行政廳ニ命シテ工

事ヲ施行セシムル場合ニ於テハ内務大臣ハ此ノ勅令ニ依リテ府縣知事ノ有スル職權ヲ自ラ施行
スルコトヲ得

第十一條 河川法第八條第一項ノ規定ニ依リ内務大臣ニ於テ自ラ工事ヲ施行シ又ハ公共團體ノ行
政廳ニ命シテ工事ヲ施行セシムル場合ニ於ケル本令ニ依ル府縣知事ノ職權ノ行使ニ付テハ河川
行政監督令第二條第一項第三號第四號及第二項ノ例ニ依ル

◎河川行政監督令

(大正十五年八月二十七日)
勅令 第二九〇號

第一條 河川法又ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ市町村、市町村組合、町村組合又ハ水利組合ノ
行政廳ニ於テ執行スル河川行政及府縣知事ノ命シ又ハ許可シタル事項ニ關シテハ第一條ニ於テ

府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第二條 左ニ掲グル事項竝ニ其ノ變更、停止及廢止ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 河川ノ區域、河川ノ支川及派川竝ニ河川ノ附屬物ノ認定

二 河川(支川及派川ヲ含ム)又ハ河川ノ附屬物ノ全部又ハ一部ニ付大體ニ渉ル一定ノ計畫ニ基
ク改良工事及河川又ハ河川ノ水量ニ著シキ影響ヲ及ボスノ虞アル工事ノ計畫竝ニ施行

三 河川法第十七條及第十八條ノ規定ニ依ル許可ニシテ河川又ハ河川ノ水量ニ著シキ影響ヲ及
ボスノ虞アルモノ

四 河川法第二十條ノ規定ニ依ル處分ニシテ内務大臣ノ認可ヲ經テ許可シタル事項ニ關スルモ

五 河川法第二十九條ノ費用ニシテ河川法第八條第一項又ハ本條第一項第二號ノ工事ニ關スル
モノノ負擔方法

六 河川法第三十二條第一項ノ費用ニシテ國ニ於テ施行スル工事ニ原因スルモノノ負擔方法

七 河川法第四十二條ノ規定ニ依ル使用料又ハ占用料ノ徵收ニシテ發電ノ爲ニスル河川使用ニ
關スルモノ

2 前項第二號及第三號ノ範圍ハ内務大臣之ヲ定ム

第三條 河川法第二十二條及第四十六條第一項ノ規定ニ依ル下級行政廳ノ處分竝ニ其ノ變更、停
止及廢止ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第四條 本令ニ依リ認可ヲ要スル事項ニ付テハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ輕易ナル事項ニ限リ認
可ヲ受ケシメザルコトヲ得

第二類 河 川 河川行政監督令

◎河川法第五十八條ニ依レル罰則ノ件

(明治三十三年四月十七日 勅令 第一四八號)

第一條 許可ヲ受ケスシテ河川法第十七條ニ記載スル工事ヲ施行シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ一年以下ノ(重禁錮)ニ處ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三箇月以下ノ(重禁錮)ニ處ス

一 許可ヲ受ケスシテ河川ノ敷地若ハ流水ヲ占用シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者

二 河川法第二十三條ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ地方行政廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ノ命ニ從ハサル者

三 許可ヲ受ケスシテ舟筏ヨリ通航料ヲ徵收シ又ハ詐僞ノ手段ヲ以テ其ノ許可ヲ受ケタル者

三 河川法第二十條及第十八條ノ規定ニ違フ者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三箇月以下ノ(重禁錮)ニ處ス
二 河川法第二十二條ノ規定ニ違フ者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三箇月以下ノ(重禁錮)ニ處ス
一 河川法第二十一條ノ規定ニ違フ者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ三箇月以下ノ(重禁錮)ニ處ス

水利組合法

(明治四十一年四月十日 三日法律第五〇號)

改(大正十五年六月二十日 四日法律第七九號)

第一章 總 則

第一條 水利土功ニ關スル事業ニシテ特別ノ事情ニ依リ府縣其ノ他ノ地方公共團體ノ事業ト爲スコトヲ得サルモノアル場合ニ於テハ水利組合ヲ設置スルコトヲ得

第二條 水利組合ハ法人トス

第三條 水利組合ハ組合規約ヲ設ケ組合ニ關スル重要ノ事項ヲ規定スヘシ

2 組合規約ハ之ヲ告示スヘシ其ノ改正アリタルトキ亦同シ

第四條 水利組合ハ分チテ左ノ二種トス

一 普通水利組合

第五條 普通水利組合ハ灌溉排水ニ關スル事業ノ爲設置スルモノトス

第六條 普通水利組合ハ組合事業ノ爲利益ヲ受クル土地ヲ以テ區域トシ其ノ區域内ニ於テ土地ヲ所有スル者ヲ以テ組合員トス但シ舊慣アルモノハ其ノ舊慣ニ依リ區域ヲ劃スルコトヲ得

第七條 水害豫防組合ハ水害防禦ニ關スル事業ノ爲設置スルモノトス

第二類 河 川 水利組合法

第八條 水害豫防組合ハ水害ヲ受クヘキ土地ヲ以テ區域トシ其ノ區域内ニ於テ土地、
家屋及組合規約ニ指定スル工作物ヲ所有スル者ヲ以テ組合員トス但シ舊慣アルモノ
ハ其ノ舊慣ニ依リ區域ヲ劃スルコトヲ得

第九條 水害豫防組合ニ於テ其ノ區域全部ニ涉リ灌溉排水ニ關スル事業ノ必要アルト
キハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ其ノ事業ヲ兼營スルコトヲ得
2 前項ノ場合ニ於テ灌溉排水ノ事業ニ關スル部分ニ付テハ普通水利組合ノ規定ヲ準用
ス

第二章 組合ノ設置及廢止

第十條 水利組合ヲ設置セムトスルトキハ府縣知事ニ於テ組合區域ヲ指定シ關係地ノ
市町村長ノ内一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ但シ普通水利組合ノ設置ニ付テハ
組合員タルヘキ者五人以上ノ申請又ハ組合事業ニ關係アル市町村長ノ具申アル場合
ニ限ル(大正十五年法律第七九號改正)

2 第三十三條第三項ノ規定ハ創立委員ニ之ヲ準用ス

第十一條 創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ關係者ノ總會議ニ付スヘシ關係者百人以上
アルトキハ府縣知事ノ許可ヲ得テ便宜總代人ヲ選ハシメ其ノ集會ヲ以テ總會議ニ充
ツルコトヲ得
2 總會議又ハ總代人會ノ議長ハ創立委員ヲ以テ之ニ充ツ創立委員數人アルトキハ府縣

知事其ノ中一人ヲ指定ス

3 總會議又ハ總代人會ハ關係者又ハ總代人ノ三分ノ二以上出席スルニ非サレハ會議ヲ
開クコトヲ得ス但シ特別ノ事情アルトキハ創立委員ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ關
係者又ハ總代人ノ代人ヲ許スコトヲ得

4 總會議又ハ總代人會ノ議事ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決ス
ル所ニ依ル
5 總會議費又ハ總代人會費其ノ他創立ニ關スル費用ハ組合設置ノ後組合費ヨリ之ヲ支
辨スヘシ

第十二條 創立委員ハ組合規約ノ議決ヲ經タルトキ府縣知事ニ其ノ許可ヲ請フヘシ
第十三條 普通水利組合關係者ノ總會議又ハ總代人會ニ於テ議決シタル組合規約又ハ
其ノ議決ノ方法法令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シ
テ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

2 水害豫防組合關係者ノ總會議若ハ總代人會成立セス又ハ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決
セス又ハ議決スルモ其ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ニ於テ其ノ議決
スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

第十四條 水利組合ハ組合規約ノ許可又ハ前條第二項ニ依ル組合規約ノ設定ニ依リ成
立ス
2 前項ノ場合ニ於テハ府縣知事ハ組合設置ノ旨ヲ告示スヘシ

第十五條 水利組合ノ廢置分合又ハ區域ノ變更ハ普通水利組合ニ在リテハ組合會ノ議決又ハ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ之ヲ行ヒ水害豫防組合ニ在リテハ組合會ノ意見ヲ徵シ府縣知事之ヲ行フ

2 前項ノ場合ニ於テ組合規約ノ設定若ハ改正又ハ財産處分ヲ要スルトキハ組合會ノ議決又ハ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ但シ水害豫防組合ニ於テ協議調ハサルトキハ府縣知事之ヲ定ム

3 水利組合ハ民法上ノ義務ヲ完了スルニ非サレハ之ヲ廢止スルコトヲ得ス

4 普通水利組合ノ區域ヲ變更スル場合ニ於テ新ニ組合區域ニ編入セラレル土地アルトキハ管理者ハ其ノ土地ノ關係者ノ同意又ハ關係者ノ總會議若ハ總代人會ノ同意ヲ得ルヲ要ス

5 前項總會議又ハ總代人會ニ關シテハ第十一條ノ規定ヲ準用ス但シ創立委員ノ職務ハ管理者之ヲ行フ

第十六條 水利組合ノ廢置分合又ハ區域ノ變更アリタルトキハ府縣知事ハ之ヲ告示スヘシ

第三章 組合ノ會議

第十七條 水利組合ニ組合會ヲ置ク

2 組合會議員選舉人被選舉人ノ資格議員ノ定數任期及選舉ニ關スル事項ハ組合規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

3 組合會議員ノ選舉ヲ終リタルトキハ管理者ハ直ニ選舉錄ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ第一次監督官廳ニ報告スヘシ

4 當選者定リタルトキハ管理者ハ直ニ其ノ住所氏名ヲ告示シ併セテ之ヲ第一次監督官廳ニ報告スヘシ

5 組合會議員ノ選舉ニ付テハ衆議院議員選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス

第十九條 選舉ノ規定ニ違反スルコトアルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ限リ其ノ選舉ノ全部又ハ一部ヲ無効トス

2 當選者ニシテ被選舉權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

第二十條 選舉人選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ告示ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ管理者ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ管理者ハ十四日以内ニ組合會ノ決定ニ付スヘシ組合會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ之ヲ決定スヘシ

2 前項組合會ノ決定ニ不服アル者ハ第一次監督官廳ニ訴願スルコトヲ得

3 第一次監督官廳ニ於テ選舉又ハ當選ノ效力ニ關シ異議アルトキハ選舉又ハ當選ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ處分スルコトヲ得

4 前項ノ處分アリタルトキハ其ノ前後ニ爲シタル異議ノ申立及組合會ノ決定ハ無効トス

- 5 本條第一次監督官廳ノ處分又ハ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
(大正十五年法律第七九號改正)
- 6 組合會議員ハ選舉又ハ當選ニ關スル異議ノ決定訴願ノ裁決確定シ又ハ判決アル迄ハ
會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス
- 第二十一條 組合會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ニ
關スル異議ハ組合員之ヲ決定ス
- 2 管理者ニ於テ組合會議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ組合會ノ
決定ニ付スヘシ
- 3 本條組合會ノ決定ニ不服アル者ハ第一次監督官廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ
行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得 (同上)
- 4 第二十條第六項ノ規定ハ本條ノ場合ニ之ヲ準用ス
- 第二十二條 前二條ニ規定スル異議ノ決定願訴ノ裁決及第二十條第三項ノ處分ハ直ニ
之ヲ告示スヘシ
- 第二十三條 組合會ハ組合ニ關スル事件ヲ議決ス
- 2 組合會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ
- 二 組合費ヲ以テ支辨スヘキ事業

- 三 歲入出豫算ヲ定ムル事
- 四 決算報告ヲ認定スル事
- 五 法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料手数料加入金組合費及夫役現品ノ賦課
徴收ニ關スル事
- 六 不動産ノ管理處分及取得ニ關スル事
- 七 積立基金ノ設置管理及處分ニ關スル事
- 八 歲入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ
爲ス事
- 九 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事
- 十 組合吏員ノ身元保證ニ關スル事
- 十一 組合ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事
- 第二十四條 組合會ハ組合ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ管理者ノ報告ヲ請求
シテ事務ノ管理議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得
- 2 組合會ハ議員中ヨリ委員ヲ選舉シ管理者又ハ其ノ指定シタル吏員立會ノ上實地ニ就
キ前項組合會ノ權限ニ屬スル事件ヲ行ハシムルコトヲ得
- 第二十五條 組合會ハ管理者ヲ以テ議長トス管理者故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ
職務ヲ代理ス管理者及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選
舉スヘシ

2 組合會ハ組合ノ區域數市町村ニ涉ルモノニ在リテハ組合規約ヲ以テ議員中ヨリ議長副議長各一人ヲ選舉スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ前項ノ例ニ依ル

3 前項選舉ニ關スル事項ハ組合規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

4 議員中ヨリ議長ヲ選舉スル組合ニ在リテハ議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ管理者ニ報告スヘシ

第二十六條 管理者及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ於テ議事ニ付辯明ヲ爲スコトヲ得

第二十七條 組合會ハ毎年一回通常會ヲ開キ其ノ他臨時ノ必要アル毎ニ臨時會ヲ開ク臨時會ニ付スヘキ事件ハ招集ノ告知ト共ニ之ヲ告知スヘシ但シ其ノ開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ管理者ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得

3 組合會ハ管理者之ヲ招集ス議員定數三分ノ一以上ノ請求アルトキハ管理者ハ之ヲ招集スヘシ

4 管理者ハ必要アル場合ニ於テハ會期ヲ定メテ組合會ヲ招集スルコトヲ得

5 組合會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 管理者ヨリ傍聴禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長ニ於テ傍聴禁止ノ必要アリト認メタルトキ

三 議員三人以上ノ發議ニ依リ傍聴禁止ヲ可決シタルトキ

6 前項第三號ニ依ル發議ハ討論ヲ用キス其ノ可否ヲ決スヘシ

7 招集ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

8 組合會ハ管理者之ヲ閉閉ス

第二十八條 組合會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ更ニ出席ヲ催告シ仍半數ニ滿タサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 組合會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十條 組合規約ノ設定改正及普通水利組合ノ廢置分合又ハ區域ノ變更ニ關スル議決ハ議員定數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第三十一條 組合會ノ職務權限及處務規程ニ關シテハ本章中規定スルモノノ外市制町村制ノ規定ヲ準用ス

第三十二條 特別ノ事情アル組合ニ於テハ府縣知事ハ組合會ヲ設ケス組合員ノ總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得但シ總會ニ出席スヘキ組合員ニ關シテハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル

2 組合總會ニ關シテハ組合會ニ關スル規定ヲ準用ス

第四章 組合ノ管理

第三十三條 府縣知事ハ水利組合關係地ノ市町村長ノ内一人ヲ指定シ其ノ組合ノ事務ヲ管理セシムヘシ但シ府縣知事必要アリト認ムルトキハ官吏ヲ指定シ組合ノ事務ヲ管理セシムルコトヲ得 (大正十五年法律第七九號改正)

2 府縣知事ニ於テ管理者ヲ指定シタルトキハ直ニ之ヲ告示スヘシ

3 管理者タル市町村長故障アルトキハ其ノ代理者之ヲ代理ス (同上)

4 組合ノ區域數市町村ニ涉ル場合ニ於テ選舉區又ハ選舉分會ヲ設ケタルトキハ各市町村長又ハ其ノ代理者ハ管理者ノ求ニ依リ議員選舉ニ關スル事務ヲ管理スヘシ組合員及組合費賦課物件ノ異動ニ關スル事務ニ付テモ亦同シ

第三十四條 組合ノ出納其ノ他會計事務ハ官吏管理者タル場合ハ府縣知事ノ指定シタル官吏又ハ府縣吏員ヲシテ之ヲ掌ラシメ市町村長管理者タル場合ハ其ノ市町村收入役ヲシテ之ヲ掌ラシムヘシ (同上)

2 特別ノ事情アル場合ニ於テハ管理者ニ於テ第三十六條ノ吏員中ニ就キ會計事務ヲ掌ル者ヲ定ムルコトヲ得

3 前項會計事務ヲ掌ル吏員ニ付テハ第一次監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十五條 組合ハ組合規約ヲ以テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

2 委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ組合規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三十六條 組合ハ書記技術員其ノ他ノ有給吏員ヲ置クコトヲ得

2 吏員ハ管理者之ヲ任免ス

第三十七條 管理者ハ組合ヲ代表シ組合一切ノ事務ヲ擔任ス

2 管理者ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 組合會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發シ及其ノ議決ヲ執行スル事
- 二 財産及造營物ヲ管理スル事
- 三 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事
- 四 證書及公文書類ヲ保管スル事
- 五 法令又ハ組合會ノ議決ニ依リ使用料手数料加入金組合費及夫役現品ヲ賦課徴收スル事

第三十八條 管理者ハ組合吏員ヲ指揮監督シ其ノ任命ニ係ル組合吏員ニ對シテハ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス

第三十九條 組合會ノ議決若ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法令若ハ組合規約ニ背クト認ムルトキハ管理者ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議ニ付シ又ハ再選舉ヲ行ハシメ仍議決ニ付テハ其ノ議決ヲ改メサルトキハ第一次監督官廳ノ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ指揮ヲ請フコトヲ得

2 監督官廳ハ前項ノ議決又ハ選舉ヲ取消スコトヲ得但シ指揮ノ申請アリタルトキハ此

ノ限ニ在ラス

3 前二項府縣知事ノ處分ニ不服アル組合會ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得(大正十五年法律第七九號改正)

4 組合會ノ議決公益ヲ害シ又ハ組合ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ管理者ハ其ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シ其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ其ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ第一次監督官廳ノ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ指揮ヲ請フコトヲ得

5 前項第一次監督官廳ノ處分ニ不服アル組合會ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得(同上)

第四十條 組合會成立セス又ハ第二十八條但書ノ場合ニ於テ仍會議ヲ開クコト能ハサルトキハ管理者ハ第一次監督官廳ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

2 組合會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ前項ノ例ニ依ル

3 組合會ノ決定スヘキ事件ニ關シテハ前二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル管理者ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

4 本條ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ組合會ニ報告スヘシ

第四十一條 組合會ノ權限ニ屬スル事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ組合會成立セス又ハ管理者ニ於テ之ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキハ管理者ハ專決處分シ次回ノ會議ニ於テ之ヲ組合會ニ報告スヘシ

2 前項管理者ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第四十二條 委員ハ管理者ノ指揮監督ヲ承ケ財産又ハ營造物ヲ管理シ其ノ他組合事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第四十三條 吏員ハ管理者ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第四十四條 組合會議員及委員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得官吏又ハ市町村長ニ於テ管理者タル職務ヲ行フ爲要スル費用第三十三條第四項ノ事務ヲ行フ爲要スル費用及官吏、府縣吏員又ハ市町村收入役ニ於テ組合ノ會計事務ヲ行フ爲要スル費用ニ付亦同シ(大正十五年法律第七九號改正)

2 吏員ニハ退隱料退職給與金死亡給與金及遺族扶助料ヲ支給スルコトヲ得

第四十五條 費用辨償額給料額旅費額及其ノ支給方法ハ組合會ノ議決ヲ經第一次監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム

2 退隱料退職給與金死亡給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ組合會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ之ヲ定ム

第四十六條 費用辨償給料旅費退隱料退職給與金死亡給與金及遺族扶助料ハ組合ノ負擔トス

第五章 組合ノ財務

第四十七條 組合ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令ニ依リ組合ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支

辨スル義務ヲ負フ

第四十八條

普通水利組合費ハ土地ニ對シテ之ヲ賦課シ水害豫防組合費ハ土地及家屋其ノ他第八條ニ依ル工作物ニ對シテ之ヲ賦課スルモノトス但シ特別ノ事情アルモノハ土地ニ對シテノミ之ヲ賦課スルコトヲ得

2 普通水利組合ニ於テハ新ニ區域内ニ編入スル土地ニ付組合費ノ外一時ノ加入金ヲ徵收スルコトヲ得

第四十九條

組合ハ其ノ事業ノ爲夫役現品ヲ組合員ニ賦課スルコトヲ得

2 水害豫防組合ニ在リテハ夫役ニ限り其ノ區域内ノ總居住者ニ之ヲ賦課スルコトヲ得

3 夫役現品及其ノ代納ニ關スル規定ハ組合規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十條

非常災害ノ爲必要アルトキハ組合ハ他人ノ土地ヲ一時使用シ又ハ其ノ土石竹木其ノ他ノ現品ヲ使用シ若ハ收用スルコトヲ得但シ其ノ損失ヲ補償スルコトヲ要ス

2 水害豫防組合ニ於テハ前項ノ外出水ノ爲危險アルトキニ限り管理者警察官又ハ監督官廳ニ於テ組合區域内ノ總居住者ヲシテ防禦ニ從事セシムルコトヲ得

3 第一項ニ依リ補償スヘキ金額ハ協議ニ依リ之ヲ定ム協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ府縣知事之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

4 第一項土地ノ一時使用ニ關スル組合ノ處分ニ不服アル者ハ第一次監督官廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得(大正十五年法律第七九號改正)

第五十條

組合内ノ一部ニ對シテ利益アル事件ニ關シテハ組合ハ不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ組合内ノ一部ニ對シテ賦課スルコトヲ得

第五十二條

組合費ノ賦課ヲ免除スヘキモノニ關シテハ市町村税ノ例ニ依ル

第五十三條

組合ハ其ノ營造物ヲ事業ノ妨害ト爲ラサル範圍内ニ於テ他ノ目的ニ使用セシムルコトヲ得

第五十四條

組合ノ區域數市町村ニ涉ルトキハ各市町村ハ管理者ノ求ニ依リ其ノ市町村内ニ於ケル組合費其ノ他組合ノ收入ノ賦課徵收ヲ爲スヘシ

第五十五條

市町村ハ避クヘカラサル災害ニ因リ既收ノ組合費其ノ他組合ノ收入ヲ失ヒタルトキハ其ノ納入義務ノ免除ヲ組合ニ請求スルコトヲ得

第五十六條

組合ニ於テ前項ノ請求ニ應セサルトキハ市町村ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ組合ノ第一次監督官廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アルトキハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得(大正十五年法律第七九號改正)

第五十七條

前項ノ裁決ニ對シテハ組合ヨリモ亦訴願ヲ提起スルコトヲ得

第五十八條

本條ノ裁決書ハ之ヲ市町村及組合ニ交付スヘシ

第五十六條 組合費其ノ他組合ノ收入ノ督促及滯納處分ニ關シテハ市町村税ノ例ニ依ル

2 前項ノ場合ニ關シテハ第五十四條第一項ノ規定ヲ準用ス

第五十七條 組合費其ノ他組合ノ收入ノ督促ニ付テハ手數料ヲ徵收スルコトヲ得

2 前條第二項ノ場合ニ於テハ前項ノ督促手數料ヲ其ノ市町村ニ交付スヘシ

3 組合ノ徵收金ハ市町村ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還付及時效ニ付テハ國税ノ例ニ依ル

第五十八條 管理者ハ組合費ノ賦課ヲ受ケタル者ノ中特別ノ事情アル者ニ對シ會計年度内ニ限り其ノ納付ノ延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ超ユル場合ハ組合會ノ議決ヲ經ヘシ

2 管理者ハ特別ノ事情アル者ニ限り組合會ノ議決ヲ經テ組合費ヲ減免スルコトヲ得

第五十九條 組合費及夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ賦課令狀ノ交付後三月以内ニ管理者ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

2 加入金使用料及手數料ノ徵收ニ付テモ前項ノ例ニ依ル

3 本條ノ異議ハ組合會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ第一次監督官廳ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得 (大正十五年法律第七九號改正)

4 組合費其ノ他組合ノ收入ノ滯納處分ニ不服アル者ハ第一次監督官廳ニ訴願シ其ノ裁

決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得 (同上)

5 組合費其ノ他組合ノ收入ノ滯納處分中差押物件ノ公賣ハ處分ノ確定ニ至ル迄執行ヲ停止ス

第六十條 組合ハ特定ノ目的ノ爲積立基金ヲ設クルコトヲ得

第六十一條 組合ハ其ノ事業ノ關係上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 組合ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ組合永久ノ利益トナルヘキ支出ヲ要スル爲又ハ天災事變等ノ爲已ムヲ得サル場合ニ限り組合債ヲ起スコトヲ得

2 組合債ヲ起スニ付組合會ノ議決ヲ經ルトキハ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ

3 組合ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

4 前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第六十三條 管理者ハ每會計年度ノ歳入出豫算ヲ調製シ會計年度前通常組合會ノ議決ニ付スヘシ

2 管理者ハ組合會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

3 組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

第六十四條 組合費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ組合會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各年度ノ支出

額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第六十五條 豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

2 豫備費ハ組合會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第六十六條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ第一次監督官廳ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ

第六十七條

組合會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ管理者ヨリ其ノ謄本ヲ組合ノ會計事務ヲ掌ル官吏吏員ニ交付スヘシ

2 會計事務ヲ掌ル官吏吏員ハ管理者又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナキトキ又ハ豫備費支出及費目流用其ノ他財務ニ關スル規定ニ依ラサルトキ亦同シ

第六十八條

組合ノ支拂金ニ關スル時効ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第六十九條

組合ノ出納ハ翌年度六月三十日ヲ以テ閉鎖ス

2 決算ハ出納閉鎖後一月以内ニ證書類ヲ併セテ會計事務ヲ掌ル官吏吏員ヨリ之ヲ管理者ニ提出スヘシ管理者ハ之ヲ審査シ意見ヲ付シテ次ノ通常會迄ニ組合會ノ認定ニ付スヘシ

3 決算及其ノ認定ニ關スル組合會ノ議決ハ之ヲ第一次監督官廳ニ報告シ且決算ハ其ノ要領ヲ告示スヘシ

4 決算ノ認定ニ關スル會議ニ於テハ管理者及其ノ代理者共ニ議長タルコトヲ得ス

第七十條 豫算調製ノ式及費目流用其ノ他財務ニ關シ必要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第六章 組合ノ聯合

第七十一條

水利組合ニ於テ共同事業ヲ爲スノ必要アルトキハ其ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ得テ水利組合ノ聯合ヲ設クルコトヲ得

2 水利組合聯合ハ之ヲ法人トス

3 水利組合聯合ニシテ其ノ聯合組合ノ數ヲ増減シ又ハ共同事業ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ組合ノ協議ニ依リ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ其ノ聯合ヲ解カムトスルトキ亦同シ

4 水利組合聯合ニ關シテハ水利組合ニ關スル規定ヲ準用ス其ノ準用シ難キ事項及特ニ必要ナル事項ハ内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第七章 組合ノ監督

第七十二條 組合ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス(大正十五年法律第七九號改正)

2 監督官廳ハ組合事務ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スコトヲ得

3 上級監督官廳ハ下級監督官廳ノ組合事務ニ關シテ爲シタル命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

第七十三條

本法ニ規定スル異議ノ申立又ハ訴願ノ提起ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ

第二類 河 川 水利組合法

二〇五

裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ其ノ交付ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ爲スヘシ但シ本法中別ニ期間ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

2 本法ニ規定スル行政訴訟ハ處分ヲ爲シ又ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ其ノ交付ヲ受ケサル者ハ告示ノ日ヨリ二十一日以内ニ之ヲ提起スヘシ

3 本法ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ理由ヲ付シ之ヲ申立人ニ交付スヘシ

4 本法ニ規定スル異議ノ申立ニ關スル期間ノ計算ニ付テハ訴訟法ノ規定ニ依ル

5 異議ノ申立アルモ處分ノ執行ハ之ヲ停止セス但シ行政廳ハ其ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムルトキハ之ヲ停止スルコトヲ得

第七十四條 監督官廳ハ必要アル場合ニ於テハ期間ヲ定メテ組合會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第七十五條 內務大臣ハ組合會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

2 組合會解散ノ場合ニ於テハ三月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ

第七十六條 組合ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命スル所ノ費用ヲ豫算ニ載セサルトキハ第一次監督官廳ハ理由ヲ示シテ其ノ費用ヲ豫算ニ加フルコトヲ得

2 組合又ハ管理者其ノ他ノ官吏吏員ニ於テ執行スヘキ事件ヲ執行セサルトキハ第一次監督官廳ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得但シ其ノ費用ハ組合ノ負擔トス

3 本條ノ處分ニ不服アル組合又ハ管理者其ノ他ノ官吏吏員ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得 (大正十五年法律第七九號改正)

第七十七條 組合ニ於テ負債ヲ起シ竝起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ變更セムトスルトキハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ但シ第六十二條第三項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

第七十八條 左ニ掲クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

一 組合規約ヲ設定改正スル事

二 不動産ノ管理及處分ニ關スル事

三 不均一ノ賦課ヲ爲シ又ハ組合内ノ一部ニ對シ特ニ賦課ヲ爲ス事

四 加入金使用料、手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

五 積立基金ノ設置管理及處分ニ關スル事

六 寄附及補助ヲ爲ス事

七 繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事

第七十九條 組合ノ事務ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得

第八十條 組合ノ事務ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ受クヘキ事件中其ノ輕易ナルモノハ命令ノ規定ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ下級監督官廳ニ委任スルコトヲ得

第八十一條 監督官廳タル府縣知事ハ第三十五條ノ委員及第三十六條ノ吏員ニ對シ懲

戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス (大正十五年法律第七九號改正)

2 府縣知事ノ行ヒタル解職ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得 (同上)

3 府縣知事ハ吏員ノ解職ヲ行ハムトスル前其ノ停職ヲ命シ且場合ニ依リ給料又ハ報酬ヲ支給セシメサルコトヲ得

4 懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間水利組合ノ公職ニ選舉セラレ又ハ任命セララルコトヲ得ス

第八十二條 組合吏員ノ服務紀律賠償責任身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第八章 雜 則

第八十三條 本法ノ規定ニ依リ初テ議員ヲ選舉スル場合ニ於テ組合會ノ議決スヘキ事項ハ其ノ成立ニ至ル迄管理者ニ於テ之ヲ行フヘシ

第八十四條 本法ノ規定ニ依リ府縣知事ノ職權ニ屬スル事件ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ内務大臣ニ於テ其ノ事件ヲ管理スヘキ府縣知事ヲ指定スヘシ

第八十五條 本法ハ市制町村制ヲ施行セサル地ニハ之ヲ施行セス勅令ヲ以テ別ニ其ノ制ヲ定ム

附 則

第八十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (明治四十一年勅令第九十號ヲ以テ同年十月一日施行)

2 水利組合條例ハ之ヲ廢止ス

第八十七條 本法施行ノ際現ニ存スル水利組合ハ本法ニ依リ設置シタルモノト看做ス

第八十八條 水利組合條例ニ依リ爲シタル諸般ノ行爲ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第八十九條 水利組合條例ニ依リ爲シタル處分ニ對スル異議訴願又ハ訴訟ニ關シテハ水利組合條例ニ依ル

第九十條 本法施行ノ際現ニ存スル舊町村會又ハ水利土功會ニシテ其ノ目的トスル事業カ本法ノ規定ニ牴觸セサルトキハ之ヲ本法ノ規定ニ依リ設置シタル水利組合ト看做ス

2 前項ノ場合ニ於テ從來ノ吏員及議員ハ總テ其ノ職ヲ失フモノトス

3 第一項ノ水利組合及其ノ管理者ハ府縣知事ニ於テ直ニ之ヲ告示スヘシ

4 前項ノ告示アリタルトキハ管理者ハ遲滯ナク組合規約ヲ定メ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ

附 則 (大正十五年六月法律第七九號)

1 本法ハ郡長廢止ノ日ヨリ之ヲ施行ス

2 本法施行ノ際必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二類 河 川 洪水防禦準備規程

二一〇

◎洪水防禦準備規程

(大正七年六月十一日) 改(大正十五年六月) 府令第五六號 正(府令第七五號)

第一條 洪水ノ害ヲ受クヘキ地域ト認メ特ニ指定ヲ受ケタル市町村其ノ他ノ公共團體ハ本規程ニ依リ豫メ水防員ノ設置、水防ノ設備其ノ他洪水防禦ノ準備ヲ爲スヘシ

第二條 水防員ノ組織ハ知事ニ於テ特ニ命スル場合ヲ除ク外左ノ各號ニ準據スヘシ

水防長 (水防事務ヲ掌理スル者)

一名

水防部長 (水防事務ヲ分擔シ又ハ水防長ノ事務ヲ代理スル者)

若干名

水防組頭 (水防部長ノ命ヲ承ケ部下ヲ指揮スル者)

若干名

水防小頭 (水防組頭ヲ補佐シ水防組頭故障アルトキ之カ代理ヲ爲ス者)

若干名

水防手 (水防長以下ノ命ヲ承ケ水防ニ從事スル者)

若干名

2 前項ノ水防員ハ市町村長又ハ其ノ他ノ公共團體ノ管理者ニ於テ命免スヘシ但シ水防長、水防部長ノ命免ハ知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第三條 水防長ニ於テ出水ノ虞アリト認ムルトキハ水防員ヲシテ量水標ヲ監視セシメ洪水警戒水位ニ達シタルトキハ直ニ電信電話又ハ特夫ヲ以テ其ノ旨知事ニ報告シ洪水防禦ノ措置ヲ爲スヘシ

2 前項ノ場合ニ於テハ其ノ水位ヲ直近下流水防分區又ハ水害防禦團體ニ通報スルコトヲ要ス爾後増水一尺以上ニ及フトキ亦同シ

第四條 水防設備ハ左ノ各號ニ準據スヘシ

一 材料藏置場

材料藏置場ハ堤防又ハ堤防附近若ハ防禦スヘキ工作物附近ニ設置シ材料保存ニ適當ナル設備ヲ爲スヘシ

藏置場ハ堤防ニ對シテハ三百間乃至千間毎ニ一箇所ヲ設ケルコトヲ要ス

二 量水標

沿川町村又ハ其ノ他ノ公共團體ハ其ノ地域内ニ於ケル洪水防禦準備ヲ要スル各箇所毎ニ一箇所以上

三 器具材料

空俵、繩、杭木、竹、鐵線、粗朶、土、蝸木、掛矢、鋸、鎌、鍬、手斧、筵、シヨベル、提燈、篝火用燃料、小車、小船

量水標ノ構造其ノ建設位置、器具材料ノ種類、數量其ノ藏置場ノ位置及人夫、車馬其ノ他物件等ノ徵收方法ハ豫メ知事ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

2 前項ノ器具材料ハ毎年四月末日迄ニ準備シ直ニ知事ニ届出テ検査ヲ受クヘシ

第五條 第四條第三號ノ材料中竹ハ生立ノ竹林ヲ以テ藏置ニ代ユルコトヲ得

2 前項ノ場合ニ於テハ左ノ事項ヲ記載シタル標札ヲ建設スヘシ

一 洪水防禦準備材料タルコト

一 使用シ得ヘキ材料ノ數量

一 市町村又ハ公共團體ノ名稱

第六條 洪水防禦ノ爲器具材料ノ全部若ハ一部ヲ使用シ又ハ其ノ事由ニ依リ準備スヘキ員數ニ不足ヲ生シタルトキハ直ニ之ヲ補充スヘシ

第二類 河 川 洪水防禦準備規程

二一一

第二類 河 川 洪水防禦準備規程

第七條 市町村長又ハ其ノ他ノ公共團體ノ管理者ハ洪水防禦ノ方法並之カ練習ニ關スル規程ヲ設ケ知事ノ認可ヲ受ケヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第四條ノ期限ハ本令施行ノ際ニ限り第一條ノ指定ヲ受ケタル日ヨリ三十日トス

◎洪水防禦ヲ爲スヘキ市町村及公共團體指定

(大正七年六月十二日 府告第一六〇號)

改(大正七年七月告示第一七九號) 正(昭和四年九月同 第四九七號)

大正七年六月大阪府令第五十六號洪水防禦準備規程第一條ニヨリ洪水防禦ヲ爲スヘキ市町村及公共團體ヲ左ノ通指定ス

淀川左岸ノ洪水防禦準備ヲ爲スヘキ市町村及公共團體

淀川右岸ノ洪水防禦準備ヲ爲スヘキ市町村及公共團體

淀川右岸ノ洪水防禦準備ヲ爲スヘキ市町村及公共團體

大和川右岸ノ洪水防禦準備ヲ爲スヘキ市町村及公共團體

大和川北岸第一水害豫防組合

中河内郡 堅下村、南高安村、曙川村、八尾町、中高安村、彌刀村、西郡村、巽村、長瀬村、久寶寺村、大正村、瓜破村、矢田村

【東成郡 喜連村、南百濟村、北百濟村、田邊町、生野村、平野郷町】(大阪市)

運 河 法

(大正二年四月九日 法律第一六號) 改(大正四年一月 法律第三號)

第一條 一般運送ノ用ニ供スル目的ヲ以テ運河ヲ開設セムトスル者ハ内務大臣ノ免許ヲ受ケヘシ

第二條 免許ヲ受ケタル者ハ内務大臣ノ指定シタル期限内ニ工事設計ノ認可ヲ地方長官ニ申請スヘシ

第三條 國、公共團體又ハ行政廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ運河ニ接續若ハ接近シ又ハ之ヲ横斷シテ河川、溝渠、道路、橋梁、鐵道、軌道其ノ他公共ノ用ニ供スルモノヲ造設スルモ免許ヲ受ケタル者ハ運河ノ效用ニ妨ナキ限り之ヲ拒ムコトヲ得ス

2 前項ノ場合ニ於テ内務大臣又ハ地方長官ハ公益上必要ト認ムルトキハ免許ヲ受ケタル者ニ命シ接續、横斷ノ場所ニ於ケル設備ヲ共用ニ供セシメ又ハ之ヲ變更セシムルコトヲ得

第四條 前條第一項ノ場合ニ於テ運河ノ效用ニ妨アリヤ否ニ付爭アルトキ又ハ同條第二項ノ場合ニ於テ設備ノ共用若ハ變更ニ要スル費用ノ負擔ニ付協議調ハサルトキハ

地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第五條 工事カ其ノ設計又ハ免許、許可若ハ認可ノ條件ニ違反スルトキハ地方長官ハ其ノ改築、除却又ハ停止ヲ命スルコトヲ得

第二類 河 川 運河法

- 第六條 工事ノ全部又ハ一部竣功シ運送ヲ開始セムトスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ
- 第七條 免許ヲ受ケタル者ハ通航料其ノ他運河使用ニ關スル規程ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ
- 2 地方長官ニ於テ公益上必要ト認ムルトキハ前項ノ規程ノ變更ヲ命スルコトヲ得
- 第八條 内務大臣又ハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ヨリ事業ノ報告ヲ徴シ又ハ其ノ狀ヲ検査スルコトヲ得
- 第九條 内務大臣又ハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ニ對シ運河及附屬物件ノ維持修繕ヲ命シ其ノ他公益上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得
- 第十條 運河及附屬物件ハ免許ノ效力存続スル間及其ノ效力消滅後一年間ハ内務大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス
- 第十一條 株式會社又ハ株式合資會社カ事業經營者タル場合ニ於テハ株式ノ第一回拂込金額ハ株金ノ十分一迄下ルコトヲ得
- 第十二條 左ニ掲クルモノヲ以テ運河用地トス
 - 一 水路用地及運河ニ屬スル道路、橋梁、堤防、護岸、物揚場、繫船場ノ築設ニ要スル土地
 - 二 運河用通信、信號ニ要スル土地
 - 三 上屋、倉庫等ノ建設ニ要スル土地

- 四 運河ニ要スル船舶、器具、機械ヲ修理製作スル工場ノ建設ニ要スル土地
- 五 職務上常住ヲ要スル運河從事員ノ舍宅及從事員ノ駐在所等ノ建設ニ要スル土地
- 2 前項第三號乃至第五號ニ掲クル土地ハ運河ニ沿ヒタルモノニ限ル
- 第十三條 明治四十二年法律第二十八號ハ運河ノ抵當ニ之ヲ準用ス
- 第十四條 運河財團ハ左ニ掲クルモノニシテ運河財團ノ所有者ニ屬スルモノヲ以テ之ヲ組成ス
 - 一 水路其ノ他ノ運河用地及其ノ上ニ存スル工作物竝之ニ屬スル器具、機械
 - 二 工場、上屋、倉庫、事務所、舍宅及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具、機械
 - 三 運河用通信、信號ニ要スル工作物及其ノ敷地竝之ニ屬スル器具、機械
 - 四 前三號ニ掲クル工作物ヲ所有シ又ハ使用スル爲他人ノ不動産ノ上ニ存スル地上權、登記シタル賃借權及前三號ニ掲クル土地ノ爲ニ存スル地役權
 - 五 運河ニ要スル船舶竝之ニ屬スル器具、機械
 - 六 運河ノ維持修繕ニ要スル材料及器具、機械
- 第十五條 國又ハ公共團體ハ免許ノ效力消滅シタル後運河開設ニ要シタル費用ヲ支拂ヒ其ノ運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得但シ運河及附屬物件ニシテ開設當時ニ比シ價格ヲ減損シタルモノアルトキハ開設ニ要シタル費用ヨリ之ヲ控除ス
- 2 前項費用ノ範圍及金額ニ付協議調ハサルトキハ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服

アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十六條 國又ハ公共團體ニ於テ必要ト認ムルトキハ免許年限ノ滿了前ト雖運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得

2 前項ノ買收價格ニ付協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ徵シ地方長官之ヲ決定ス其ノ決定ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第十七條 左ニ掲クル場合ニ於テハ免許ヲ取消スコトヲ得

- 一 法令又ハ法令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ
- 二 免許、許可若ハ認可ノ條件ニ違反シタルトキ

第十八條 工事竣功前免許ノ效力消滅シタル場合ニ於テハ地方長官ハ免許ヲ受ケタル者ニ對シ原狀ノ回復其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第十九條 前二條ノ場合ニ於テ同一路線ニ當リ運河ノ開設ヲ免許セラレタル者ハ運河及附屬物件ヲ買收スルコトヲ得

- 2 前項ノ買收價格ニ付協議調ハサルトキハ第十六條第二項ノ規定ニ依ル
- 3 本條ノ規定ハ運河財團ニ屬スルモノニハ之ヲ適用セス

附 則

第二十條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正二年十一月二十五日勅令第三〇五號ヲ以テ同年十二月一日ヨリ施行)

第二十一條 本法施行前免許ヲ受ケタル運河ニ關シ本法ヲ適用スヘキ範圍ハ内務大臣之ヲ定ム

第二十二條 本法ノ適用ヲ受ケル運河ノ用地ニシテ免許條件ニ依リ官有ニ歸屬シタルモノハ之ヲ運河經營者ニ下付スルコトヲ得

◎運河法施行規則 (大正二年十一月二十八日) 改(大正七年四月) 正(内務省令第七號)

第一條 運河開設免許ノ申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

- 一 起業目論見書
 - 二 運河豫測圖
 - 三 開設費概算書
 - 四 事業上ノ收支概算書
 - 五 組合事業ニ在リテハ其ノ組合契約書ノ謄本
 - 六 會社發起人ニ在リテハ定款ノ謄本
 - 七 會社ニ在リテハ其ノ會社ノ登記及定款ノ謄本並運河事業經營ニ關スル株主總會ノ決議錄若ハ總社員ノ同意書ノ謄本
 - 八 公共團體ニ在リテハ其ノ團體ノ運河事業經營ニ關スル決議書ノ謄本
- 第二條 起業目論見書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
- 一 起業ノ目的及理由

第二類 河 川 運河法施行規則

- 二 運河ノ名稱及主タル事務所設置地
- 三 事業資金ノ總額及財源
- 四 運河ノ起點、終點及經過地名
- 五 運河ノ延長、底幅及水深(里町間尺ヲ以テ示スヘシ)
- 六 運河ヲ通航スヘキ最大舟筏ノ長、幅及吃水並航行ノ方法
- 七 工事施行期間
- 八 事業經營期間

第三條 運河豫測圖ハ左ノ三種トス

一 平面圖

縮尺ハ二萬分一以上トシ運河ノ中心線、開門、水門、隧道、物揚場、乘降場、繫船場、船溜、待避場等ノ位置並附近ノ鐵道、軌道、重要ナル道路、水流、水面等ノ位置及名稱ヲ記載シ運河中心線ノ距離ハ六町毎ニ記入スヘシ

二 縱斷面圖

縮尺ハ距離ヲ二萬分一以上、高ヲ二百分一以上トシ地盤及運河底數ノ高位、諸水位(成ルヘク陸地測量部水準基線ニ據ルヘシ)並平面圖ニ示シタル各種工作物ノ位置ヲ記載シ距離ハ六町毎ニ記入スヘシ

三 橫斷定規圖

縮尺ハ二百分一以上トシ縱横ノ各寸法ヲ記入スヘシ
 2 運河豫測圖ニハ運河經過地ノ地勢、水路選定ノ理由並運河及附近ノ鐵道、軌道、重要ナル道路、

水流、水面、社寺、公園、名勝、舊蹟等トノ關係ヲ説明シタル書類ヲ添附スヘシ
 第四條 開設費概算書ニハ其ノ總額ヲ測量費、監督費、用地費、土工費、開門費、水門費、隧道費、橋梁費、通信信號設備費、建物費、船舶費、器具機械費、總係費等ノ各項ニ分子數量及金額ヲ記載スヘシ

第五條 事業上ノ收支概算書ニハ收入及支出ノ總額、內譯並其ノ計算ノ基ク所ヲ示シ且事業資金ニ對スル純益ノ割合ヲ記載スヘシ

第六條 工事設計認可ノ申請書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ

- 一 運河實測圖
- 二 構造圖
- 三 工事説明書
- 四 土坪計算書
- 五 開設費豫算書

第七條 運河實測圖ハ左ノ三種トス

一 平面圖

縮尺ハ三千分一以上トシ運河ノ中心線、曲線ノ半徑及交角、運河用地ノ境界、水路、開門、水門、隧道、道路、曳船道、堤防、物揚場、繫船場、船溜、待避場、上屋、倉庫、工場、倉宅、駐在所、通信所、信號所等及之ニ要スル土地ノ區劃、用地以外左右各百間以内ノ地勢、附近ノ市街、村落、鐵道、軌道、道路、水流、水面、社寺、公園、名勝、舊蹟等及其ノ名稱、運河開設ニ伴ヒ鐵道、軌道、道路、水流、水面等ヲ變換スル爲施設スヘキ工作物、府、縣、

第二類 河 川 運河法施行規則

第二類 河 川 運河法施行規則

二二〇

郡、市、區、町、村ノ境界及方位ヲ記載シ運河中心線ノ距離ハ一町毎ニ記入スヘシ

二 縱斷面圖
縮尺ハ距離ヲ平面圖ト同一ニシ高ヲ二百分一以上トシ地盤、運河底敷及兩岸堤防ノ高位、諸水位(成ルヘク陸地測量部水準基線ニ據ルヘシ)並平面圖ニ示シタル各種工作物ノ位置ヲ記載シ距離ハ一町毎ニ記入スヘシ

三 橫斷面圖
縮尺ハ二百分一以上トシ一町毎ニ調製スヘシ但シ水路幅員ノ異ナル箇所ニ付テハ其ノ斷面ヲ示スヘシ

第八條 構造圖ハ左ノ二種トス

一 護岸、閘門、水門、隧道、曳船道、堤防、物揚場、乗降場、繫船場、船溜、待避場、通信所、信號所等ノ構造圖

二 運河開設ニ伴ヒ鐵道、軌道、道路、水流、水面等ヲ變換スル爲施設スヘキ橋梁、伏越其ノ他ノ工作物ノ構造圖

2 前項第二號ノ構造圖ニハ運河ト新舊工作物トノ關係ヲ明ニシタル平面圖及斷面圖ヲ添附スヘシ

第九條 工事説明書ニハ水路測定ノ理由、運河實測圖及構造圖ニ示シタル各工事設計ノ要領、工事施行ノ順序、作業方法、掘鑿及浚渫土砂處分方法等ヲ記載スヘシ

第十條 土坪計算書ニハ一町毎(地盤ノ起伏甚シキカ又ハ幅員ニ廣狹アルトキハ仍其箇所毎)ニ橫斷面ヲ取り其ノ番號、距離、平積、立積ヲ記載シ土質ヲ區別シテ切取、盛土ノ數量ヲ示スヘシ

第十一條 開設費豫算書ニハ第四條記載ノ各項ヲ目ニ分チ各其ノ數量、金額及内譯ヲ示スヘシ

2 閘門、水門、隧道等構造ノ複雜ナル工作物ニ付テハ設計書ヲ添附スヘシ

第十二條 免許ヲ受ケタル者會社發起人ナルトキハ會社成立ノ後ニ非サレハ工事設計ノ認可ヲ申請スルコトヲ得ス

第十三條 指定ノ期限内ニ工事設計ノ認可ヲ申請スルコト能ハサルトキハ正當ノ事由アル場合ニ限り期限ノ伸長ヲ許可スルコトアルヘシ

第十四條 免許ヲ受ケタル者ハ工事設計ノ認可ヲ得タル日ヨリ六箇月内ニ工事ニ著手シ指定ノ期限内ニ之ヲ竣功スヘシ但シ正當ノ事由ニ依リ期限内ニ著手又ハ竣功スルコト能ハサルトキハ期限ノ伸長ヲ許可スルコトアルヘシ

第十五條 工事ニ著手シ又ハ竣功シタルトキハ遲滞ナク地方長官ニ届出ツヘシ

2 工事竣功届出後一箇月内ニ開設費精算書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第十六條 免許ヲ受ケタル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ全部又ハ一部ノ通航ヲ停止スルコトヲ得ス

第十七條 免許ヲ受ケタル者ハ每事業年度後一箇月内ニ事業報告書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

第十八條 運河法第四條、第十五條第二項、第十六條第二項又ハ第十九條第二項ニ依ル決定ノ申請書ハ正副二通ヲ作成シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 當事者ノ表示

二 申請ノ目的及理由

三 協議ノ顛末

第十九條 前條ノ申請書ヲ受理シタル地方長官ハ其ノ副本ヲ相手方ニ送付シ一定ノ期限内ニ答辯

二二二

第二類 河 川 運河法施行規則

第二類 河 川 運河法施行規則

書ヲ提出セシムヘシ

2 指定ノ期限内ニ答辯書ヲ提出セサルトキハ地方長官ハ申請書ノミニ依リテ決定ヲ爲スコトヲ得
副本ノ交付ヲ爲スコト能ハサルトキ亦同シ

第二十條 決定ハ理由ヲ附シタル文書ヲ以テ之ヲ爲シ當事者雙方ニ送付スヘシ

第二十一條 左ノ場合ニ於テハ運滯ナク内務大臣ニ届出ツヘシ

一 免許申請者又ハ免許ヲ受ケタル者其ノ氏名若ハ住所ヲ變更シ又ハ死亡シタルトキ

二 會社成立シ又ハ解散シタルトキ

三 定款又ハ組合契約ヲ變更シタルトキ

四 本則第二條第二號及第三號ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキ

五 事業ヲ廢止シタルトキ

第二十二條 本則ニ依リ内務大臣ニ提出スル書類ハ總テ副本ヲ作成シ運河開設地ノ地方長官ヲ經
由スヘシ

附 則

第二十三條 本則ハ運河法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (大正二年十二月一日)

第二十四條 運河法施行前免許ヲ受ケタル運河ニシテ免許ノ條件ニ因リ免許年限滿了後官有ニ歸
スヘキモノニ付テハ運河法中第十五條以外ノ規定ヲ、其ノ他ノモノニ付テハ運河法ノ規定全部
ヲ適用ス

第二十五條 運河法ニ依リ許可若ハ認可ヲ受クヘキ事項ニシテ其ノ施行ノ際既ニ許可若ハ認可ヲ
受ケタルモノハ運河法ニ依リ許可若ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十六條 運河法第二十二條ニ依リ運河用地ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ内務大臣ニ申請スヘシ

◎可動堰及附屬閘門管理規則

(昭和六年十二月十二日 大阪市規則第二號)

第一條 可動堰ハ毎月朔望ノ前後各三日間閉鎖スルモノトシ市長ハ毎年十二月中ニ翌年中ノ閉鎖
日時ヲ告示ス

第二條 暴風雨、出水、大潮其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ前條ニ依ル告示ノ時間ニ拘ラス可
動堰ヲ閉鎖スルコトアルヘシ

2 前項ノ場合ニ於テ必要アルトキハ閘門ノ通航ヲ制限シ又ハ一時停止スルコトアルヘシ

第三條 可動堰ヲ閉鎖シ又ハ開放セムトスルトキハ閉鎖ニ先チ紅燈ヲ交互ニ明滅セシムルノ外音
響ニ依ル警報信號ヲ發シテ豫告シ閉鎖中ハ紅燈ヲ掲ケ之ヲ表示ス

2 可動堰ヲ開放セル場合ニ於テハ夜間ハ綠燈ヲ掲ケ之ヲ表示ス

第四條 可動堰ノ閉鎖信號中及閉鎖中ハ可動堰ノ上下流各百メートル以内ニ舟筏ノ存在スルヲ許
サス但シ看守人ノ許可ヲ得テ繫留セルモノ及閘門ヲ通航セムトスルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條 閘門通航ノ舟筏ノ長幅及吃水ニ關スル制限ハ市長之ヲ告示ス

第六條 閘門ヲ通航セムトスル者ハ看守人ノ指示スル場所ニ舟筏ヲ停メ其ノ出入ニ付看守人ノ指
圖ニ從ヒ到着ノ順序ニ依リ舟筏ヲ徐行セシムヘシ但シ看守人ニ於テ必要ト認ムルトキハ通航ノ
順序ヲ變更スルコトアルヘシ

第七條 可動堰及閘門通航ノ際ハ可動堰、閘門及其ノ附屬設備ヲ毀損スヘキ器具ヲ使用シ又ハ掛
帆ノ儘通航スヘカラス

第八條 本市ノ設置セル閘門繫船柱ヲ使用スルノ外可動堰、閘門及其ノ附屬設備ニ舟筏ヲ繫留シ

第二類 河 川 可動堰及附屬閘門管理規則

二二三

第二類 河 川 可動堰及附屬閘門管理規則

二二四

若ハ接觸セシメ其ノ他通航ノ妨害トナルヘキ行爲ヲ爲シ又ハ可動堰及閘門内ニ灰燼、塵芥其ノ他ノ物件ヲ投棄スヘカラス

【附 則】

(昭和六年中ニ於ケル閉鎖日時ニ付テハ第一條ノ規定ニ拘ラス別ニ之ヲ告示ス)

◎可動堰附屬閘門通航舟筏ノ長幅及吃水ノ制限

(昭和六年十二月十六日 大阪市告示第三一五號)

昭和六年大阪市規則第二號可動堰及附屬閘門管理規則第五條ニ依ル可動堰附屬閘門通航舟筏ノ長幅及吃水ノ制限左ノ通相定ム

閘 門 名	長	幅	吃 水
堂島川可動堰附屬閘門	六〇・〇 <small>メートル</small>	八・〇 <small>メートル</small>	一・八 <small>メートル</small>
道頓堀川可動堰附屬閘門	四〇・〇	五・五	一・五

備考 イ 長ハ舟カ曳船ニ依リ曳航スル場合ハ曳船ノ尖端ヨリ被曳航船ノ末尾ニ至ル迄ヲ言フ
 ロ 吃水ハ最干潮時ニ於ケルモノニシテ潮位ノ上昇ニ從ヒ其ノ上昇高ヲ加算スルモノトス

公有水面埋立法

(大正十年四月九日 法律第五七號)

第一條 本法ニ於テ公有水面ト稱スルハ河、海、湖、沼其ノ他ノ公共ノ用ニ供スル水流又ハ水面ニシテ國ノ所有ニ屬スルモノヲ謂ヒ埋立ト稱スルハ公有水面ノ埋立ヲ謂フ

2 公有水面ノ干拓ハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ埋立ト看做ス

3 本法ハ耕地整理法ニ依ル溝渠又ハ溜池ノ變更ノ爲必要ナル埋立其ノ他勅令ヲ以テ指定スル埋立ニ付之ヲ適用セス

第二條 埋立ヲ爲サムトスル者ハ地方長官ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 前條ノ免許ハ地方長官期間ヲ指定シテ地元市町村會ノ意見ヲ徴シ之ヲ爲スヘシ

第四條 地方長官ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ニ關シ權利ヲ有スル者アルトキハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外埋立ノ免許ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 其ノ公有水面ニ關シ權利ヲ有スル者埋立ニ同意シタルトキ
- 二 其ノ埋立ニ因リテ生スル利益ノ程度ヲ著シク超過スルトキ

第二類 河 川 公有水面埋立法

二二五

三 其ノ埋立カ法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ爲必要ナルト

第五條 前條ニ於テ公有水面ニ關シ權利ヲ有スル者ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ

一 法令ニ依リ公有水面占用ノ許可ヲ受ケタル者

二 漁業權者又ハ入漁權者

三 法令ニ依リ公有水面ヨリ引水ヲ爲シ又ハ公有水面ニ排水ヲ爲ス許可ヲ受ケタル者

四 慣習ニ依リ公有水面ヨリ引水ヲ爲シ又ハ公有水面ニ排水ヲ爲ス者

第六條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ第四條ノ權利ヲ有スル者ニ對シ其ノ損害ノ補償ヲ爲シ又ハ其ノ損害ノ防止ノ施設ヲ爲スヘシ

2 漁業權者及入漁權者ノ前項ノ規定ニ依ル補償ヲ受クル權利ハ共同シテ之ヲ有スルモノトス

3 第一項ノ補償又ハ施設ニ關シ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ地方長官ノ裁定ヲ求ムヘシ

第七條 前條ノ規定ニ依リ漁業權者ニ對シ損害ノ補償ヲ爲スヘキ場合ニ於テ其ノ漁業權カ登錄シタル先取特權又ハ抵當權ノ目的タルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ補償ノ金額ヲ供託スヘシ但シ先取特權者又ハ抵當權者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ

限ニ在ラス

2 前項ノ規定ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ニ付存スル漁業權又ハ入漁權カ訴訟ノ目的タル爲訴訟當事者ヨリ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

3 登錄シタル先取特權若ハ抵當權ヲ有スル者又ハ訴訟當事者ハ前二項ノ規定ニ依ル供託金ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第八條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ第六條ノ規定ニ依リ損害ノ補償ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其ノ補償ヲ爲シ又ハ前條ノ規定ニ依ル供託ヲ爲シタル後ニ非サレハ第四條ノ權利ヲ有スル者ニ損害ヲ生スヘキ工事ニ著手スルコトヲ得ス但シ其ノ權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得タルトキ又ハ地方長官ノ裁定シタル補償ノ金額ヲ供託シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

2 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ第六條ノ規定ニ依リ損害防止ノ施設ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其ノ施設ヲ爲シタル後ニ非サレハ第四條ノ權利ヲ有スル者ニ損害ヲ生スヘキ工事ニ著手スルコトヲ得ス但シ其ノ權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 第六條ノ規定ニ依リ損害ノ補償ヲ爲スヘキ漁業權ヲ目的トスル先取特權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ前條第一項但書ノ規定ニ依ル供託金ニ對シテモ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第十條 公有水面ノ利用ニ關シテ爲シタル施設カ埋立ノ爲其ノ效用ヲ妨ケラルルトキ

ハ地方長官ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ヲシテ其ノ施設ヲ爲シタル者ニ對シ之ニ代ルヘキ施設若ハ其ノ效用ヲ保全スル爲必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ損害ノ全部若ハ一部ヲ補償セシムルコトヲ得

第十一條 地方長官埋立ヲ免許シタルトキハ其ノ免許ノ日及其ノ事件ノ要領ヲ告示スヘシ

第十二條 地方長官ハ埋立ニ付免許料ヲ徵收スルコトヲ得

2 前項ノ免許料ノ徵收及歸屬ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ埋立ニ關スル工事ノ著手及工事ノ竣功ヲ地方長官ノ指定スル期間内ニ爲スヘシ

2 地方長官正當ノ事由アリト認ムルトキハ前項ノ期間ノ伸長ヲ許可スルコトヲ得

第十四條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者埋立ニ關スル測量又ハ工事ノ爲必要アルトキハ地方長官ノ許可ヲ受ケ他人ノ土地ニ立入り又ハ其ノ土地ヲ一時材料置場トシテ使用スルコトヲ得

2 前項ノ規定ニ依ル立入又ハ使用ヲ爲サムトスル者ハ其ノ日時及場所ヲ少クトモ五日前ニ其ノ土地ノ市町村長ニ通知スヘシ

3 市町村長前項ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタルトキハ其ノ旨土地ノ占有者ニ通知スヘシ通知スルコト能ハサルトキハ告示スヘシ

4 前三項ノ規定ハ埋立ノ免許ヲ受ケムトスル者ニ關シ之ヲ準用ス

第十五條 前條ノ規定ニ依ル立入又ハ使用ニ因リテ生シタル損害ハ其ノ立入又ハ使用ヲ爲シタル者之ヲ補償スヘシ

第十六條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ地方長官ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ埋立ヲ爲ス權利ヲ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス

2 前項ノ規定ニ依リ埋立ヲ爲ス權利ヲ讓受ケタル者ハ埋立ニ關スル法令又ハ之ニ基キテ爲ス處分若ハ其ノ條件ニ依リ讓渡人ニ生シタル權利義務ヲ承繼ス但シ第六條第一項、第十條又ハ前條ノ規定ニ依ル義務ハ讓渡人及讓受人連帶シテ之ヲ負フ

第十七條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ相續人ハ其ノ被相續人ノ有シタル埋立ヲ爲ス權利ヲ承繼ス

2 前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十八條 埋立ヲ爲ス會社ノ發起人カ會社成立ノ後ニ於テ會社ノ爲ス埋立ニ付免許ヲ受ケタル場合ニ於テ會社成立シタルトキハ埋立ヲ爲ス權利其ノ他ノ埋立ニ關スル法令又ハ之ニ基キテ爲ス處分若ハ其ノ條件ニ依リ生シタル權利義務ハ會社之ヲ承繼ス

第十九條 埋立ノ免許ヲ受ケタル會社合併ニ因リテ消滅シタルトキハ埋立ヲ爲ス權利其ノ他ノ埋立ニ關スル法令又ハ之ニ基キテ爲ス處分若ハ其ノ條件ニ依リ生シタル權利義務ハ合併後存続スル會社又ハ合併ニ因リテ成立シタル會社之ヲ承繼ス

第二十條 前三條ノ規定ニ依リ權利義務ヲ承繼シタル者ハ其ノ承繼ノ日ヨリ起算シテ四日內ニ地方長官ニ届出ツヘシ

第二十一條 第十六條乃至第十九條ノ規定ニ依ル權利義務ノ承繼アリタル場合ニ於テハ本法ノ適用ニ付テハ其ノ權利義務ヲ承繼シタル者ヲ以テ埋立ノ免許ヲ受ケタル者トス

第二十二條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ埋立ニ關スル工事竣功シタルトキハ遲滯ナク地方長官ニ竣功認可ヲ申請スヘシ

第二十三條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ前條ノ竣功認可前ニ於テ埋立地ヲ使用スルコトヲ得但シ埋立ニ關スル工費用ニ非サル工作物ヲ設置セムトスルトキハ命令ヲ以テ指定スル場合ヲ除ク外地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第二十四條 第二十二條ノ竣功認可アリタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ竣功認可ノ日ニ於テ埋立地ノ所有權ヲ取得ス但シ公用又ハ公共ノ用ニ供スル爲必要ナル埋立地ニシテ埋立ノ免許條件ヲ以テ特別ノ定ヲ爲シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

2 前項但書ノ埋立地ノ歸屬ニ付テハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十五條 公共ノ用ニ供スル國有地ニシテ埋立ニ關スル工事ノ施行ニ因リ不用ニ歸シタルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ有償又ハ無償ニテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ下付スルコトヲ得

第二十六條 前二條ノ規定ハ耕地整理法第十一條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第二十七條 埋立地ニ關スル權利ノ設定又ハ讓渡ニ付テハ埋立ノ免許條件ヲ以テ地方長官ノ許可ヲ受クヘキ旨ヲ定ムルコトヲ得

2 前項ノ規定ニ依リ埋立地ニ關スル處分ノ制限ヲ定メタル場合ニ於テハ地方長官ハ第二十二條ノ竣功認可ヲ爲シタル後遲滯ナク其ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ

3 不動産登記法第二百二十九條ノ規定ハ前項ノ登記ニ付之ヲ準用ス

4 地方長官登記シタル處分ノ制限ノ全部又ハ一部ヲ解除シタルトキハ遲滯ナク其ノ登記ノ抹消又ハ變更ヲ登記所ニ囑託スヘシ

第二十八條 前條第二項ノ登記ヲ爲シタル埋立地ニ關スル權利ノ設定又ハ讓渡ニシテ同條第一項ノ許可ヲ受クヘキモノハ其ノ許可ヲ受クルニ非サレハ效力ヲ生セス

第二十九條 前條ノ許可ヲ受ケ權利ヲ取得シタル者ヲ除ク外第二十七條第二項ノ登記ヲ爲シタル埋立地ニ關スル權利ヲ取得シタル者ハ其ノ取得ノ日ヨリ起算シ十四日內ニ地方長官ニ届出ツヘシ

第三十條 地方長官ハ前二條ノ埋立地ニ關スル權利ヲ取得シタル者ニ對シ埋立ノ免許條件ノ範圍內ニ於テ義務ヲ命スルコトヲ得

第三十一條 第八條第一項ノ規定ニ依リ埋立ニ關スル工事ニ著手スルコトヲ得ル場合ニ於テハ地方長官ハ其ノ工事ノ施行區域內ニ於ケル公有水面ニ存スル工作物其ノ他ノ物件ノ除却ヲ其ノ所有者ニ命スルコトヲ得

第三十二條 左ニ掲クル場合ニ於テハ埋立ニ關スル工事竣功認可前ニ限り地方長官ハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ其ノ爲シタル免許其ノ他ノ處分ヲ取消シ其ノ效力ヲ制限シ若ハ其ノ條件ヲ變更シ、埋立ニ關

スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ニ存スル工作物其ノ他ノ物件ヲ改築若ハ除却セシメ、損害ヲ防止スル爲必要ナル施設ヲ爲サシメ又ハ原狀回復ヲ爲サシムルコトヲ得

- 一 埋立ニ關スル法令ノ規定又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ
- 二 埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件ニ違反シタルトキ
- 三 詐欺ノ手段ヲ以テ埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ヲ受ケタルトキ
- 四 埋立ニ關スル工事施行ノ方法公害ヲ生スルノ虞アルトキ
- 五 公有水面ノ狀況ノ變更ニ因リ必要ヲ生シタルトキ
- 六 公害ヲ除却シ又ハ輕減スル爲必要ナルトキ
- 七 前號ノ場合ヲ除クノ外法令ニ依リ土地ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得ル事業ノ爲必要ナルトキ

2 前項第七號ノ場合ニ於テ損害ヲ受ケタル者アルトキハ地方長官ハ同號ノ事業ヲ爲ス者ヲシテ損害ノ全部又ハ一部ヲ補償セシムルコトヲ得

第三十三條 埋立ニ關スル工事竣功認可後埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件又ハ第三十條ノ規定ニ依リ命スル義務ニ違反スル者アルトキハ地方長官ハ其ノ違反ニ因リテ生シタル事實ヲ更正セシメ又ハ其ノ違反ニ因リテ生スル損害ヲ防止スル爲必要ナル施設ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十四條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ埋立ノ免許ハ其ノ效力ヲ失フ但シ地方長官ハ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ效力ヲ失ヒタル日ヨリ起算シ三月内ニ限り其ノ效力ヲ復活セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ埋立ノ免許ハ始ヨリ其ノ效力ヲ失ハザリシモノト看做ス

一 免許條件ニ依リ埋立ニ關スル工事ノ實施設計認可ノ申請ヲ要スル場合ニ於テ申請ニ對シ不認可ノ處分アリタルトキ又ハ免許條件ニ於テ指定スル期間内ニ申請ヲ爲ササルトキ

二 第十三條ノ期間内ニ埋立ニ關スル工事ノ著手又ハ工事ノ竣功ヲ爲ササルトキ

2 前項但書ノ規定ニ依リ免許ノ效力ヲ復活セシメタル場合ニ於テハ地方長官ハ免許條件ヲ變更スルコトヲ得

第三十五條 埋立ノ免許ノ效力消滅シタル場合ニ於テハ免許ヲ受ケタル者ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ヲ原狀ニ回復スヘシ但シ地方長官ハ原狀回復ノ必要ナシト認ムルモノ又ハ原狀回復ヲ爲スコト能ハスト認ムルモノニ付埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ申請アルトキ又ハ催告ヲ爲スニ拘ラス其ノ申請ナキトキハ原狀回復ノ義務ヲ免許スルコトヲ得

2 前項但書ノ義務ヲ免許シタル場合ニ於テハ地方長官ハ埋立ニ關スル工事ノ施行區域内ニ於ケル公有水面ニ存スル土砂其ノ他ノ物件ヲ無償ニテ國ノ所有ニ屬セシムルコトヲ得

第三十六條 第三十二條第一項及前條ノ規定ハ埋立ノ免許ヲ受ケシテ埋立工事ヲ爲

- シタル者ニ關シ之ヲ準用ス
- 2 埋立ノ免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲シタル者アル場合ニ於テ地方長官原狀回復ノ必要ナシト認ムルトキハ埋立ノ追認ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ追認ノ日ニ於テ埋立ノ免許アリタルモノト看做ス
- 3 埋立ノ免許ニ關スル規定ハ前項ノ埋立ノ追認ニ關シ之ヲ準用ス
- 第三十七條 地方長官第六條第三項ノ裁定ヲ爲シ又ハ第十條若ハ第三十二條第二項ノ規定ニ依ル補償ヲ爲サシムル場合ニ於テ鑑定人ノ意見ヲ聞キタルトキハ其ノ鑑定ニ要スル費用ハ第三十二條第二項ノ場合ニ於テハ同項ノ事業ヲ爲ス者其ノ他ノ場合ニ於テハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ負擔トス
- 第三十八條 第十二條ノ免許料ニシテ國ニ歸屬スルモノ及前條ノ鑑定ニ要スル費用ハ地方長官國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得但シ先取特權ノ順位ハ國稅ニ次クモノトス
- 第三十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 埋立ノ免許ヲ受ケスシテ埋立工事ヲ爲シタル者
- 二 詐欺ノ手段ヲ以テ埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ヲ受ケタル者
- 三 埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件ニ違反シ公有水面ノ公共ノ利用ヲ妨害シタル者

- 第四十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス
- 一 第二十三條但書ノ規定ニ違反シ工作物ヲ設置シタル者
- 二 第二十七條第二項ノ登記ヲ爲シタル埋立地ニ於テ埋立ニ關スル法令ニ依ル免許其ノ他ノ處分ノ條件ニ違反シ工事を爲シタル者
- 三 第三十條ノ規定ニ依リ命スル義務ニ違反シ埋立地ニ於テ工事を爲シタル者
- 第四十一條 第二十條又ハ第二十九條ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
- 第四十二條 國ニ於テ埋立ヲ爲サムトスルトキハ當該官廳地方長官ノ承認ヲ受クヘシ
- 2 埋立ニ關スル工事竣功シタルトキハ當該官廳直ニ地方長官ニ之ヲ通知スヘシ
- 3 第三條乃至第十一條、第十四條、第十五條、第三十一條、第三十七條及第四十四條ノ規定ハ第一項ノ埋立ニ關シ之ヲ準用ス但シ第十四條ノ規定ノ準用ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受クヘキ場合ニ於テハ之ニ代ヘ地方長官ニ通知スヘシ
- 第四十三條 地方長官ハ公共ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ國ニ於テ埋立ヲ爲シタル埋立地ノ一部ヲ公共團體ニ歸屬セシムルコトヲ得
- 第四十四條 第六條第三項ノ規定ニ依ル補償ノ裁定ニ不服アル者ハ其ノ裁定書ノ送付ヲ受ケタル日より起算シ六月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴訟シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 第四十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタ

凡處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得
2 本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四十七條 本法ニ依リ地方長官ノ職權ニ屬スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケシムルコトヲ得

第四十八條 本法ニ依リ地方長官ノ職權ニ屬スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ輕易ナルモノニ限り下級行政廳ニ之ヲ委任スルコトヲ得

第四十九條 本法中市會又ハ市長ニ關スル規定ハ〔北海道區制又ハ沖繩縣區制ニ依リ區ニ付テハ區會又ハ區長〕ニ關シ之ヲ適用ス

2 本法中町村會又ハ町村長ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セサル地ニ付テハ町村會又ハ町村長ニ準スルモノニ關シ之ヲ適用ス

第五十條 本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ公有水面ノ一部ヲ區劃シ永久的設備ヲ築造スル場合ニ之ヲ準用ス

附 則

1 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正十一年四月勅令第一九三號ヲ以テ同年四月十日ヨリ施行）

2 本法施行前爲シタル處分及之ニ附シタル條件ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ牴觸セサル限り本法ニ依リ爲シタル處分及之ニ附シタル條件ト看做ス但シ地方長官ハ公益上必要アリト認ムルトキハ本法施行ノ日ヨリ起算シ三月内ニ限り第三十二條ノ規定ニ拘ラス處分ニ付シタル條件ヲ變更シ又ハ處分ニ條件ヲ附スルコトヲ得

3 地方長官ニ對スル申請其ノ他ノ埋立ニ關スル手續ニシテ本法施行前爲シタルモノハ本法ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

公有水面埋立法施行令

（大正十一年四月八日） 改（大正十五年九月十五日）
勅令第一九四號 正勅令第三〇八號

第一條 公有水面埋立法第一條第三項ノ規定ニ依リ左ノ通指定ス

都市計畫法第十二條ノ土地區劃整理トシテ施行スル溝渠又ハ溜池ノ變更ノ爲必要ナル埋立

第二條 埋立ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ地方長官ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テ埋立ニ關スル工事ノ施行區域カ敷府縣ニ互ルトキハ關係地方長官宛ニテ同一願書ヲ各地方長官ニ提出スヘシ

一 出願人ノ住所職業及氏名尙埋立ヲ爲ス會社ノ發起人カ會社ノ爲ス埋立ニ付願ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第二類 河 川 公有水面埋立法、公有水面埋立法施行令

- 二 埋立ノ場所及其ノ面積
- 三 埋立ノ目的
- 四 埋立ニ關スル工事ノ著手及竣功ニ付指定ヲ受ケムトスル期間尙埋立ニ關スル工事ノ施行區域ヲ分割シ各區域ニ付異ル竣功期間ヲ指定ヲ受ケムトスルトキハ其ノ區分及事由ヲ記載スヘシ
- 2 前項ノ願書ニハ左ノ書類及圖面ヲ添附スヘシ
 - 一 埋立ニ關スル工事ノ計畫説明書
 - 二 埋立ニ關スル費用ノ明細書
 - 三 公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者アルトキハ其ノ同意ヲ證スル書面、其ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由書
 - 四 公有水面ノ利用ニ關シテ爲シタル施設ニシテ埋立ノ爲其ノ效用ヲ妨ケラルヘキモノアルトキハ其ノ施設ノ種類及其ノ施設ヲ爲シタル者ヲ記載シタル書面
 - 五 一般平面圖、實測平面圖、求積平面圖、縱斷面圖、橫斷面圖及工作物構造圖但シ埋立ニ關スル工事簡易ナル場合ニ於テハ縱斷面圖、橫斷面圖及工作物構造圖ハ之ヲ省略スルコトヲ得
 - 六 海面ノ埋立ニ在リテハ前各號ニ掲ケルモノノ外埋立ニ關スル工事ノ施行區域ヲ記載シタル海軍海圖又ハ其ノ謄寫圖ニ通

第三條 埋立出願人ハ出願名義ノ變更ヲ爲スコトヲ得其ノ變更ハ屆書ニ新出願人ニ關スル前條第一項第一號ニ掲ケル事項ヲ記載シ新舊出願人ヨリ連名ニテ地方長官ニ之ヲ届出ツルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

2 出願人死亡シタルトキハ其ノ相續人ハ被相續人ノ出願ヲ承繼スルコトヲ得其ノ承繼ハ相續人ヨリ屆書ニ其ノ住所、職業及氏名ヲ記載シ相續開始ノ日ヨリ起算シ二月以

内ニ地方長官ニ之ヲ届出ツルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

3 數人ノ相續人前項ニ規定スル承繼ノ届出ヲ爲シタルトキハ之ヲ共同出願人トス

4 第二項ノ規定ハ埋立ヲ爲ス會社カ其ノ發起人ノ爲シタル出願ヲ承繼スル場合又ハ會社ノ合併ノ場合ニ於テ合併後存続スル會社若ハ合併ニ因リテ成立シタル會社カ合併

ニ因リテ消滅シタル會社ノ出願ヲ承繼スル場合ニ之ヲ準用ス但シ相續開始ノ日トアルハ設立又ハ合併ノ登記ノ日トス

第四條 地方長官ハ埋立區域ヲ制限シテ其ノ出願ヲ免許スルコトヲ得

2 第五條ノ場合ニ於テ埋立區域ヲ制限シ二以上ノ埋立ヲ併立セシメ得ルトキ亦前項ニ同シ

第五條 同一區域ニ互ル埋立ノ出願ニシテ免許シ得ヘキモノ數件アルトキハ公益上及經濟上ノ價值最モ大ナルモノヲ免許スヘシ

2 前項ノ事情ニ優劣ナキトキハ先ツ沿岸土地所有者ノ出願ニ係ル埋立ニシテ其ノ土地ノ利用ニ著シキ關係アルモノ、次ニ出願受理ノ日先ナルモノヲ免許スヘシ

3 前二項ノ規定ハ先願ヲ受理シタル日ヨリ起算シ六月ヲ經過シ又ハ地元市町村會ニ諮問ヲ發シタル後ニ受理シタル出願ニ付テハ之ヲ適用セス

第六條 地方長官埋立ノ免許ヲ爲サムトスルキハ第二條第一項第一號乃至第三號ニ掲クル事項及埋立ニ關スル工事ノ計畫ノ要領ヲ具シ三月以内ノ期間ヲ指定シテ地元市町村會ノ意見ヲ徵スヘシ

第七條 地方長官ハ埋立ニ關スル法令ニ規定スルモノノ外埋立ノ免許ニ公益上又ハ利害關係人ノ保護ニ關シ必要ト認ムル條件ヲ附スルコトヲ得

第八條 公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ハ同法第十一條ノ規定ニ依ル告示アリタル後爲シタル公有水面ノ利用ニ關スル施設ニ付テハ埋立ニ因リテ生スル損害ノ防止ノ施設又ハ其ノ損害ノ補償ヲ請求スルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケテ爲シタル施設ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第九條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ノ受クヘキ損害ニシテ防止スルコトヲ得ルモノニ付テハ其ノ損害ノ防止ノ施設ヲ爲スヘシ但シ當事者間ニ於テ協議調ヒタルトキ又ハ其ノ施設ノ費用カ損害ノ程度ヲ著シク超過スルモノナルトキハ損害ノ補償ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

2 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ノ受クヘキ損害ニシテ前項ノ施設ニ依リ防止スルコト能ハサルモノニ付テハ其ノ損害ノ補償ヲ爲スヘシ前項ノ施設ヲ爲スモ尙損害アル場合ニ於テ其ノ損害ニ付亦同シ

3 前二項ノ施設又ハ補償ハ埋立ニ因リ通常生スヘキ損害ニ付テノミ之ヲ爲スヘシ

第十條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ前條ノ施設又ハ補償ニ關シ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ト協議ヲ爲スヘシ

2 前項ノ協議調ヒタルトキハ當事者ハ連名ニテ協議調ヒタル日ヨリ起算シ十四日以内ニ其ノ顛末ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第十一條 前條ノ協議調ハサルトキ又ハ協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ハ地方長官ニ對シ裁定ノ申請ヲ爲スヘシ

2 裁定ノ申請書ニハ申請ノ目的及事由ヲ記載シ協議調ハサルトキハ其ノ顛末書、協議ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ事由書ヲ添附スヘシ

第十二條 地方長官ハ前條ノ申請ヲ受理シタルトキハ公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ニ對シ申請ノ要領及指定スル期間内ニ意見書ヲ差出スヘキ旨ヲ告知スヘシ但シ告知スルコト能ハサル場合ニ於テハ告示ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

2 前項ノ期間内ニ意見書ヲ差出ササルトキハ地方長官ハ之ヲ俟タスシテ裁定ヲ爲スコトヲ得

第十三條 地方長官ハ裁定ヲ爲シタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者及公有水面埋立法第四條ノ權利ヲ有スル者ニ裁定書ノ謄本ヲ交付スヘシ但シ裁定書ノ謄本ヲ交付スルコト能ハサルトキハ其ノ要領ノ告示ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十四條 第八條及第九條第一項第二項ノ規定ハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ヲシテ公有

水面埋立法第十條ノ規定ニ依ル施設又ハ補償ヲ爲サシムル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條 公有水面埋立法第十條ノ規定ニ依ル施設又ハ補償ヲ求メムトスル者ハ其ノ

目的及事由ヲ具シ地方長官ニ同條ノ規定ニ依ル處分ノ申請ヲ爲スヘシ

2 地方長官ハ前項ノ申請ヲ受理シタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ申請ノ要

領及指定スル期間内ニ意見書ヲ差出スヘキ旨ヲ告知スヘシ

3 前項ノ期間内ニ意見書ヲ差出ササルトキハ地方長官ハ之ヲ俟タスシテ處分ヲ爲スコ

トヲ得

4 地方長官ハ申請ヲ理由アリト認メタルトキハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ對シ相當ノ

期間ヲ指定シテ施設又ハ補償ヲ命シ且申請者ニ其ノ旨ヲ通知スヘシ

5 地方長官ハ第一項ノ申請ナキ場合ト雖必要アリト認ムルトキハ前三項ノ規定ニ準シ

施設又ハ補償ヲ命スルコトヲ得

第十六條 地方長官ハ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ歸屬スヘキ埋立地ノ價額ノ百分ノ三

ヲ埋立ノ免許料トシテ徵收スヘシ

2 埋立地ノ價額ハ埋立ノ免許ノ日ヲ標準トシ比隣ノ土地ノ價格ヲ參酌シテ地方長官之

ヲ認定ス

第十七條 公共團體ノ爲ス埋立、祭祀宗教慈善學術技藝其ノ他ノ公益事業ニシテ營利

ヲ目的トセサルモノノ用ニ供スル目的ヲ以テ爲ス埋立又ハ土地ノ農業上ノ利用ヲ增

進スル目的ヲ以テ爲ス埋立ニ付テハ免許料ヲ徵收スルコトヲ得ス

2 公共團體ノ爲ス埋立ヲ除クノ外埋立竣功認可後十年以内ニ其ノ埋立地ノ利用方法ヲ

變更シタルトキハ前條ノ例ニ依リ免許料ヲ徵收ス但シ埋立地ノ價額ニ付テハ其ノ利

用方法變更ノ日ヲ標準トス

3 前項ニ規定スル埋立地利用方法ノ變更ヲ爲シタル者ハ遲滞ナク地方長官ニ之ヲ届出

ツヘシ

第十八條 免許料ハ國庫ノ收入トス但シ地方公共團體カ修築又ハ維持ノ費用ヲ現ニ支

出シ又ハ支出シタル河川、港灣其ノ他ノ公有水面ノ埋立ニ付テハ地方長官ハ其ノ免

許料ノ全部又ハ一部ヲ其ノ地方公共團體ニ歸屬セシムルコトヲ得

2 前項但書ノ規定ニ依リ免許料ヲ歸屬セシムル地方公共團體及其ノ歸屬ノ割合ハ地方

長官之ヲ定メ且其ノ地方公共團體及埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ通知スヘシ

第十九條 免許料ハ埋立ノ免許ノ日ヨリ起算シ一月以内ニ之ヲ納付スヘシ但シ其ノ半

額ニ付テハ地方長官ハ竣功期間内ニ於テ其ノ定ムル期限迄ニ之ヲ納付セシムルコト

ヲ得

2 免許料ノ額及前項但書ノ規定ニ依ル納付期限ハ免許條件ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

3 第十七條第二項ノ規定ニ依リ免許料ヲ徵收スル場合ニ於テハ地方長官ハ免許料ノ額

及納付期限ヲ定メ之ヲ告知スヘシ

第二十條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者埋立ニ關スル工事ノ著手又ハ竣功ヲ爲スヘキ期間

ノ伸長ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由及伸長ノ期間ヲ具シ期間滿了ノ日ヨリ

起算シ少クトモ二週間前ニ之ヲ申請スヘシ

第二十一條 公有水面埋立法第十四條ノ規定ニ依ル立入ハ邸内ニ付テハ日出前日没後ハ占有者ノ意ニ反シテ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 公有水面埋立法第十四條ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケムトスルトキハ立入又ハ使用ヲ爲スヘキ土地ノ所在、區域及現況、所有者及占有者ノ住所及氏名竝立入又ハ使用ノ目的、時期及期間ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ地方長官ニ出願スヘシ

第二十三條 公有水面埋立法第十四條第三項ノ規定又ハ同項ノ規定ノ準用ニ依ル通知又ハ告示ハ少クトモ三日前ニ之ヲ爲スヘシ

第二十四條 公有水面埋立法第十六條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ願書ニ埋立ヲ爲ス權利ヲ讓受クル者ニ關スル第二條第一項第一號ニ掲クル事項ヲ記載シ埋立ノ免許ヲ受ケタル者及埋立ヲ爲ス權利ヲ讓受クル者ヨリ連名ニテ出願スヘシ

2 地方長官ハ公有水面埋立法第十六條ノ許可ヲ爲シ又ハ同法第二十條ノ規定ニ依ル届出ヲ受理シタルトキハ埋立ヲ爲ス權利ノ讓渡又ハ承繼アリタルコト及埋立ヲ爲ス權利ヲ讓受ケタル者又ハ承繼シタル者ニ關スル第二條第一項第一號ニ掲クル事項ヲ告示スヘシ

第二十五條 竣功認可ノ申請書ニハ實測平面圖及求積平面圖ヲ添附スヘシ

第二十六條 公有水面埋立法第二十三條ノ規定ニ依リ左ノ通指定ス
一 耕地整理法ニ依リ施行スル工作物ノ設置

二 開墾助成法ニ依リ助成金ヲ受ケテ施行スル埋立ニ係ル土地ノ利用ニ關シ必要ナル工作物ノ設置

三 簡易ナル一時的的工作物ノ設置

第二十七條 公有水面埋立法第二十四條第一項但書ノ埋立地ハ國ニ於テ必要ナルモノヲ除クノ外公共團體ニ歸屬ス

2 前項ノ規定ニ依ル歸屬ハ地方長官埋立ノ免許條件ヲ以テ之ヲ指定スヘシ

第二十八條 公共團體ハ竣功認可ノ日ニ於テ前條ノ規定ニ依リ之ニ指定セラレタル埋立地ノ所有權ヲ取得ス

第二十九條 公共ノ用ニ供スル國有地ニシテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者カ埋立ニ關スル工事トシテ其ノ國有地ト同一又ハ同種ノ用途ニ供スル工作物ヲ施設シタルニ因リ不用ニ歸シタルモノハ其ノ工作物ヲ構成スル土地及物件ヲ無償ニテ國ニ歸屬セシムル場合ニ限り無償ニテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ下付ス

2 前項ノ場合ヲ除クノ外公共ノ用ニ供スル國有地ニシテ埋立ニ關スル工事ノ施行ニ因リ不用ニ歸シタルモノハ有償ニテ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ニ之ヲ下付スルコトヲ得

3 前二項ノ國有地ハ國ノ所有ニ屬スル水流又ハ水面ヲ包含ス

第三十條 本令ハ國ニ於テ埋立ヲ爲ス場合ニ公有水面埋立法第四十二條第三項ノ規定ニ依ル準用ノ範圍内ニ於テ之ヲ準用ス

第三十一條 第二十七條第二項及第二十八條ノ規定ハ國ニ於テ埋立ヲ爲シタル埋立地ニ依ル準用ノ範圍内ニ於テ之ヲ準用ス

第二類 河 川 公有水面埋立法施行令

二四六

用ス
第三十二條 左ニ掲クル事項ニ付テハ地方長官ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一 第四條第二項又ハ第五條ノ場合ニ於ケル埋立ノ免許又ハ其ノ拒否

二 内務大臣ノ指定スル河川ノ埋立ノ免許

三 前號ノ河川ノ流域ニ於ケル水面又ハ其ノ河川ノ河口附近ニ於ケル海面ノ埋立ノ免許但シ其ノ河川ニ著シク影響ヲ及ホスノ虞ナキ埋立ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

四 内務大臣カ甲號港灣トシテ指定スル港灣ノ埋立ノ免許及乙號港灣トシテ指定スル港灣ノ埋立ニシテ其ノ港灣ノ利用ニ著シク影響ヲ及ホスノ虞アルモノノ免許

五 海峽、堀割其ノ他ノ狭水道ニ於ケル埋立ニシテ航路、潮流、水流若ハ水深又ハ艦船ノ航行碇泊ニ影響ヲ及ホスノ虞アルモノノ免許

六 埋立ノ面積五十町歩ヲ超ユル埋立ノ免許

七 第二號乃至第六號ニ該當スル場合ニ於ケル公有水面埋立法第三十六條第二項ノ埋立ノ追認

第三十三條 公有水面埋立法第五十條ノ規定ニ依リ同法ヲ準用スヘキ場合左ノ如シ、

- 一 水産物養殖場ノ築造
- 二 乾船渠ノ築造

2 本令ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十四條 埋立ノ免許ヲ受ケタル者數人ナルトキハ本令ノ定ムル所ニ依リ埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ負擔スル義務ハ連帶シテ之ヲ負フモノトス

第三十五條 埋立ニ關スル工事ノ施行區域カ數府縣ニ互ル場合ニ於テハ埋立ニ關スル法令中地方長官ノ職權ニ屬スル事項ハ關係地方長官共同シテ之ヲ行フ但シ利害ノ關係スル所一府縣ノ區域ニ止ルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 本令ニ於テ住所、職業及氏名ト稱スルハ法人ニ在リテハ主タル事務所ノ所在地、法人ノ目的及名稱ヲ謂フ

第三十七條 本令中町村會ニ關スル規定ハ町村制ヲ施行セサル地ニ付テハ町村會ニ準スルモノニ關シ之ヲ適用ス

附 則

本令ハ公有水面埋立法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (大正十一年四月十日)

共同... 本令ノ施行ニ關シテハ... 地方長官ノ職權ニ屬スル事項ハ... 關係地方長官共同シテ之ヲ行フ...

◎ 公許水面埋立法施行令 (大正十一年三月八日)

第二類 河 川 公有水面埋立法施行令

二四七

◎公有土地水面使用規則 (大正四年三月八日 大阪府令第一五號)

- 第一條 本則ニ於テ公有土地又ハ水面ト稱スルハ直接公用ニ供シタル道路、竝木敷、堤塘、曳船道、共同物揚場、河海、溜池、水路、溝渠ノ類及之ニ附屬セル土地又ハ水面ニシテ其ノ地盤官有ニ屬スルモノヲ謂フ
- 第二條 公有土地又ハ水面ヲ使用セムトスル者ハ他ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外本則ニ依リ大阪府知事ノ許可ヲ受クヘシ
- 第三條 願書ニハ使用箇所ノ種類、位置、面積、目的、使用方法、平面圖、斷面圖及丈量圖其ノ他必要ナル事項ヲ具備スヘシ
- 2 電柱建設ニ付テハ本柱、支柱、支線ニ區分シタル各本數其ノ他ノモノニシテ面積ニ依リ難キモノハ箇所數ヲ記載スヘシ
- 第四條 願書ニハ管内居住者ニシテ身元確實ナル保證人ノ連署ヲ要ス但シ公共團體ノ出願及電柱建設ノ爲メニスル出願ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第五條 使用期間ハ五年ヲ超ユルコトヲ得ス
- 2 使用期間ヲ更新シテ使用セムトスル者ハ期間滿了前ニ出願スヘシ其ノ期間ハ更新ノ時ヨリ五年ヲ超ユルコトヲ得ス
- 第六條 許可ヲ受ケタル者ハ指定ニ從ヒ使用料金ヲ納付スヘシ
- 2 使用料金ノ徵收ニ關シテハ明治二十四年大阪府告示第五十六號官有土地森林原野收入金徵收規則ヲ準用ス

第七條 許可ヲ受ケタル者ハ使用期間中其ノ區域内ニ於ケル敷地及工作物修理保存ノ責ニ任ス使用ニ因リ區域外ニ涉リ公害ヲ生シ又ハ生セムトスル虞アル場合ハ其ノ區域外ニ付テモ亦同シ

2 前項ニ依リ必要ナル設備又ハ其ノ方法ニ付テハ特ニ之ヲ指定スルコトアルヘシ

第八條 使用ノ方法ニ從フ設備ノ爲メ公有ノ土地又ハ工作物ニ附合セシメタル材料物件ハ無償ニテ公有ニ歸屬ス但シ收去ヲ許可シ又ハ之ヲ命シタルトキハ其ノ分離ノ時ヨリ許可ヲ受ケタル者ノ所有ニ歸ス

第九條 許可ニ因リテ生スル權利ハ私權ノ目的ト爲スコトヲ得ス但シ他人ニ權利換ヲ爲サムトスルトキハ双方連署ノ上出願スヘシ

2 許可ヲ受ケタル者ノ相續人ハ使用ニ關スル一切ノ權利義務ヲ繼承シタルモノト看做ス

第十條 許可ヲ受ケタル者又ハ其ノ保證人ノ住所若ハ氏名ノ異動ハ十四日以内ニ届出ツヘシ

第十一條 使用ノ區域、面積、目的若ハ方法ハ許可ヲ受ケスシテ之ヲ變更スルコトヲ得ス但シ單ニ面積ノ縮少ノミニ止マルモノハ其ノ旨届出ツヘシ

第十二條 左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ許可ヲ取消シ又ハ使用ヲ停止シ若ハ制限スルコトアルヘシ

一 法律命令ノ結果其ノ他公益上必要アリト認ムルトキ

二 使用ニ因リ公害ヲ生シ又ハ生セムトスル虞アリト認ムルトキ

三 許可ヲ受ケタル者本則ノ規定又ハ許可條件ニ違背シ若ハ命令ニ因ル義務ヲ履行セザルトキ

第十三條 許可ヲ受ケタル者ハ本則ノ規定又ハ許可條件若ハ命令ニ因ル處分ヲ拒ミ又ハ其ノ結果

第二類 河 川 公有土地水面使用規則

第二類 河 川 公有土地水面使用規則

生シタル費用及損害ニ付之カ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス

第十四條 使用期間満了ノトキ、許可ヲ取消シタルトキ又ハ使用期間中使ヲ止メムトスルトキハ原形ニ回復シ其ノ旨届出ツヘシ但シ第八條ノ物件ハ許可又ハ命令ニ依ル場合ノ外之ヲ收去スルコトヲ得ス

第十五條 共同シテ許可ヲ受ケタル者ハ各連帶シテ其ノ責ニ任ス保證人ニ付テモ亦同シ

第十六條 第二條ノ許可ヲ得スシテ公有土地又ハ水面ヲ使用シ若ハ第十一條本項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金若ハ科料又ハ拘留ニ處ス

第十七條 市町村ニ於テ其ノ費用ヲ負擔スル堤塘、道路又ハ竝木敷ニ關シテハ本則ヲ適用セス

第十八條 大阪府ノ管理ニ屬スル第一條記載ノ土地又ハ水面ハ地盤ノ官有ニ屬セサルモノト雖トモ仍本則ノ規定ヲ準用ス

附 則

1 本則ハ大正四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

2 明治三十五年四月大阪府令第四十五號ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

3 本則施行ノ際現ニ使用期間中ニ在ルモノハ本則ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

第三類 都市計畫

都市計畫法

(大正八年四月五日 法律第三六號)

改正 大正十二年三月二十八日法律第二七號、十五年三月二十九日同第三八號、昭和六年三月三十日同第一五號、同年同月三十一日同第三〇號、八年三月二十八日同第二二號

第一條 本法ニ於テ都市計畫ト稱スルハ交通、衛生、保安、經濟等ニ關シ永久ニ公共ノ安寧ヲ維持シ又ハ福利ヲ増進スル爲ノ重要施設ノ計畫ニシテ市若ハ主務大臣ノ指定スル町村ノ區域内ニ於テ又ハ其ノ區域外ニ互リ執行スヘキモノヲ謂フ(昭和八年三月法律第二二號改正)

第二條 都市計畫區域ハ市又ハ前條ノ町村ノ區域ニ依リ主務大臣之ヲ決定ス(同上) 2 主務大臣必要ト認ムルトキハ關係市町村及都市計畫委員會ノ意見ヲ聞キ前項ノ區域ニ拘ラズ都市計畫區域ヲ決定スルコトヲ得(同上追加)

第三條 都市計畫、都市計畫事業及毎年度執行スヘキ都市計畫事業ハ都市計畫委員會ノ議ヲ經テ主務大臣之ヲ決定シ内閣ノ認可ヲ受クヘシ

第三類 都市計畫 都市計畫法

第四條 都市計畫委員會ノ組織、權限及費用ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 都市計畫事業ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ行政廳之ヲ執行ス

2 主務大臣特別ノ必要アリト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ行政廳ニ非サル者ヲシテ其ノ出願ニ依リ都市計畫事業ノ一部ヲ執行セシムルコトヲ得

第六條 都市計畫事業ノ執行ニ要スル費用ハ行政官廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ國、公共團體ヲ統轄スル行政廳之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ公共團體、行政廳

ニ非サル者之ヲ執行スル場合ニ在リテハ其ノ者ノ負擔トス

2 主務大臣必要ト認ムルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヲシテ其ノ受クル利益ノ限度ニ於テ前項ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

第七條 主務大臣必要ト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依リ公共團體ノ負擔スヘキ毎年度ノ金額ノ最低限度ヲ定ムルコトヲ得

第八條 公共團體ハ第四條又ハ第六條ノ費用ニ充ツル爲左ノ特別稅ヲ賦課スルコトヲ得但シ府縣費ヲ市ニ分賦スル場合ニ於テ市カ營業稅、雜種稅又ハ家屋稅ヲ賦課スルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ其ノ稅率ヲ定ムヘシ

一 地租割 地租百分ノ九以内 (昭和六年三月法律第三〇號改正)
二 營業收益稅割 營業收益稅百分ノ二十二以内 (大正十二年法律第二七號
十五年同第三八號改正)

三 營業稅、雜種稅又ハ家屋稅 各府縣稅十分ノ四以内

四 特別地稅 賃賃價格千分ノ三・四以内 (大正十五年法律第三八號追加
昭和六年三月同第三〇號改正)

五 其ノ他勅令ヲ以テ定ムルモノ

2 營業收益稅割ノ賦課ニ付テハ營業收益稅法第十條第二項ノ規定ニ依ル資本利子稅額ノ控除ヲ爲ササルモノヲ以テ營業收益稅額ト看做ス (大正十五年三月法律
第三八號追加)

3 特別地稅ノ賦課率ハ當該年度ノ豫算ニ於テ定メタル田畑ニ對スル地租割ノ賦課率ヲ以テ算定シタル地租割額ノ當該田畑ノ賃賃價格ニ對スル比率ヲ超ユルコトヲ得ス
(大正十五年三月法律第三八號追加、昭和六年三月同第三〇號改正)

4 公共團體ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケ公共團體ノ他ノ收入ヲ以テ第四條又ハ第六條ノ費用ニ充ツルコトヲ得

第九條 都市計畫區域内ニ存スル國有河岸地ニシテ公共ノ用ニ供セサルモノハ第六條ノ費用ヲ負擔スル公共團體ニ之ヲ下付スルコトヲ得

第十條 都市計畫區域内ニ於テ市街地建築物法ニ依ル地域又ハ地區ノ指定、變更又ハ廢止ヲ爲ストキハ都市計畫ノ施設トシテ之ヲ爲スヘシ

2 都市計畫區域内ニ於テ市街地建築物法ニ依ル地域及地區ノ外土地ノ狀況ニ依リ必要ト認ムルトキハ風致又ハ風紀ノ維持ノ爲特ニ地區ヲ指定スルコトヲ得

第十一條 第十六條第一項ノ土地ノ境域内又ハ前條第二項ノ規定ニ依リ指定スル地區内ニ於ケル建築物、土地ニ關スル工事又ハ權利ニ關スル制限ニシテ都市計畫上必要ナルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 都市計畫區域内ニ於ケル土地ニ付テハ其ノ宅地トシテノ利用ヲ増進スル爲土地區劃整理ヲ施行スルコトヲ得

2 前項ノ土地區劃整理ニ關シテハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外耕地整理法ヲ準用ス

第十三條 都市計畫トシテ内閣ノ認可ヲ受ケタル土地區劃整理ハ認可後一年内ニ其ノ施行ニ著手スル者ナキ場合ニ於テハ公共團體ヲシテ都市計畫事業トシテ之ヲ施行セシム

2 前項ノ規定ニ依リ公共團體ノ施行スル土地區劃整理ニ付耕地整理法ヲ準用シ難キ事項ニ關シテハ勅令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十四條 地方長官土地區劃整理ノ設計ニ關スル認可ヲ爲ス場合ニ於テハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條 土地區劃整理ヲ施行シタル土地ノ賃賃價格ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ定ム (昭和六年三月法律第三〇號改正)

第十五條ノ二 土地區劃整理ニ付テハ耕地整理法第四十三條ノ規定ニ拘ラス建物アル宅地ヲ土地區劃整理施行地區ニ編入スルコトヲ得 (昭和六年三月法律第一五號追加)

第十六條 道路、廣場、河川、港灣、公園其ノ他勅令ヲ以テ指定スル施設ニ關スル都市計畫事業ニシテ内閣ノ認可ヲ受ケタルモノニ必要ナル土地ハ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

2 前項土地附近ノ土地ニシテ都市計畫事業トシテノ建築敷地造成ニ必要ナルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

第十七條 土地區劃整理ノ爲又ハ衛生上若ハ保安上ノ必要ニ依ル建築物ノ整理ノ爲必要アルトキハ建築物其ノ他ノ工作物ヲ收用スルコトヲ得

第十八條 前二條ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ關シテハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外土地收用法ヲ適用ス

2 前項ノ規定ニ依ル土地收用法ノ適用ニ付テハ前條ノ工作物ハ之ヲ土地ト看做ス

第十九條 第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ付テハ第三條ノ規定ニ依ル都市計畫ノ認可ヲ以テ土地收用法ニ依ル事業ノ認定ト看做ス

第二十條 土地收用法第二十二條第一項ノ協議調ハサル場合又ハ其ノ協議ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ事業執行者ハ主務大臣ノ裁定ヲ求ムルコトヲ得

2 前項ノ場合ニ於テハ收用審査會ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

3 前二項ノ規定ハ損失ノ補償ノ協議ニ關シテハ之ヲ適用セス

第二十一條 第九條ノ規定ニ依リ下付ヲ受ケタル土地及第十六條第二項ノ規定ニ依リ收用シタル土地ノ處分及管理ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 都市計畫事業ニ依リ生シタル營造物ノ管理ニ付特ニ必要アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ管理者ヲ定ム

第二十三條 行政執行法第五條及第六條ノ規定竝之ニ基キテ發スル命令ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ行フヘキ作爲又ハ不作爲ヲ行政廳力強制スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ依リテ爲ス處分ニ依リ私人ノ義務ニ屬スル負擔金其ノ他ノ費用ハ行政廳國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

2 前項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位竝其ノ追徵還付及時效ニ付テハ行政廳ノ統轄スル公共團體ノ徵收金ノ例ニ依ル

第二十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得

2 本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第二十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

附 則

第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正八年十一月二十七日勅令第四八一號ヲ以テ大正九年一月一日ヨリ施行)

第二十八條 東京市區改正條例、東京市區改正土地建物處分規則及大正七年法律第三十六號竝之ニ基キテ發シタル命令ハ之ヲ廢止ス

第二十九條 東京市區改正條例及東京市區改正土地建物處分規則ノ適用又ハ準用ヲ受ケタル市ハ第二條ノ規定ニ依リ指定セラレタルモノト看做ス

第三十條 東京市區改正條例又ハ大正七年法律第三十六號ニ依リ内閣ノ認可ヲ受ケタル設計又ハ議定シタル事業ハ各本法ニ依リ内閣ノ認可ヲ受ケタル都市計畫又ハ都市計畫事業ト看做ス

第三十一條 東京市區改正條例、東京市區改正土地建物處分規則若ハ大正七年法律第三十六號又ハ之ニ基キテ發シタル命令ニ依リ爲シタル處分ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ抵觸セサル限り本法ニ依リ爲シタル處分ト看做ス

第三十二條 東京市區改正土地建物處分規則ノ適用又ハ準用ニ依リ行政廳ノ爲シタル處分ニ關シテハ同規則第一條第二項乃至第四項ハ仍其ノ效力ヲ有ス

第三十三條 東京市區改正條例又ハ大正七年法律第三十六號大正七年勅令第八十四號ニ依リ下付ヲ受ケタル官有ノ河岸地ハ其ノ下付ヲ受ケタル市ノ所有ニ屬スル間地

租ヲ免除ス但シ其ノ市ノ都市計畫事業ノ終リタルトキハ此ノ限ニ在ラス
2 前項ノ河岸地ヨリ收入スル金額ハ其ノ市ノ都市計畫事業ノ終ル迄之ヲ他ニ支出スル

コトヲ得ス
3 第一項ノ河岸地ノ下付ヲ受ケタル市ハ之ヲ賣却讓與スルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル場合ニ於テ都市計畫委員會ノ議決ヲ經テ主務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

附 則

(大正十五年三月三十日法律第三八號)

1 本法ハ大正十五年度分ヨリ之ヲ適用ス但シ營業收益稅割ニ關スル改正規定ハ大正十六年度分ヨリ之ヲ適用ス
2 營業稅法廢止法律ニ依リテ免除セララル營業稅額ハ大正十五年度分國稅營業稅割ノ賦課ニ付テハ免除セラレサルモノト看做ス

附 則

(昭和六年三月三十日法律第三〇號)

1 本法ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第八條ノ改正規定ハ昭和六年度分ヨリ之ヲ適用ス
2 昭和六年度分ニ付テハ第八條ノ改正規定中百分ノ九トアルハ百分ノ八、千分ノ三・四トアルハ千分ノ三・二トス
3 昭和六年度分ニ限り勅令ヲ定ムル所ニ依リ從前ノ地租ヲ標準トシ從前ノ規定ニ依リ地租割ヲ賦課スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ特別地稅ヲ賦課スルトキハ勅令ノ定ムル

所ニ依リ從前ノ地價ヲ標準トシ從前ノ規定ニ依リ之ヲ賦課スベシ

附 則

(昭和八年三月二十二日法律第二二號)

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和八年五月二日勅令第八十三號ヲ以テ同年五月十日ヨリ施行)

都市計畫法施行令

(大正八年十一月二十日勅令第四八二號)

改(大正十年十月五日勅令第四一六號、昭和四年十二月二十八日同) 正(第三九五號、六年四月一日同第四五號、八年五月一日同第八四號)

第一條 都市計畫事業ハ市又ハ都市計畫法第一條ノ規定ニ依リ指定スル町村ヲ統轄スル行政廳之ヲ執行ス(昭和八年五月勅令第八四號改正)

第二條 市又ハ前條ノ町村ノ區域外ニ於テ又ハ區域外ニ互リ都市計畫事業ヲ執行スル場合ニ於テ内務大臣區域外ニ於ケル事業カ主トシテ區域外ノ公共團體ノ利害ニ關スルト認ムルトキハ前條ノ規定ニ拘ラス其ノ公共團體ヲ統轄スル行政廳ヲシテ區域外ニ於ケル事業ヲ執行セシムルコトヲ得(同上)

第三條 內務大臣都市計畫事業カ分割シテ之ヲ執行スルコト困難又ハ不利益ト認ムルトキ其ノ他特別ノ事情アリト認ムルトキハ前二條ノ規定ニ拘ラス事業ヲ執行スヘキ

第三類 都市計畫 都市計畫法施行令

行政廳ヲ指定スルコトヲ得

第四條 前三條ノ規定ハ行政官廳都市計畫事業ヲ執行スル場合ニ之ヲ適用セス

第五條 行政廳ニ非サル者ヲシテ執行セシムルコトヲ得ル都市計畫事業ノ種類及範圍ハ關係行政廳ノ意見ヲ聞キ都市計畫委員會ノ議ヲ經テ內務大臣之ヲ定ム

第六條 行政廳ニ非サル者都市計畫事業ヲ執行セムトスルトキハ內務大臣ニ特許ヲ申請スヘシ

第七條 內務大臣ハ前條ノ特許ニ都市計畫上其ノ他公益上必要ト認ムル條件ヲ附スルコトヲ得

第八條 第六條ノ特許ヲ受ケタル者事業ヲ實施セムトスルトキハ設計書ヲ添附シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ非サレハ都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ヲシテ事業ノ執行ニ要スル費用ヲ負擔セシムルコトヲ得ス

一 行政官廳ノ執行スル事業ニ因リ公共團體カ著シク利益ヲ受クルトキ

二 事業地ノ公共團體以外ノ公共團體ヲ又ハ上級公共團體ヲ統轄スル行政廳ニ於テ執行スル事業ニ因リ事業地ノ公共團體カ著シク利益ヲ受クルトキ

三 事業ニ因リ生シタル營造物カ他ノ工作物ト效用ヲ兼ヌルニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキ又ハ其ノ營造物ヲ利用スルニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキ

四 前各號ノ外都市計畫事業ニ因リ著シク利益ヲ受クル者ニシテ內務大臣ヨリ指定

セラレタルモノアルトキ

第十條 都市計畫法第六條第二項ノ規定ニ依リ負擔セシムル費用ノ金額及其ノ負擔方法ニ付テハ關係市町村長ノ意見ヲ聞キ都市計畫委員會ノ議ヲ經テ內務大臣之ヲ定ム

第十一條 都市計畫法第十六條第一項ノ土地ノ境域内ニ於テ工作物ヲ新築改築増築若ハ除却シ、土地ノ形質ヲ變更シ又ハ地方長官ノ指定シタル竹木土石ノ類ヲ採取セムトスル者ハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ但シ命令ヲ以テ許可ヲ要セスト規定シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 地方長官ハ前條ノ許可ニ都市計畫事業ノ執行上必要ナル條件ヲ附スルコトヲ得

第十三條 風致維持ノ爲指定スル地區内ニ於ケル工作物ノ新築改築増築若ハ除却、土地ノ形質ノ變更、竹木土石ノ類ノ採取其ノ他風致維持ニ影響ヲ及ホス虞アル行爲ハ地方長官內務大臣ノ認可ヲ受ケ命令ヲ以テ之ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第十四條 地方長官ハ第十一條ノ規定ニ、前條ノ命令ニ又ハ第十二條ノ條件ニ違反シタル者ニ對シ原狀回復ヲ命スルコトヲ得

第十五條 都市計畫法第十三條第一項ノ規定ニ依ル公共團體ノ土地區劃整理ノ施行ハ內務大臣之ヲ命ス

第十六條 前條ノ土地區劃整理ノ施行ニ要スル費用ハ整理地區内ノ土地所有者又ハ關係人ノ負擔トス

第三類 都市計畫 都市計畫法施行令

2 前條ノ土地區劃整理ノ地區外ノ土地所有者又ハ關係人ニシテ其ノ施行ニ因リ著シク利益ヲ受クル者アルトキハ内務大臣ノ定ムル區域ニ依リ之ヲシテ其ノ受クル利益ノ限度ニ於テ前項ノ費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得 (昭和四年十二月勅令第三九五號追加)

第十七條 公共團體第十五條ノ規定ニ依リ土地區劃整理ノ施行ヲ命セラレタルトキハ設計書、費用負擔方法及耕地整理法ニ基ク規約ニ代ルヘキ必要事項ヲ定メテ之ヲ告示シ十日間土地所有者及關係人ノ縦覽ニ供シタル後地方長官ノ認可ヲ受クヘシ (昭和六年四月勅令第四五號改正)

2 土地所有者又ハ關係人前項ノ規定ニ依リ定メタル設計書、費用負擔方法其ノ他ノ事項ニ關シ異議アルトキハ前項ニ掲クル期間内ニ地方長官ニ之ヲ申出ツルコトヲ得 (同上)

3 前項ノ規定ニ依ル異議ノ申出アリタルトキハ地方長官ハ都市計畫委員會ノ議決ニ付スヘシ

4 地方長官ハ前項ノ議決カ第一項ノ規定ニ依リ定メタル設計書、費用負擔方法其ノ他ノ事項ノ變更ヲ必要トスルトキハ公共團體ニ其ノ變更ヲ命スヘシ公共團體力變更ヲ爲シタルトキハ其ノ變更シタル部分ニ付第一項ノ手續ヲ爲スヘシ (同上)

第十八條 前二條ノ土地所有者及關係人ノ意義ニ關シテハ耕地整理法ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 第十五條ノ土地區劃整理ノ施行ニ付テノ耕地整理法ノ準用ニ關シテハ同法第四十二條ノ二、第四十七條及第四十八條ノ組合ハ土地區劃整理ヲ施行スル公共團體トシ同法第四十三條第一項及第四十四條ノ耕地整理組合ノ地區ハ土地區劃整理ノ地區トス

第二十條 土地區劃整理ヲ施行シタル土地ノ賃貸價格ニ關シテハ耕地整理法第十二條乃至第十三條ノ二、第十四條第二項、第三項、第十四條ノ二乃至第十六條及第十六條ノ三乃至第十六條ノ八ノ規定ヲ準用ス (昭和六年四月勅令第四五號改正)

2 土地區劃整理ノ施行ニ依リ開墾、地目變換又ハ地類變換ヲ爲シタル場合ニ於テハ工事完了ノトキ開墾又ハ變換シタル土地ニ對シ從前ノ地域ニ依リ地租法第九條第三項ノ規定ニ準シ其ノ賃貸價格ヲ修正シ修正賃貸價格ヲ以テ耕地整理法第十三條第二項ノ現賃貸價格トス (同上)

3 第一項ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ耕地整理法第十四條第二項、第三項及第十四條ノ三、第十五條、第十六條ノ八中ノ同法第十四條第一項ノ規定ト看做ス (同上)

第二十一條 鐵道、軌道、運河、飛行場、水道、下水道、土地區劃整理、運動場、一團地ノ住宅經營、市場、屠場、墓地、火葬場及塵埃燒却場ハ都市計畫法第十六條第一項ノ規定ニ依リ之ヲ指定ス (昭和八年五月勅令第八四號改正)

第二十二條 都市計畫法第十六條第二項ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ハ土地區劃整理ヲ施行スル必要アル場合ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

第三類 都市計畫 都市計畫法施行令

第二十三條 前條ノ規定ニ依リ收用シタル土地ハ土地區劃整理ノ工事完了後ニ非サレハ之ヲ賣却シ又ハ貸付スルコトヲ得ス

第二十四條 前條ノ規定ニ依ル土地ノ賣却又ハ貸付ハ左ニ掲クル者ニ對シ毎筆競争入札ニ依リテ之ヲ行フ

一 其ノ土地ノ附近地カ都市計畫法第十六條第一項ノ規定ニ依リ收用セラレタル場合ニ於テ其ノ收用セラレタル附近地ノ全部又ハ一部ヲ收用ノ際所有シタル者又ハ其ノ相續人

二 前號ノ附近地ノ上ニ存シタル家屋ヲ其ノ附近地收用ノ際所有シタル者

三 其ノ土地ノ全部又ハ一部ヲ其ノ土地收用ノ際所有シタル者又ハ其ノ相續人

四 其ノ土地ノ上ニ存シタル家屋ヲ其ノ土地收用ノ際所有シタル者

2 前項ニ掲クル者一人ナルトキハ其ノ者ニ對シ隨意契約ニ依リ賣却又ハ貸付スルコトヲ得

第二十五條 前條ノ規定ニ依リ賣却又ハ貸付スルコトヲ得サル土地ノ賣却又ハ貸付ニ付テハ一般ノ競争入札ニ依ル

第二十六條 一宅地ヲ爲スニ足ラサル殘地ハ隣地所有者ニ對シ隨意契約ニ依リ賣却又ハ貸付スルコトヲ得

第二十七條 都市計畫事業ニ要スル國有地ハ事業ノ執行ニ要スル費用ヲ負擔スル公共團體ヲシテ無償ニテ之ヲ供用セシメ其ノ地ニ存スル國有ノ建築物ハ無償ニテ其ノ公

共團體ニ之ヲ交付ス

第二十八條 都市計畫法第九條ノ規定ニ依リ下付ヲ受ケタル土地ハ都市計畫事業ノ財源ト爲ス爲基本財産トシテ管理スヘシ但シ特別ノ事由ニ依リ内務大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 公共團體ハ第二十三條ノ土地ノ賣却若ハ貸付ニ付又ハ都市計畫法第十六條第二項ノ規定ニ依リ收用シタル土地若ハ前二條ノ土地ノ管理方法ニ付必要ナル規定ヲ定メ地方長官ヲ經由シ内務大臣ノ認可ヲ受クハシ

第三十條 内務大臣必要ト認ムルトキハ都市計畫事業ニ依リ生シタル營造物ノ管理者ヲ指定スルコトヲ得

附 則

本令ハ都市計畫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (大正九年一月一日)

附 則

(昭和四年十二月二十七日勅令第三九五號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則

(昭和六年四月一日勅令第四五號)

1 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三類 都市計畫 都市計畫法施行令

第三類 都市計畫 都市計畫法施行令

- 2 昭和六年法律第二十九號附則第三條、第五條、第九條乃至第十四條及第十八條ノ規定ハ土地區劃整理ヲ施行シタル土地ノ賃賃價格ニ付之ヲ準用ス
- 3 前項ノ場合ニ於テハ第二十條第二項ノ改正規定ヲ耕地整理法附則第九條、第十條及第十八條中ノ同法第十四條第一項ノ規定ト看做ス

附 則

(昭和八年五月一日 勅令 第八四號)

- 1 本令ハ昭和八年法律第二十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和八年五月二日勅令第八三號ヲ以テ同年五月十日ヨリ施行)
- 2 大正十二年勅令第二百七十六號、大正十三年勅令第三百三十五號、大正十四年勅令第三十二號、大正十五年勅令第十一號、昭和二年勅令第三十五號、同年勅令第三百五十六號、昭和三年勅令第二百二十五號、昭和四年勅令第七十四號、昭和五年勅令第四百四十二號、昭和六年勅令第二百七十四號、昭和七年勅令第三百二十二號及昭和八年勅令第七號ハ之ヲ廢止ス

特別都市計畫法 (抄)

(大正十二年十二月二十四日 法律 第五三三號)

第一條 本法ニ於テ特別都市計畫ト稱スルハ東京及橫濱ニ於ケル都市計畫ヲ謂フ (以下略)

特別都市計畫法施行令

(大正十三年三月十七日 勅令 第四九號)

改(大正十五年四月二十三日勅令第七六號) 正(昭和六年四月一日同第四六號)

(本文略)

◎都市計畫委員會官制 (大正八年十一月二十八日 勅令 第四八三號)

改 大正十一年五月同第二七二號、十二年五月同第二七五號、十三年七月同第三五七號、同年十一月同第四七二號、十三年七月同第一六四號、昭和三年五月二十一日同第八七號、五年三月二十八日同第四二號、八年五月一日同第八五號

- 第一條 都市計畫委員會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ法律勅令ニ依リ其ノ權限ニ屬セシメタル事項其ノ他都市計畫上必要ナル事項ヲ調査審議ス
- 第二條 都市計畫委員會ハ都市計畫ニ關スル事項ニ付關係各大臣ノ諮問ニ應シ又ハ關係各大臣ニ建議スルコトヲ得
- 第三條 都市計畫委員會ハ都市計畫中央委員會及都市計畫地方委員會トス
- 第四條 都市計畫中央委員會ハ内務省ニ之ヲ置ク都市計畫地方委員會ハ道府縣毎ニ之ヲ置キ道府縣ノ名ヲ冠ス(昭和八年五月勅令第八五號改正)
- 第四條ノ二 都市計畫委員會ノ議決ヲ經ヘキ事項ハ内務大臣之ヲ都市計畫委員會ノ議ニ付ス但シ
- 第三類 都市計畫 特別都市計畫法施行令 都市計畫委員會官制 二六七

第三類 都市計畫 都市計畫委員會官制

都市計畫地方委員會ニ對スル輕易ナル事項ノ付議ハ之ヲ地方長官又ハ市長ニ委任スルコトヲ得
第五條 都市計畫委員會ノ議決ヲ經ヘキ事項ニシテ專ラ一地方ニ關スルモノニ付テハ其ノ地方委員會ノ議決ヲ以テ都市計畫委員會ノ議決トシ其ノ他ノ事項ニ付テハ中央委員會ノ議決ヲ以テ都市計畫委員會ノ議決トス但シ地方委員會ノ議決ヲ經タル事項ニシテ內務大臣更ニ審議ノ必要アリト認ムルモノニ付テハ之ヲ中央委員會ノ議ニ付シ其ノ議決ヲ以テ都市計畫委員會ノ議決ト看做ス

第六條 中央委員會及地方委員會ハ會長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第七條 中央委員會ノ會長ハ內務大臣ヲ以テ之ニ充ツ

第八條 中央委員會ノ委員ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ニ充ツ (昭和八年五月勅令第八五號改正)

- 一 關係各廳高等官 十六人以内
- 二 學識經驗アル者 十二人以内
- 2 地方委員會ノ委員ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ニ充ツ
 - 一 市長及都市計畫法第一條ノ規定ニ依リ指定スル町村ノ町村長
 - 二 內務部長タル北海道廳部長又ハ府縣書記官、警察部長タル北海道廳部長又ハ府縣書記官、(東京地方委員會ニ在リテハ保安部長タル警視廳部長)及土木部長タル北海道廳部長、府縣書記官又ハ地方技師

三 關係各廳高等官 八人以内

四 市會議員及第一號ノ町村ノ町村會議員 市町村會議員各定數ノ六分ノ一以内但シ一市町村ニ付十五人ヲ超ユルコトヲ得ズ

五 道府縣會議員 道府縣會議員定數ノ十分ノ一以内

六 市長以外ノ市吏員 一市ニ付二人以内

七 學識經驗アル者 十人以内

八 東京地方委員會ニ在リテハ警視總監及東京府知事

九 前項第一號、第四號及第六號ニ掲グル者ハ其ノ市町村ニ關セザル事項ニ付議事ニ參與スルコトヲ得ズ但シ會長ニ於テ必要ト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

十 第一項及第二項ニ掲グル者ノ外臨時ニ必要アル場合ニ於テハ臨時委員ヲ命ジ議事ニ參與シ決議ノ數ニ加ハラシムルコトヲ得

十一 第一項第一號並ニ第二項第一號乃至第三號及第八號ニ掲グル者事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理スル者議事ニ參與シ決議ノ數ニ加ハルコトヲ得

十二 市町村會及道府縣會ハ第二項第四號及第五號ノ規定ニ依ル委員タルベキ者ヲ選舉スベシ

十三 第九條 中央委員會ノ委員及臨時委員ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ズ (同上)

十四 地方委員會ノ委員及臨時委員ハ前條第二項第一號、第二號及第八號ニ掲グル者ヲ除クノ外內務大臣之ヲ命ズ

十五 第十條 會長ハ會務ヲ總理ス

十六 會長事故アルトキハ中央委員會ニ在リテハ內務大臣ノ、東京地方委員會ニ在リテハ內務次官ノ、

第三類 都市計畫 都市計畫委員會官制

第三類 都市計畫 都市計畫委員會官制

其ノ他ノ地方委員會ニ在リテハ地方長官ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス（昭和五年三月勅令第四二號改正）

第十一條 委員會ハ都市計畫ニ關シ必要アル時ハ期間ヲ指定シ關係道府縣市町村ヲシテ特定ノ事項ニ付調査ヲ爲サシメ又ハ必要ナル圖書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第十二條 委員會ハ臨時委員ヲ派遣シテ都市計畫事業執行ノ狀況ヲ檢査セシムルコトヲ得

第十三條 委員會ハ開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ招集及會議ノ事項ヲ委員及臨時委員ニ通知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 委員會ハ委員及臨時委員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第十五條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第十六條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第十七條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第十八條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第十九條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第二十條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第二十一條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第二十二條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第二十三條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第二十四條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第二十五條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第二十六條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第二十七條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第二十八條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第二十九條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第三十條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第三十一條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第三十二條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第三十三條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第三十四條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第三十五條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第三十六條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第三十七條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第三十八條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第三十九條 委員會ハ會議ノ議長ト爲ル

第三類 都市計畫 都市計畫委員會官制

1 本令ハ都市計畫法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大正九年一月一日）

附 則

- 4 第八條第三項第五項、第十二條第一項、第十三條及第十四條ノ規定ハ常務委員會ニ之ヲ準用ス
- 第十六條 委員會ニ幹事若干人ヲ置ク中央委員會ノ幹事ハ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ジ地方委員會ノ幹事ハ內務大臣之ヲ命ズ（同上）
- 2 幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス
- 第十七條 地方委員會ニ通シテ左ノ職員ヲ置ク（同上）
 - 事務官 專任十二人以内 奏任
 - 技師 專任七十人以内 奏任
 - 書記 專任七十七人以内 判任
 - 技手 專任百六十八人以内 判任
- 2 前項ニ掲クル職員ノ各地方委員會ノ定員ハ內務大臣之ヲ定ム
- 3 事務官ハ上司ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル
- 4 技師ハ上司ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル
- 5 書記及技手ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務及技術ニ從事ス
- 第十七條ノ二 削除（昭和五年三月勅令第四二號）
- 第十八條 地方委員會ノ判任官ノ進退ハ東京地方委員會ニ在リテハ內務大臣、其ノ他ノ地方委員會ニ在リテハ地方長官之ヲ專行ス

第三類 都市計畫 都市計畫委員會官制

- 2 都市計畫調查會官制ハ之ヲ廢止ス
- 3 地方委員會ニ要スル費用ハ當分ノ内北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス
- 4 東京市、京都市、大阪市、橫濱市、神戸市及名古屋市ノ市區改正委員會ノ委員ニシテ東京市區改正委員會組織權限規程第一條第二項第五號ノ規定又ハ大正七年勅令第百八十三號第二條第四號ノ規定ニ依リ任命セラレタル者ハ第八條ノ規定ニ依リ任命セラレタル委員ト看做ス

附 則 (大正十一年勅令第二七二號)

- 1 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 2 従前ノ都市計畫地方委員會ハ本令ニ依ル都市計畫地方委員會ト看做ス
- 3 本令施行ノ際現ニ臨時委員ノ職ニ在ル者ニシテ別ニ辭令書ヲ交付セラレサルモノハ之ヲ本令ニ依ル臨時委員ト看做ス

附 則 (大正十二年勅令第二七五號)

本令ハ大正十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大正十二年勅令第三五七號、同年同第四七二號、十三年同第一六四號、昭和三年五月同第八七號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和五年三月二十八日勅令第四二號)

本令ハ昭和五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和八年五月二日勅令第八五號)

本令ハ昭和八年法律第二十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和八年五月十日)
本令施行ノ際従前ノ第八條第二項第二號ノ委員ニシテ第八條第二項第二號ノ改正規定ニ依リ委員タルモノハ同條同項第三號ノ改正規定ニ依ル委員タラザルモノトス

◎都市計畫付議事項發案權委任ノ件 (大正十一年七月二十一日) (內務省告示第一七六號)

都市計畫委員會官制第四條ノ二但書ノ規定ニ依リ左ニ掲クル事項ノ付議ハ事業執行者タル知事又ハ市長ニ之ヲ委任ス
一 事業ノ實施上必要ヲ生シタル設計ノ些少ノ變更
二 既定ノ事業年度ヲ延長セサル年度割ノ變更
三 前二號ノ外知事又ハ市長ニ於テ輕易ト認メ内務大臣ノ認可ヲ受ケタル事項

◎都市計畫地方委員會付議事項發案權委任ニ關スル件

(大正十一年八月十八日發第一二〇號) 都市計畫局長 通牒

本年七月二十一日當省告示第一七六號標記ノ件中第一號事業ノ實施上必要ヲ生シタル設計ノ些少

第三類 都市計畫 都市計畫委員會官制 都市計畫付議事項發案權委任ニ關スル件 都市計畫地方委員會付議事項發案權委任ニ關スル件

第三類 都市計畫 都市計畫地方委員會付議事項發案權委任ニ關スル件 二七四

ノ變更トアルハ專ラ技術上ノ見地ヨリ局部ノ變更ヲ要スルモノニ限ル義ニシテ街路改正ノ方針ヲ變更スルカ如キ關係ニアルモノハ勿論其ノ路線ニ付多少ニテモ地方ノ問題ヲ惹起セル如キモノハ之ヲ含マサル次第ニ有之候條右ニ御處置相成度爲念此段及通牒候也

◎都市計畫地方委員會付議事項發案權委任ニ關スル件

(大正十一年十月十日發第一三一號) 都市計畫局長 通牒

本年七月二十一日當省告示第一七六號標記ノ件ノ委員會付議ハ決定權ノ委任ニアラス付議ノ委任ナルヲ以テ其ノ意味ヲ明瞭ナラシムル爲爾今之カ付議案ハ左ノ文例ニ依ルコトニ御措置相成度此段及通牒候也

記

左記ノ件内務大臣ノ委任ニ依リ都市計畫何々地方委員會ニ付議ス

年 月 日

知事又ハ市長

一 何々決定又ハ變更ノ件

何々 (付議事項ノ内容)

◎都市計畫法施行令第九條第四號ノ規定ニ依ル受益者指定ノ件

(大正九年九月六日) 内務省令第二八號

改(大正十四年十一月二十八日内務省令第二六號、昭和五) 正(大正十四年十一月二十二日同第三號、七年十一月七日同第四六號)

都市計畫法施行令第九條第四號ノ規定ニ依リ指定スルコト左ノ如シ

- 一 都市計畫事業トシテ道路、廣場、公園ノ新設、擴築若ハ路面ノ改良又ハ軌道ノ建設者ハ河川、運河ノ新設、改修ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ道路、廣場、公園、軌道、河川若ハ運河ノ附近ニ於テ内務大臣ノ定ムル區劃内ニ在ル有租地ノ所有者但シ賃權ノ目的タル土地ニ付テハ賃權者、十年ヨリ長キ期間ノ定アル地上權、永小作權及賃借權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權者、永小作人及賃借人(大正十四年十一月内務省令第二六號、昭和五年一月同第三號、七年十一月同第四六號改正)
- 一 前號ノ區劃内ニ在ル無租地ニシテ公用又ハ公共ノ用ニ供セラレサルモノニ付テハ地上權者、永小作人及賃借人

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎大阪都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔ニ關スル件 (昭和八年五月十一日) 内務省令第一四號

第一條 大阪市長ハ都市計畫事業トシテ其ノ執行スベキ道路ノ新設又ハ擴築ニ要スル費用ヲ本令

第三類 都市計畫 都市計畫法施行令第九條第四號ノ規定ニ依ル指定ノ件 二七五
大阪都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔ニ關スル件

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔ニ關スル件 二七六

ノ定ムル所ニ依リ受益者ヲシテ負擔セシムベシ

第二條 本令ニ於テ受益者ト稱スルハ大正九年內務省令第二十八號ニ拘ラズ第三條ノ負擔區劃内

ニ在ル土地ニ付左ニ掲グル者ヲ謂フ

- 一 有租地ノ所有者、質權者、永小作人、地上權者、賃借人、使用借主及轉借人但シ永小作人、地上權者、賃借人、使用借主及轉借人ニ付テハ建物(假設的ノモノヲ除ク)ノ所有ヲ目的トスルモノ又ハ其ノ權利ノ存續期間十年(事業著手前ニ設定セラレタル權利ノ存續期間ハ事業著手ノ日ヨリ起算ス)ヨリ長キモノニ限ル
- 二 無租地ニ付左ニ掲グル者但シ一時的ノモノヲ除ク

イ 地租法第二條及地租法以外ノ法令ノ規定ニ依ル無租地(保安林及都市計畫法第三十三條

ノ河岸地ヲ除ク)ノ本來ノ用途ニ反スト認ムル方法ニ依リ其ノ使用收益ヲ爲シ又ハ其ノ

權利ヲ設定シタル所有者及其ノ權利ヲ有スル者

ロ イ以外ノ無租地ノ永小作人、地上權者、賃借人、使用借主、轉借人及占用權者

第三條

負擔區劃ハ道路ノ周圍ニ於テ其ノ境界線(街角ヲ剪除シタル部分ニ在リテハ其ノ剪除セ

ザル部分ノ道路境界線ヲ延長シタル線)ヨリ道路(道路ノ一部ヲ成ス廣場ニ在リテハ之ニ接續

スル幅員最モ大ナル道路)ノ幅員ノ五倍ノ地域トス

2 土地ノ狀況ニ依リ前項ノ負擔區劃ヲ擴張スル必要アリト認ムルトキハ前項ノ道路幅員ノ十倍以

内ニ於テ內務大臣之ヲ決定ス

3 第四條第四項ノ事業費ノ負擔ニ付テハ前二項ノ規定ニ拘ラズ內務大臣ハ別ニ負擔區劃ヲ定ムル

コトヲ得

第四條

前條ノ負擔區劃内ノ受益者負擔額ハ道路新設ノ場合ハ其ノ事業費ノ三分ノ一、道路擴築

ノ場合ハ其ノ事業費ノ四分ノ一トス但シ前條第二項ノ場合ニ於テ道路新設ノ場合ハ其ノ事業費

ノ十分ノ五道路擴築ノ場合ハ其ノ事業費ノ十分ノ四以内ニ於テ內務大臣之ヲ決定ス

2 道路擴築ノ場合ニ於テ其ノ擴築道路ノ地積ガ其ノ敷地内ニ在ル舊道路ノ地積ノ三倍以上トナル

トキハ前項ノ適用ニ關シテハ之ヲ道路新設ト看做ス

3 前項ノ地積ハ第五條第一項第一號ノ區分毎ニ之ヲ計算ス

4 隧道、橋梁其ノ他特殊ノ工事又ハ特殊ノ物件ノ移轉ニシテ著シク多額ノ費用ヲ要スルモノアル

トキハ其ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ控除シタル額ヲ以テ第一項ノ事業費トスルコトヲ得

5 前項ノ規定ニ依リ控除スル額ハ市長之ヲ告示スベシ

第五條

各受益者ノ負擔金額ハ左記各號ニ依リ之ヲ定ム

一 各路線ヲ土地ノ狀況ニ依リ適當ニ區分シ其ノ區分ニ依リ第三條ノ負擔區劃ヲ一箇又ハ數箇

ノ負擔區トシ該當區分内ノ事業費ニ付其ノ區ノ負擔額ヲ定ム

二 前號ノ負擔區ヲ利益ヲ受クル厚薄ニ依リ一箇又ハ數箇ノ地帯トシ各地帯ニ前號ノ負擔額ヲ

一定ノ率ニ依リ配分ス

三 道路ニ接スル地帯内ノ土地ニ對シテハ其ノ地帯ニ配分セラレタル負擔額ノ半額ヲ其ノ道路

ニ接スル部分又ハ間口ノ利用之ト同等ト認ムル部分ノ長ニ比例シ他ノ半額ヲ其ノ地積ニ比例

シ其ノ他ノ地帯内ノ土地ニ對シテハ其ノ地帯ニ配分セラレタル負擔額ヲ其ノ地積ニ比例シテ

配分ス

2 第三條第二項ノ規定ニ依リ負擔區劃ヲ定メタル場合ニ於テハ前項第三號ノ間口負擔ノ割合ヲ三

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔ニ關スル件 二七七

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔ニ關スル件 二七八

- 分ノ一迄低下シ其ノ殘額ヲ地積ニ比例シテ各當該土地ノ受益者ノ負擔金額ヲ定ムルコトヲ得
- 3 第二條第二號ノ受益者ニ對シテハ前二項ノ規定ニ依ル負擔金額ノ範圍内ニ於テ市長ハ別ニ其ノ負擔スベキ金額ヲ定ムルコトヲ得
- 4 同一ノ土地ニ付二以上ノ受益者アル場合ニ於テハ前三項ノ規定ニ依ル負擔金額ハ市長ノ定ムル分擔割合ニ依リ各受益者之ヲ分擔ス
- 5 第一項第一號ノ負擔區、第二號ノ地帶及率、第二項ノ規定ニ依リ定メタル間口負擔ノ割合、第三項ノ規定ニ依リ定メタル金額、前項ノ規定ニ依ル分擔割合ハ市長之ヲ告示スベシ
- 第六條 河川、運河、溝渠、鐵道、新設軌道、崖地等ニシテ土地ノ利用ヲ區分スベキ地物ガ第三條第一項、第二項ノ地域内ニ在ルトキハ之ヲ以テ負擔區劃ノ限界トス
- 2 同等以上ノ效用アリト認ムル並行道路ガ第三條第一項、第二項ノ負擔區劃ノ二倍ノ地域内ニ在ル時ハ其ノ道路トノ間隔ノ中央線ヲ以テ負擔區劃ノ限界トス但シ其ノ間隔内ニ前項ノ地物アルトキハ前項ノ例ニヨル
- 3 前二項ノ場合ニ於ケル各受益者ノ負擔金ノ算定ニ付テハ負擔區劃ノ限界ナキモノト看做ス
- 第七條 負擔金ハ其ノ負擔區ノ事業著手ノ日ノ現在ニ依ル受益者ヨリ之ヲ納付セシム
- 2 前項ノ事業著手ノ日ハ市長之ヲ告示スベシ
- 3 各受益者ノ負擔金額ヲ決定シタルトキハ市長ハ之ヲ受益者ニ通知スベシ
- 4 第一項ノ事業著手ノ日ノ後ニ於テ負擔金ヲ課セラルベキ土地ノ所有者、質權者、永小作人、地上權者、賃借人、使用借主又ハ轉借人ニ異動アリタルトキハ新ニ其ノ土地ノ當該權利ヲ取得シタル者ヨリ其ノ土地ニ關スル未納額(滯納額ヲ除ク)ヲ納付セシム但シ前者ニ於テ納付シタル部

分ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

5 前項ノ規定ニ依リ納付セシムベキ金額ハ市長之ヲ通知スベシ

6 前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ前者ノ負擔義務ハ前項ノ金額ノ範圍ニ於テ消滅ス

第八條 市長ハ各受益者ヲシテ市長ノ相當ト認ムル擔保ヲ提供セシメ且利子ニ相當スル増負擔金ヲ納付セシメ前條第三項ノ決定通知ノ日ヨリ七年ヲ超エザル期間ニ於テ負擔金ノ分割延納ヲ爲サシムルコトヲ得

第九條 負擔金ハ事業費豫算額ニ依リ算出ス

2 前項ノ負擔金額ガ事業費精算額ニ依リ算出シタル各受益者ノ負擔金額ニ比シ超過スルトキハ之ヲ還付シ不足スルトキハ之ヲ追徴ス但シ市長ニ於テ大差ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

3 第一項ノ事業費豫算額及前項ノ事業費精算額ハ市長之ヲ告示スベシ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ負擔金ヲ減免スルコトヲ得但シ第二號及第三號ノ場合ニ於ケル減免額ハ其ノ寄附額、工事費額又ハ提供額ヲ超ユルコトヲ得ズ

一 都市計畫法又ハ道路法ノ規定ニ依リ道路ノ新設若ハ擴築又ハ路面改良ニ要スル費用ヲ著シク利益ヲ受クルニ依リ負擔スベキ關係ニ該當シタル土地ガ五年以内ニ重複シテ本令ニ依リ負擔金ヲ課セラルベキ關係ニ該當スルトキ

二 道路ノ新設又ハ擴築ニ要スル費用ヲ補足スル爲土地、物件、勞力若ハ金錢ヲ寄附シ又ハ市長ガ適當ト認ムル工法ニ依リ工事ヲ施行シテ之ヲ寄附シタル者アルトキ

三 道路ノ新設又ハ擴築ニ要スル土地ヲ土地區劃整理ノ施行ニ依リ無償ニテ國若ハ公共團體ノ所有地ニ編入シ又ハ無償ニテ提供シタルトキ

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔ニ關スル件 二七九

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔ニ關スル件 二八〇

- 四 土地ノ狀況ニ依リ市長ニ於テ必要アリト認ムルトキ
- 五 左ノ土地ニ付其ノ受益者ノ申請ニ依リ必要アリト認メタルトキ
 - イ 國、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地
 - ロ 神社寺院祠宇佛堂ノ境内地、教會所說教所ノ構内地及私立學校用地免租ニ關スル法律第一條ニ掲グルモノノ用ニ供スル土地
 - ハ 都市計畫法第十六條第一項ノ土地
 - ニ 市街地建築物法第二十六條第二項ノ道路ノ境域内ニ在ル土地
- 2 前項第二號及第三號ノ寄附額又ハ提供額ハ市長之ヲ評定シ第四條ノ事業費ニ算入ス
- 第十一條 本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附 則

- 1 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 2 大正十一年内務省令第十七號ハ之ヲ廢止ス
- 3 本令施行前納額告知書ヲ發行シタル負擔金（負擔金ノ一部ニ付納額告知書ヲ發行シタルモノニ付テハ其ノ全部）ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ負擔金ノ未納額ニ付テハ第七條第四項乃至第六項及第八條ノ規定ヲ適用ス此ノ場合ニ於テハ最初ノ納額告知書發行ノ日ヲ以テ第七條第三項ノ決定通知ノ日ト看做ス
- 4 本令施行前既ニ事業ニ著手シ未ダ納額告知書ヲ發行セザル負擔金ニ付テハ本令ヲ適用ス

◎大阪都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔規程施行細則（昭和八年五月十一日 大阪市告示第一四七號）

- 第一條 本細則ニ於テ省令ト稱スルハ昭和八年内務省令第十四號大阪都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔ニ關スル件ヲ謂フ
- 第二條 省令第二條ノ規定スル權利ノ目的タル土地ノ所有者ハ其ノ土地ノ所在、地積、間口ノ長、土地ノ見取圖、權利ノ種類、設定ノ年月日、存續期間、建物所有ノ目的ノ有無、有料無料ノ區別及權利者ノ住所氏名並關係事業路線名ヲ第一號様式ニ依リ權利者連署ノ上事業著手ノ告示ヲ爲シタル日ヨリ三十日以内ニ市長ニ申告スベシ
- 第三條 省令第五條ノ規定ニ依ル負擔區、地帶及率ハ施工方法其ノ他土地ノ狀況ニ依リ其ノ都度市長之ヲ定ム
- 第四條 省令第五條第四項ノ分擔割合ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 質 權 者 百分ノ七十
土地所有者 百分ノ三十
- 二 永小作權、地上權、賃貸借、使用貸借及占用權ノ目的タル土地ニ對シテハ左ノ區分ニ依ル
 - イ 權利ノ存續期間二十年以下ノモノ 百分ノ七十
 - 土地所有者 百分ノ三十
 - 權 利 者 百分ノ三十

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔規程施行細則 二八一

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔規程施行 二八二

ロ 同 上二十年ヲ超エ三十年以下ノモノ 土地所有者 百分ノ六十

ハ 同 上三十年ヲ超ユルモノ 權利者 百分ノ四十

ニ 同 土地所有者 百分ノ五十

三 省令第二條ノ規定ニ依ル所有者以外ノ權利者ガ其ノ權利ヲ轉質又ハ轉貸シタル場合ニ於テ

ハ前二號ニ依リ當該權利者ノ負擔スベキ金額ヲ平分ス其ノ轉質人又ハ轉借人ガ更ニ轉質又ハ轉貸シタル場合亦同ジ

2 前項ノ負擔割合ニ付キ關係受益者ニ於テ其ノ變更ヲ求メムトスルトキハ連署ノ上第二號様式ニ依リ市長ニ之ヲ願出ヅベシ

第五條 省令第七條第四項ノ規定ニ該當スルトキハ新舊受益者連署ノ上遲滯ナク第三號様式ニ依リ其ノ旨市長ニ申告スベシ

第六條 第二條及前條ノ申告ヲ爲サザルトキ又ハ申告事項適當ナラズト認ムルトキハ市長ハ別ニ之ヲ認定ス

第七條 省令第八條ノ規定ニ依リ分割延納ヲ爲サムトスルトキハ省令第七條第三項ノ負擔金額決定ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ三十日以内ニ第四號乃至第七號様式ニ依リ願書ヲ提出スベシ

第八條 省令第八條ノ規定ニ依リ負擔金ノ分割延納ニ付キ提供セシムベキ擔保ハ左記各號ニ該當スルコトヲ要ス

一 抵當權其ノ他ノ權利ノ設定ナキ土地ニシテ市長ノ評價額ガ負擔金金額以上タルモノ但シ之ニ要スル登録稅ハ各自ノ負擔トス

二 左記有價證券ニシテ負擔金金額以上タルモノ但シ大阪市債ハ額面ニ依リ其ノ他ハ時價ノ十分ノ九ヲ以テ算定ス

日本政府發行公債但シ外國ニ於テ發行スル公債ハ採用セズ

東京、大阪、京都、神戸、横濱、名古屋各市發行ノ市債

勸業債券（大券）

興業債券

拓殖債券

大阪農工債券

三 市長ニ於テ適當ト認ムル銀行又ハ信託會社ノ定期預金證書又ハ信託預金證書ニシテ負擔金金額以上タルモノ

四 負擔金金額ノ百分ノ二以上ニ相當スル直接國稅ヲ納付スル者二人ノ保證但シ保證人ノ一人ガ負擔金金額ノ百分ノ五以上ニ相當スル直接國稅ヲ納付スルトキハ他ノ一人ハ負擔金金額ノ百分ノ一以上ニ相當スル直接國稅ヲ納ムル者タルコトヲ得

五 本市公金取扱銀行ノ内一行ノ保證

第九條 省令第八條ノ規定ニ依リ負擔金ノ分割延納ヲ許可スル場合ノ増負擔金ハ當分ノ内未納金

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔規程施行

細則

二八三

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔規程施行 二八四
細則

百圓ニ付一日一錢四厘ノ割合トシ分納金納付ノ日迄ノ未納金總額ニ對スル増負擔金ヲ分納金ト同時ニ納付スベシ

第十條 省令第八條ノ規定ニ依リ負擔金ノ分割延納ノ許可ヲ受ケタル者左記各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルベシ

一 指定期限内ニ分納金及増負擔金ヲ納付セザルトキ

二 保證條件ガ第八條ノ規定ニ達セザルニ至リタル場合ニ於テ遲滯ナク増補ヲ爲サザルトキ

三 其ノ他市長ニ於テ必要アリト認ムルトキ

第十一條 省令第七條第四項ニ依ル新負擔義務者ニ於テ其ノ負擔金ニ付分割延納ヲ爲サムトスルトキハ省令第七條第五項ノ通知ノ日ヨリ二十日以内ニ第七條ノ規定ニ準ジ願出ヅベシ此ノ場合ニ於テハ前負擔義務者ニ許可シタル分割延納期間ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十二條 省令第十條第一項第五號ノ規定ニ依リ負擔金ノ減免ヲ受ケムトスル者ハ省令第七條第二項ノ告示ノ日ヨリ三十日以内ニ左記事項ヲ具シ第八號様式ニ依リ市長ニ申請スベシ

一 關係事業路線名

一 減免ヲ受ケムトスル土地ノ所在地、地積及間口ノ長

一 用途、供用ノ種別又ハ計畫道路ノ種類及名稱

第十三條 負擔金納付義務者本市内ニ住所又ハ居所ヲ有セザルトキハ負擔金納付ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲本市内ニ住所又ハ居所ヲ有スル納付管理人ヲ定メ市長ニ申告スベシ其ノ納付管

理人ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第十四條 負擔金納付義務者ガ住所又ハ居所ヲ變更シタルトキハ其ノ者ヨリ、死亡シタルトキハ其ノ相續人ヨリ遲滯ナク其ノ旨第十號様式ニ依リ市長ニ申告スベシ

2 前條ノ納付管理人其ノ住所又ハ居所ヲ變更シタルトキ亦同ジ

附 則

1 本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

2 省令附則第三項ノ適用ヲ受クル者ニ付テハ第五條第七條乃至第十一條ノ規定ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ第七條ノ願書提出期限ハ本細則施行ノ日ヨリ三十日トス

(様式省略)

◎大阪都市計畫事業路面改良受益者負擔ニ關スル件 (昭和八年九月二日) (内務省令第二五號)

第一條 大阪市長ハ都市計畫事業トシテ其ノ執行スベキ路面ノ改良ニ要スル費用ヲ本令ノ定ムル所ニ依リ受益者ヲシテ負擔セシムベシ

第二條 本令ニ於テ受益者ト稱スルハ大正九年内務省令第二十八號ニ拘ラズ第三條ノ負擔區劃内ニ在ル土地ニ付左ニ掲グル者ヲ謂フ

一 有租地ノ所有者、質權者、永小作人、地上權者、賃借人、使用借主及轉借人但シ永小作人

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔規程施行細則 大阪都市計畫事業路面改良受益者負擔ニ關スル件二八五

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業路面改良受益者負擔ニ關スル件 二八六

地上權者、賃借人、使用借主及轉借人ニ付テハ建物(假設的ノモノヲ除ク)ノ所有ヲ目的トスルモノ又ハ其ノ權利ノ存續期間十年(事業著手前ニ設定セラレタル權利ノ存續期間ハ事業著手ノ日ヨリ起算ス)ヨリ長キモノニ限ル

二 無租地ニ付左ニ掲グル者但シ一時的ノモノヲ除ク
イ 地租法第二條及地租法以外ノ法令ノ規定ニ依ル無租地(保安林及都市計畫法第三十三條ノ河岸地ヲ除ク)ノ本來ノ用途ニ反スト認ムル方法ニ依リ其ノ使用收益ヲ爲シ又ハ其ノ權利ヲ設定シタル所有者及其ノ權利ヲ有スル者

第三條 負擔區劃ハ道路ノ周圍ニ於テ其ノ境界線(街角ヲ剪除シタル部分ニ在リテハ其ノ剪除セザル部分ノ道路境界線ヲ延長シタル線)ヨリ奥行二十間ノ地域トス

第四條 前條ノ負擔區劃内ノ受益者負擔額ハ事業費ノ二分ノ一トス但シ其ノ負擔額ハ車道ノ幅員六間分ニ相當スル事業費ノ二分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ズ

第五條 各受益者ノ負擔金額ハ左記各號ニ依リ之ヲ定ム
一 第三條ノ負擔區劃ヲ一箇又ハ數箇ノ負擔區トシ該當區分内ノ事業費ニ付其ノ區ノ負擔額ヲ定ム

二 前號ノ負擔額ノ半額ヲ路面ノ改良ヲ爲スベキ道路ニ接スル部分ノ長ニ比例シ他ノ半額ヲ地積ニ比例シテ配分ス
三 第二條第二號ノ受益者ニ對シテハ前項ノ規定ニ依ル負擔金額ノ範圍内ニ於テ市長ハ別ニ其ノ負擔スベキ金額ヲ定ムルコトヲ得

第六條 河川、運河、溝渠、鐵道、新設軌道、崖地等ニシテ土地ノ利用ヲ區分スベキ地物ガ第三條ノ地域内ニ在ルトキハ之ヲ以テ負擔區劃ノ限界トス

第七條 前二項ノ場合ニ於ケル各受益者ノ負擔額ノ算定ニ付テハ負擔區劃ノ限界ナキモノト看做ス

第八條 負擔額ハ其ノ負擔區ノ事業著手ノ日ノ現在ニ依ル受益者ヨリ之ヲ納付セシム

第九條 前項ノ事業著手ノ日ハ市長之ヲ告示スベシ

第十條 各受益者ノ負擔金額ヲ決定シタルトキハ市長ハ之ヲ受益者ニ通知スベシ

第十一條 第一項ノ事業著手ノ日ノ後ニ於テ負擔額ヲ課セラルベキ土地ノ所有者、賃借者、永小作人、地上權者、賃借人、使用借主又ハ轉借人ニ異動アリタルトキハ新ニ其ノ土地ノ當該權利ヲ取得シタル者ヨリ其ノ土地ニ關スル未納額(滯納額ヲ除ク)ヲ納付セシム但シ前者ニ於テ納付シタル部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 前項ノ規定ニ依リ納付セシムベキ金額ハ市長之ヲ通知スベシ

第十三條 前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ前者ノ負擔義務ハ前項ノ金額ノ範圍ニ於テ消滅ス

第十四條 第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業路面改良受益者負擔ニ關スル件 二八七

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業路面改良受益者負擔ニ關スル件 二八八

第八條 市長ハ各受益者ヲシテ市長ノ相當ト認ムル擔保ヲ提供セシメ且利子ニ相當スル増負擔金ヲ納付セシメ前條第三項ノ決定通知ノ日ヨリ三年ヲ超エザル期間ニ於テ負擔金ノ分割延納ヲ爲サシムルコトヲ得

第九條 負擔金ハ事業費豫算額ニ依リ算出ス

2 前項ノ負擔金額ガ事業費精算額ニ依リ算出シタル各受益者ノ負擔金額ニ比シ超過スルトキハ之ヲ還付シ不足スルトキハ之ヲ追徴ス但シ市長ニ於テ大差ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

3 第一項ノ事業費豫算額及前項ノ事業費精算額ハ市長之ヲ告示スベシ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ負擔金ヲ減免スルコトヲ得但シ第二號ノ場合ニ於ケル減免額ハ其ノ寄附額又ハ工事費額ヲ超ユルコトヲ得ズ

一 都市計畫法又ハ道路法ノ規定ニ依リ道路ノ新設若ハ擴張又ハ路面改良ニ要スル費用ヲ著シク利益ヲ受クルニ依リ負擔スベキ關係ニ該當シタル土地ガ五年以内ニ重複シテ本令ニ依リ負擔金ヲ課セラルベキ關係ニ該當スルトキ

二 路面ノ改良ニ要スル費用ヲ補足スル爲土地、物件、勞力若ハ金錢ヲ寄附シ又ハ市長ガ適當ト認ムル工法ニ依リ工事ヲ施行シテ之ヲ寄附シタル者アルトキ

三 土地ノ狀況ニ依リ市長ニ於テ必要アリト認ムルトキ

四 左ノ土地ニ付テハ其ノ受益者ノ申請ニ依リ必要アリト認ムルトキ

イ 國、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地

ロ 神社寺院祠宇佛堂ノ境内地、教會所說教所ノ構内地及私立學校用地免租ニ關スル法律第一條ニ掲グルモノノ用ニ供スル土地

ハ 都市計畫法第十六條第一項ノ土地

ニ 市街地建築物法第二十六條第二項ノ道路ノ境域内ニ在ル土地

2 前項第二號ノ寄附額ハ市長之ヲ評定シ第四條ノ事業費ニ算入ス

第十一條 本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

2 大正十一年內務省令第十八號及同十二年內務省令第二十七號ハ之ヲ廢止ス

3 本令施行前納額告知書ヲ發行シタル負擔金（負擔金ノ一部ニ付納額告知書ヲ發行シタルモノニ付テハ其ノ全部）ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

4 本令施行前既ニ事業ニ著手シ未ダ納額告知書ヲ發行セザル負擔金ニ付テハ本令ヲ適用ス

◎大阪都市計畫事業路面改良受益者負擔規程施行細則

（昭和八年九月五日）
（大阪市告示第三〇四號ノ三）

第一條 本細則ニ於テ省令ト稱スルハ昭和八年內務省令第二十五號大阪都市計畫事業路面改良受益者負擔ニ關スル件ヲ謂フ

第二條 省令第二條ノ規定スル權利ノ目的タル土地ノ所有者ハ其ノ土地ノ所在、地積、間口ノ長、土地ノ見取圖、權利ノ種類、設定ノ年月日、存續期間、建物所有ノ目的ノ有無、有料無料ノ區

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業路面改良受益者負擔規程施行細則 二八九

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業路面改良受益者負擔規程施行細則 二九〇

別及權利者ノ住所氏名並關係事業路線名ヲ第一號様式ニ依リ權利者連署ノ上事業著手ノ告示ヲ爲シタル日ヨリ三十日以内ニ市長ニ申告スベシ

第三條 省令第五條ノ規定ニ依ル負擔區ハ施工方法其ノ他土地ノ狀況ニ依リ其ノ都度市長之ヲ定ム

第四條 省令第五條第三項ノ分擔割合ハ左ノ各號ニ依ル

一 質權ノ設定アル土地

質權者 百分ノ七十

土地所有者 百分ノ三十

二 永小作權、地上權、質貸借、使用貸借及占用權ノ目的タル土地ニ對シテハ左ノ區分ニ依ル

イ 權利ノ存續期間二十年以下ノモノ

土地所有者 百分ノ七十

權利者 百分ノ三十

ロ 同 上二十年ヲ超エ三十年以下ノモノ

土地所有者 百分ノ六十

權利者 百分ノ四十

ハ 同 上三十年ヲ超ユルモノ

土地所有者 百分ノ五十

權利者 百分ノ五十

三 省令第二條ノ規定ニ依ル所有者以外ノ權利者ガ其ノ權利ヲ轉質又ハ轉貸シタル場合ニ於テ

ハ前二號ニ依リ當該權利者ノ負擔スベキ金額ヲ平分ス其ノ轉質人又ハ轉借人ガ更ニ轉質又ハ轉貸シタル場合亦同ジ

2 前項ノ負擔割合ニ付キ關係受益者ニ於テ其ノ變更ヲ求メムトスルトキハ連署ノ上第二號様式ニ依リ市長ニ之ヲ願出ヅベシ

第五條 省令第七條第四項ノ規定ニ該當スルトキハ新舊受益者連署ノ上遲滞ナク第三號様式ニ依リ其ノ旨市長ニ申告スベシ

第六條 第二條及前條ノ申告ヲ爲サザルトキ又ハ申告事項適當ナラズト認ムルトキハ市長ハ別ニ之ヲ認定ス

第七條 省令第八條ノ規定ニ依リ分割延納ヲ爲サムトスルトキハ省令第七條第三項ノ負擔金額決定ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ三十日以内ニ第四號乃至第七號様式ニ依ル願書ヲ提出スベシ

第八條 省令第八條ノ規定ニ依リ負擔金ノ分割延納ニ付提供セシムベキ擔保ハ左記各號ニ該當スルコトヲ要ス

一 抵當權其ノ他ノ權利ノ設定ナキ土地ニシテ市長ノ評價額ガ負擔金額以上タルモノ但シ之ニ要スル登録税ハ各自ノ負擔トス

二 左記有價證券ニシテ負擔金金額以上タルモノ但シ大阪市債ハ額面ニ依リ其ノ他ハ時價ノ十分ノ九ヲ以テ算定ス

日本政府發行公債但シ外國ニ於テ發行スル公債ハ採用セズ

東京、大阪、京都、神戸、横濱、名古屋各市發行ノ市債

勸業債券(大券)

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業路面改良受益者負擔規程施行細則 二九二

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業路面改良受益者負擔規程施行細則 二九二

興業債券
拓殖債券

大阪農工債券

三 市長ニ於テ適當ト認ムル銀行又ハ信託會社ノ定期預金證書又ハ信託預金證書ニシテ負擔金全額以上タルモノ

四 負擔金全額ノ百分ノ二以上ニ相當スル直接國稅ヲ納付スル者二人ノ保證但シ保證人ノ一人ガ負擔金全額ノ百分ノ五以上ニ相當スル直接國稅ヲ納付スルトキハ他ノ一人ハ負擔金全額ノ百分ノ一以上ニ相當スル直接國稅ヲ納ムル者タルコトヲ得

五 本市公金取扱銀行ノ内一行ノ保證

第九條 省令第八條ノ規定ニ依リ負擔金ノ分割延納ヲ許可スル場合ノ増負擔金ハ當分ノ内未納金百圓ニ付一日一錢四厘ノ割合トシ分納金納付ノ日迄ノ未納金總額ニ對スル増負擔金ヲ分納金ト同時ニ納付スベシ

第十條 省令第八條ノ規定ニ依リ負擔金ノ分割延納ノ許可ヲ受ケタル者左記各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルベシ

一 指定期限内ニ分納金及増負擔金ヲ納付セザルトキ

二 保證條件ガ第八條ノ規定ニ達セザルニ至リタル場合ニ於テ遲滯ナク増補ヲ爲サザルトキ

三 其ノ他市長ニ於テ必要アリト認ムルトキ

第十一條 省令第七條第四項ニ依ル新負擔義務者ニ於テ其ノ負擔金ニ付分割延納ヲ爲サムトスルトキハ省令第七條第五項ノ通知ノ日ヨリ二十日以内ニ第七條ノ規定ニ準ジ願出ヅベシ此ノ場合

ニ於テハ前負擔義務者ニ許可シタル分割延納期間ヲ超ユルコトヲ得ズ

2 第八條乃至第十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ適用ス

第十二條 省令第十條第一項第四號ノ規定ニ依リ負擔金ノ減免ヲ受ケムトスル者ハ省令第七條第二項ノ告示ノ日ヨリ三十日以内ニ左記事項ヲ具シ第八號様式ニ依リ市長ニ申請スベシ

一 關係事業路線名

一 減免ヲ受ケムトスル土地ノ所在地、地積及間口ノ長

一 用途、供用ノ種別又ハ計畫道路ノ種類及名稱

第十三條 負擔金納付義務者本市内ニ住所又ハ居所ヲ有セザルトキハ負擔金納付ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲本市内ニ住所又ハ居所ヲ有スル納付管理人ヲ定メ市長ニ申告スベシ其ノ納付管

理人ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第十四條 負擔金納付義務者ガ住所又ハ居所ヲ變更シタルトキハ其ノ者ヨリ死亡シタルトキハ其ノ相續人ヨリ遲滯ナク其ノ旨第十號様式ニ依リ市長ニ申告スベシ

2 前條ノ納付管理人其ノ住所又ハ居所ヲ變更シタルトキ亦同ジ

附 則

本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(自第一號様式至第十號様式略)

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業路面改良受益者負擔規程施行細則 二九三

◎大阪都市計畫事業運河新設擴築受益者負擔ニ關スル件 (昭和八年九月二日) (內務省令第二四號)

- 第一條 大阪市長ハ都市計畫事業トシテ其ノ執行スベキ運河ノ新設又ハ擴築ニ要スル費用ヲ本令ノ定ムル所ニ依リ受益者ヲシテ負擔セシムベシ
- 第二條 本令ニ於テ受益者ト稱スルハ大正九年內務省令第二十八號ニ拘ラズ第三條ノ負擔區劃内ニ在ル土地ニ付左ニ掲グル者ヲ謂フ
 - 一 有租地ノ所有者、質權者、永小作人、地上權者、賃借人、使用借主及轉借人但シ永小作人、地上權者、賃借人、使用借主及轉借人ニ付テハ建物(假設的ノモノヲ除ク)ノ所有ヲ目的トスルモノ又ハ其ノ權利ノ存續期間十年(事業著手前ニ設定セラレタル權利ノ存續期間ハ事業著手ノ日ヨリ起算ス)ヨリ長キモノニ限ル
 - 二 無租地ニ付左ニ掲グル者但シ一時的ノモノヲ除ク
 - イ 地租法第二條及地租法以外ノ法令ノ規定ニ依ル無租地(保安林及都市計畫法第三十三條ノ河岸地ヲ除ク)ノ本來ノ用途ニ反スト認ムル方法ニ依リ其ノ使用收益ヲ爲シ又ハ其ノ權利ヲ設定シタル所有者及其ノ權利ヲ有スル者
 - ロ イ以外ノ無租地ノ永小作人、地上權者、賃借人、使用借主、轉借人及占用權者
- 第三條 負擔區劃ハ運河ノ周圍ニ於テ其ノ計畫幅員ノ境界線ヨリ運河ノ幅員ノ七倍ノ地域トス
- 2 土地ノ狀況ニ依リ前項ノ負擔區劃ヲ擴張スル必要アリト認ムルトキハ運河幅員ノ十倍以內ニ於テ內務大臣之ヲ決定ス
- 3 第四條第二項ノ事業費ノ負擔ニ付テハ前二項ノ規定ニ拘ラズ內務大臣ハ別ニ負擔區劃ヲ定ムル

コトヲ得

- 第四條 前條ノ負擔區劃内ノ受益者負擔額ハ事業費ノ二分ノ一トス
- 2 隧道、橋梁其ノ他特殊ノ工事又ハ特殊ノ物件ノ移轉ニシテ著シク多額ノ費用ヲ要スルモノアルトキハ其ノ費用ノ全部又ハ一部ヲ控除シタル額ヲ以テ前項ノ事業費トスル事ヲ得
- 3 前項ノ規定ニ依リ控除スル額ハ市長之ヲ告示スベシ
- 第五條 各受益者ノ負擔金額ハ左記各號ニ依リ之ヲ定ム
 - 一 各運河ヲ土地ノ狀況ニ依リ適當ニ區分シ其ノ區分ニ依リ第三條ノ負擔區劃ヲ一箇又ハ數箇ノ負擔區トシ該當區分内ノ事業費ニ付其ノ區ノ負擔額ヲ定ム
 - 二 前號ノ負擔區ヲ利益ヲ受クル厚薄ニ依リ一箇又ハ數箇ノ地帯トシ各地帯ニ前號ノ負擔額ヲ一定ノ率ニ依リ配分ス
 - 三 運河ニ接スル地帯内ノ土地ニ對シテハ其ノ地帯ニ配分セラレタル負擔額ノ半額ヲ其ノ運河ニ接スル部分又ハ間口ノ利用之ト同等ト認ムル部分ノ長ニ比例シ他ノ半額ヲ其ノ地積ニ比例シ其ノ他ノ地帯内ノ土地ニ對シテハ其ノ地帯ニ配分セラレタル負擔額ヲ其ノ地積ニ比例シテ配分ス
 - 2 第二條第二號ノ受益者ニ對シテハ前項ノ規定ニ依ル負擔金額ノ範圍内ニ於テ市長ハ別ニ其ノ負擔スベキ金額ヲ定ムルコトヲ得
 - 3 同一ノ土地ニ付二以上ノ受益者アル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依ル負擔金額ハ市長ノ定ムル分擔割合ニ依リ各受益者之ヲ分擔ス
 - 4 第一項第一號ノ負擔區、第二號ノ地帯及率、第三號ノ率、第二項ノ規定ニ依リ定メタル金額、

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業運河新設擴築受益者負擔ニ關スル件 二九六

前項ノ規定ニ依ル分擔割合ハ市長之ヲ告示スベシ

第六條 河川、溝渠、鐵道、新設軌道、崖地等ニシテ土地ノ利用ヲ區分スベキ地物ガ第三條第一項、第二項ノ地域内ニ在ルトキハ之ヲ以テ負擔區劃ノ限界トス

第七條 負擔金ハ其ノ負擔區ノ事業著手ノ日ノ現在ニ依ル受益者ヨリ之ヲ納付セシム

第八條 市長ハ各受益者ヲシテ市長ノ相當ト認ムル擔保ヲ提供セシメ且利子ニ相當スル増負擔金ヲ納付セシム前條第三項ノ決定通知ノ日ヨリ七年ヲ超エザル期間ニ於テ負擔金ノ分割延納ヲ爲サシムルコトヲ得

第九條 負擔金ハ事業費豫算額ニ依リ算出ス

第十條 負擔金額ガ事業費精算額ニ依リ算出シタル各受益者ノ負擔金額ニ比シ超過スルトキハ之ヲ還付シ不足スルトキハ之ヲ追徴ス但シ市長ニ於テ大差ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十一條 本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

第十二條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十三條 都市計畫法第十六條第一項ノ土地

第十四條 市街地建築物法第二十六條第二項ノ道路ノ境域内ニ在ル土地

第十五條 前項第二號及第三號ノ寄附額又ハ提供額ハ市長之ヲ評定シ第四條ノ事業費ニ算入ス

第十六條 本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

第十七條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條 第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業運河新設擴築受益者負擔ニ關スル件 二九七

第一項ノ事業費豫算額及前項ノ事業費精算額ハ市長之ヲ告示スベシ

第二項 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ負擔金ヲ減免スルコトヲ得但シ第二號及第三號ノ場合ニ於ケル減免額ハ其ノ寄附額、工事費額又ハ提供額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第三項 同一ノ土地ニシテ本令ニ依ル負擔金ヲ五年以内ニ重複シテ課セラルベキ關係ニ該當スルトキ

第四項 運河ノ新設又ハ擴築ニ要スル費用ヲ補足スル爲メ土地、物件、勞力若ハ金錢ヲ寄附シ又ハ市長ガ適當ト認ムル工法ニ依リ工事ヲ施行シテ之ヲ寄附シタル者アルトキ

第五項 運河ノ新設又ハ擴築ニ要スル土地ヲ土地區劃整理ノ施行ニ依リ無償ニテ國若ハ公共團體ノ所有地ニ編入シ又ハ無償ニテ提供シタルトキ

第六項 土地ノ狀況ニ依リ市長ニ於テ必要アリト認ムルトキ

第七項 左ノ土地ニ付其ノ受益者ノ申請ニ依リ必要アリト認ムルトキ

第八項 國、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ニ於テ公用又ハ公共ノ用ニ供スル土地

第九項 イ 神社寺院祠宇佛堂ノ境内地、教會所說教所ノ構内地及私立學校用地免租ニ關スル法律第一條ニ掲グルモノノ用ニ供スル土地

第十項 ロ 都市計畫法第十六條第一項ノ土地

第十一項 ニ 市街地建築物法第二十六條第二項ノ道路ノ境域内ニ在ル土地

第十二項 前項第二號及第三號ノ寄附額又ハ提供額ハ市長之ヲ評定シ第四條ノ事業費ニ算入ス

第十三項 第十一條 本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

第十四項 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十五項 第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業運河新設擴築受益者負擔ニ關スル件 二九七

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業運河新設擴築受益者負擔規程施行 二九八
細則

◎大阪都市計畫事業運河新設擴築受益者負擔規程施行細則 (昭和八年九月五日大阪市告示第三〇四號ノ二)

第一條 本細則ニ於テ省令ト稱スルハ昭和八年內務省令第二十四號大阪都市計畫事業運河新設擴築受益者負擔ニ關スル件ヲ謂フ

第二條 省令第二條ノ規定スル權利ノ目的タル土地ノ所有者ハ其ノ土地ノ所在、地積、間口ノ長、土地ノ見取圖、權利ノ種類、設定ノ年月日、存續期間、建物所有ノ目的ノ有無、有料無料ノ區別及權利者ノ住所氏名並關係事業運河名ヲ第一號様式ニ依リ權利者連署ノ上事業着手ノ告示ヲ爲シタル日ヨリ三十日以内ニ市長ニ申告スベシ

第三條 省令第五條ノ規定ニ依ル負擔區、地帶及率ハ施工方法其ノ他土地ノ狀況ニ依リ其ノ都度市長之ヲ定ム

第四條 省令第五條第三項ノ分擔割合ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 質權ノ設定アル土地 質權者 百分ノ七十 土地所有者 百分ノ三十
- 二 永小作權、地上權、賃貸借、使用貸借及占用權ノ目的タル土地ニ對シテハ左ノ區分ニ依ル
 - イ 權利ノ存續期間二十年以下ノモノ 百分ノ七十 土地所有者

口 同 權利者 百分ノ三十 土地所有者 百分ノ六十

ハ 同 權利者 百分ノ四十 土地所有者 百分ノ六十

三 省令第二條ノ規定ニ依ル所有者以外ノ權利者ガ其ノ權利ヲ轉質又ハ轉貸シタル場合ニ於テハ前二號ニ依リ當該權利者ノ負擔スベキ金額ヲ平分ス其ノ轉質人又ハ轉借人ガ更ニ轉質又ハ轉貸シタル場合亦同ジ

2 前項ノ負擔割合ニ付キ關係受益者ニ於テ其ノ變更ヲ求メムトスルトキハ連署ノ上第二號様式ニ依リ市長ニ之ヲ願出ヅベシ

第五條 省令第七條第四項ノ規定ニ該當スルトキハ新舊受益者連署ノ上遲滞ナク第三號様式ニ依リ其ノ旨市長ニ申告スベシ

第六條 第二條及前條ノ申告ヲ爲サザルトキ又ハ申告事項適當ナラズト認ムルトキハ市長ハ別ニ之ヲ認定ス

第七條 省令第八條ノ規定ニ依リ分割延納ヲ爲サムトスルトキハ省令第七條第三項ノ負擔金額決定ノ通知ヲ爲シタル日ヨリ三十日以内ニ第四號乃至第七號様式ニ依ル願書ヲ提出スベシ

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業運河新設擴築受益者負擔規程施行 二九九
細則

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業運河新設擴築受益者負擔規程施行 三〇〇

第八條 省令第八條ノ規定ニ依リ負擔金ノ分割延納ニ付提供セシムベキ擔保ハ左記各號ニ該當スルコトヲ要ス

- 一 抵當權其ノ他ノ權利ノ設定ナキ土地ニシテ市長ノ評價額ガ負擔金金額以上タルモノ但シ之ニ要スル登録稅ハ各自ノ負擔トス
- 二 左記有價證券ニシテ負擔金金額以上タルモノ但シ大阪市債ハ額面ニ依リ其ノ他ハ時價ノ十分ノ九ヲ以テ算定ス

日本政府發行公債但シ外國ニ於テ發行スル公債ハ採用セズ
東京、大阪、京都、神戸、横濱、名古屋各市發行ノ市債

勸業債券（大券）
興業債券
拓殖債券
大阪農工債券

三 市長ニ於テ適當ト認ムル銀行又ハ信託會社ノ定期預金證書又ハ信託預金證書ニシテ負擔金金額以上タルモノ

四 負擔金金額ノ百分ノ二以上ニ相當スル直接國稅ヲ納付スル者二人ノ保證但シ保證人ノ一人ガ負擔金金額ノ百分ノ五以上ニ相當スル直接國稅ヲ納付スルトキハ他ノ一人ハ負擔金金額ノ百分ノ一以上ニ相當スル直接國稅ヲ納ムル者タルコトヲ得

五 本市公金取扱銀行ノ内一行ノ保證

第九條 省令第八條ノ規定ニ依リ負擔金ノ分割延納ヲ許可スル場合ノ増負擔金ハ當分ノ内未納金百圓ニ付一日一錢四厘ノ割合トシ分納金納付ノ日迄ノ未納金總額ニ對スル増負擔金ヲ分納金ト同時ニ納付スベシ

第十條 省令第八條ノ規定ニ依リ負擔金ノ分割延納ノ許可ヲ受ケタル者左記各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルベシ

- 一 指定期限内ニ分納金及増負擔金ヲ納付セザルトキ
- 二 保證條件ガ第八條ノ規定ニ達セザルニ至リタル場合ニ於テ遲滞ナク増補ヲ爲サザルトキ
- 三 其ノ他市長ニ於テ必要アリト認ムルトキ

第十一條 省令第七條第四項ニ依ル新負擔義務者ニ於テ其ノ負擔金ニ付分割延納ヲ爲サムトスルトキハ省令第七條第五項ノ通知ノ日ヨリ二十日以内ニ第七條ノ規定ニ準ジ願出ツベシ此ノ場合ニ於テハ前負擔義務者ニ許可シタル分割延納期間ヲ超ユルコトヲ得ズ

第十二條 省令第十條第一項第五號ノ規定ニ依リ負擔金ノ減免ヲ受ケムトスル者ハ省令第七條第二項ノ告示ノ日ヨリ三十日以内ニ左記事項ヲ具シ第八號様式ニ依リ市長ニ申請スベシ

- 一 關係事業運河名
- 二 減免ヲ受ケムトスル土地ノ所在地、地積及間口ノ長

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業運河新設擴築受益者負擔規程施行 細則

第三類 都市計畫 大阪市都市計畫事業下水道受益者負擔ニ關スル件 三〇二

一 用途、供用ノ種別又ハ計畫道路ノ種類及名稱

第十三條 負擔金納付義務者本市内ニ住所又ハ居所ヲ有セザルトキハ負擔金納付ニ關スル事項ヲ處理セシムル爲本市内ニ住所又ハ居所ヲ有スル納付管理人ヲ定メ市長ニ申告スベシ其ノ納付管理人ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第十四條 負擔金納付義務者ガ住所又ハ居所ヲ變更シタルトキハ其ノ者ヨリ死亡シタルトキハ其ノ相續人ヨリ遲滞ナク其ノ旨第十號様式ニ依リ市長ニ申告スベシ

2 前條ノ納付管理人其ノ住所又ハ居所ヲ變更シタルトキ亦同ジ

附 則

本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(自第一號様式至第十號様式略)

◎大阪都市計畫事業下水道受益者負擔ニ關スル件 (昭和六年一月十二日) (内務省令第二號)

第一條 大阪市長ハ都市計畫事業トシテ其ノ執行スベキ下水道事業ニ要スル費用ヲ本令ノ定ムル所ニ依リ受益者ヲシテ負擔セシムベシ

第二條 本令ニ於テ受益者ト稱スルハ左記各號ノ一ニ該當スル者ヲ謂フ但シ第一號ノ期間ニ付テハ事業着手ノ時ヨリ之ヲ起算ス
一 排水區域内、下水處理區域内又ハ第六條ノ規定ニ依ル地域内ニ在ル有租地(有期免租地ヲ

含ム)ノ所有者但シ質權ノ目的タル土地ニ付テハ質權者、十年ヨリ長キ期間ノ定アル地上權、永小作權及賃借權ノ目的タル土地ニ付テハ地上權者、永小作人及賃借人

二 前號ノ區域内又ハ地域内ニ在ル無租地ニシテ公用又ハ公共ノ用ニ供セラレザルモノニ付テハ地上權者、永小作人及賃借人

第三條 各排水區域内及各下水處理區域内ニ於ケル受益者ノ負擔金額ハ其ノ區域ノ事業費ノ四分ノ一トス但シ第二項ノ事業費ハ之ヲ算入セズ

2 下水處理區中特定ノ地域ニ必要ナル工事ノ爲ニ要スル事業費ニ付テハ其ノ四分ノ一ヲ其ノ地域内ノ受益者ニ之ヲ負擔セシム

第四條 各受益者ノ負擔金額ハ各排水區域又ハ各下水處理區域内受益者ノ土地ノ面積ニ比例シテ之ヲ定ム

第五條 二以上ノ排水區域又ハ下水處理區域ニ共通ノ工事ニ在リテハ其ノ事業費ヲ關係各排水區域又ハ下水處理區域ノ受益者ノ土地ノ面積ニ比例シテ配分ス

第六條 下水道ニ關スル設備ニシテ道路トシテノ效用ヲ兼ヌルモノアルトキハ前三條ノ規定ニ依ルノ外其ノ道路トシテ利用スル土地ノ境界線ヨリ奥行二十間ノ地域内ニ於ケル受益者ヲシテ道路トシテノ效用ヲ兼ネシムル爲ニ要スル事業費ノ五分ノ一ニ付其ノ半額ヲ當該部分ニ面スル土地ノ間口ノ長ニ比例シ他ノ半額ヲ地域内ノ土地ノ面積ニ比例シテ之ヲ負擔セシム

2 土地ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ市長ハ前項ノ規定ニ拘ラズ別ニ地域、負擔金額及負擔方法ヲ定ムルコトヲ得

第七條 第三條第二項及前二條ノ工事及事業費ハ市長ノ認定スル所ニ依ル
第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業下水道受益者負擔ニ關スル件 三〇三

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業下水道受益者負擔ニ關スル件 三〇四

第八條 負擔金ハ其ノ排水區又ハ下水處理區ノ事業著手ノ日ノ現在ニ依リ受益者ヨリ之ヲ納付セシム

2 前項ノ事業著手ノ日ハ市長之ヲ告示スベシ

3 各受益者ノ負擔金額ヲ決定シタルトキハ市長ハ之ヲ各受益者ニ通知スベシ

4 市長ハ各受益者ヲシテ市長ノ相當ト認ムル擔保ヲ提供セシメ且利子ニ相當スル増負擔金ヲ納付セシメ事業執行期間内ニ於テ負擔金ノ分割延納ヲ爲サシムルコトヲ得

第九條 負擔金ガ事業費精算額ニ依リ算出シタル各受益者ノ負擔金額ニ比シ超過スルトキハ之ヲ還付シ不足スルトキハ之ヲ追徴ス但シ市長ニ於テ大差ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ負擔金ヲ減免スルコトヲ得

一 重複シテ第六條ノ費用ヲ課セラルベキトキ

二 事業ニ要スル費用ヲ補足スル爲土地、物件、勞力若ハ金錢ヲ寄附シ又ハ市長ガ適當ト認ムル工法ニ依リ工事ヲ施行シテ寄附シタルトキ

2 前項第二號ノ規定ニ依リ減免スル金額ハ其ノ寄附額ヲ超ユルコトヲ得ズ

3 第一項第二號ノ寄附額ハ市長之ヲ評定シ第三條又ハ第六條ノ事業費ニ算入ス

第十一條 本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ市長之ヲ定ム

附 則

1 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

2 大正十二年七月內務省令第二十四號及大正十二年十月內務省令第四十號ハ之ヲ廢止ス

3 大正十二年七月內務省令第二十四號及大正十二年十月內務省令第四十號ニ基ク受益者負擔金ノ徵收又ハ納付ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

◎大阪都市計畫事業高速度軌道建設受益者負擔ニ關スル件

(昭和五年四月九日) 改(昭和八年五月一日)
(內務省令第一三號) 正(內務省令第一二號)

第一條 大阪市ハ都市計畫事業トシテ其ノ執行スベキ高速度軌道建設ニ要スル費用ニ充ツル爲本令ノ定ムル所ニ依リ受益者ヲシテ費用ヲ負擔セシムベシ

第二條 大正九年內務省令第二十八號ノ區劃ハ梅田、淀屋橋、本町、心齋橋、難波、大國町、霞町、天王寺ノ各停車場ニ在リテハ停車場各出入口ノ中心ヨリ二百間以内、南方、阿部野、西田邊、長居、我孫子ノ各停車場ニ在リテハ停車場出入口ノ中心ヨリ四百間以内ノ地域トス但シ負擔區劃重複スルトキハ負擔區劃境界線ノ交叉點ヲ結ブ直線ヲ以テ負擔區劃ノ限界トス

第三條 前條ノ區劃ハ之ヲ左ノ種別ニ分ツ

甲負擔區劃 梅田、淀屋橋、本町、心齋橋、難波ノ各停車場出入口ヲ中心トスル區劃

乙負擔區劃 大國町、霞町、天王寺ノ各停車場出入口ヲ中心トスル區劃

丙負擔區劃 南方、阿部野、西田邊ノ各停車場出入口ヲ中心トスル區劃

丁負擔區劃 長居、我孫子ノ各停車場出入口ヲ中心トスル區劃

第四條 受益者負擔總額ハ事業費ノ四分ノ一トス

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業高速度軌道建設受益者負擔ニ關スル件 三〇五

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業高速鉄道建設受益者負擔ニ關ス 三〇六

第五條 各負擔區劃内ノ受益者負擔額ハ前條ノ受益者負擔總額ヲ其ノ區劃内ノ面積ト左ノ率トノ乘積ニ按分シテ之ヲ定ム

- 甲負擔區劃
乙負擔區劃
丙負擔區劃
丁負擔區劃

第六條 各受益者ノ負擔金額ハ左記各號ニ依リ之ヲ定ム

- 一 各負擔區劃ヲ利益ヲ受クル厚薄ニ依リ一箇又ハ數箇ノ地帯トシ各地帯ニ前條ノ負擔額ヲ一定ノ率ニ依リ配分ス
二 各地帯ニ配分セラレタル負擔額ヲ土地ノ面積ニ比例シテ各受益者ニ配分ス但シ主要道路及停車場出入口附近ノ道路ニ接スル土地ニ對シテハ道路ノ效用ノ程度及道路ニ接スル部分ノ長ニ應ジ地帯ニ配分セラレタル負擔額ノ一部ヲ配分シ殘部ヲ地帯内ノ面積ニ比例シテ配分ス
2 前項第一號ノ地帯、率及同第二號但書ノ土地ノ區域、配分ノ比率ハ大阪市長之ヲ告示スベシ
第七條 負擔金ハ其ノ負擔區劃ノ停車場出入口ノ工事著手ノ日ノ現在ニ依リ受益者ヨリ之ヲ納付セシム (昭和八年五月内務省令第一二號改正)
2 前項ノ工事著手ノ日ハ大阪市長之ヲ告示スベシ (同上)
3 各受益者ノ負擔金額ヲ決定シタルトキハ大阪市長之ヲ各受益者ニ通知スベシ

4 各受益者ハ負擔金多額ノトキハ大阪市長ノ相當ト認ムル擔保ヲ提供シ利子ニ相當スル増負擔金ヲ納付シ前項ノ決定通知ノ日ヨリ三年ヲ超エザル期間ニ於テ分割延納ヲ求ムルコトヲ得

第八條 負擔金ガ事業費精算額ニ依リ算出シタル各受益者ノ負擔金額ニ比シ超過スルトキハ之ヲ還付シ不足スルトキハ之ヲ追徴ス但シ大阪市長ニ於テ大差ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 高速鉄道ノ建設ニ要スル費用ヲ補足スル爲土地、物件、勞力又ハ金錢ヲ寄附シタル者ニ對シテハ其ノ寄附額ノ範圍内ニ於テ負擔金ヲ減免スルコトヲ得

第十條 土地ノ形狀ニ依リ宅地トシテノ利用上斟酌スベキ必要アリト認ムルトキハ負擔金ヲ減免スルコトヲ得

第十一條 本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ大阪市長之ヲ定ム

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
◎大阪府知事執行都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔ニ關スル件
(昭和七年五月二十四日) 改(昭和七年十月二十一日)
(内務省令第一五號) 正(内務省令第三九號)

第一條 大阪府知事ハ都市計畫事業トシテ其ノ執行スベキ道路ノ新設又ハ擴築ニ要スル費用ヲ本

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業高速鉄道建設受益者負擔ニ關スル件 大阪府知事執行都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔ニ關スル件

第三類 都市計畫

大阪府知事執行都市計畫事業道路新設擴張受益者負擔ニ關スル件

令ノ定ムル所ニ依リ受益者ヲシテ負擔セシムベシ

第二條 都市計畫法施行令第九條第二號ニ依ル大阪市ノ負擔額ハ一等大路第三類第三十號線(大阪吹田線)及第三十三號線(傳法尼崎線)中新澱川ニ架スル橋梁ノ事業費(軌道ヲ敷設スル者ノ寄附シタル金額ヲ控除シタル額)ノ十分ノ一トス

第三條 大正九年內務省令第二十八號ノ區劃ハ道路ノ周圍ニ於テ其ノ境界線ヨリ(街角ヲ剪除シタル部分ニ在リテハ其ノ剪除セザル部分ノ道路境界線ヲ延長シタル線ヨリ)道路幅員ノ七倍ノ地域トス

2 土地ノ狀況ニ依リ前項ノ區劃ヲ擴張スル必要アリト認ムルトキハ前項ノ道路幅員ノ十倍以內ニ於テ內務大臣之ヲ決定ス

第四條 前條ノ區劃內ノ受益者負擔額ハ道路新設ノ場合ハ其ノ事業費ノ三分ノ一、道路擴張ノ場合ハ其ノ事業費ノ四分ノ一トス但シ前條第二項ノ場合ニ於テ道路新設ノ場合ハ其ノ事業費ノ十分ノ五、道路擴張ノ場合ニ於テ其ノ擴張道路ノ地積ガ其ノ敷地內ニ在ル舊道路ノ地積ノ三倍以上トナルトキハ前項ノ適用ニ關シテハ之ヲ道路新設ト看做ス

第五條 大正九年內務省令第二十八號ノ受益者ノ負擔金額ハ左記各號ニ依リ之ヲ定ム
一 各路線ヲ土地ノ狀況ニ依リ適當ニ區分シ其ノ區分ニ依リ第三條ノ區劃ヲ一箇又ハ數箇ノ負擔額トシ該當區分內ノ事業費ニ付其ノ區ノ負擔額ヲ定ム

二 前號ノ負擔額ヲ利益ヲ受クル厚薄ニ依リ一箇又ハ數箇ノ地帯トシ各地帯ニ前號ノ負擔額ヲ一定ノ率ニ依リ配分ス
三 道路ニ接スル地帯內ノ土地ニ對シテハ其ノ地帯ニ配分セラレタル負擔額ノ半額ヲ其ノ道路ニ接スル部分又ハ間口ノ利用之ト同等ト認ムル部分ノ長ニ比例シ他ノ半額ヲ其ノ地積ニ比例シ其ノ他ノ地帯內ノ土地ニ對シテハ其ノ地帯ニ配分セラレタル負擔額ヲ其ノ地積ニ比例シテ配分ス(昭和七年十月內務省令第三九號改正)

第六條 前項第一號ノ負擔額、第二號ノ地帯及率ハ府知事之ヲ告示スベシ
2 前項第一號ノ負擔額、第二號ノ地帯及率ハ府知事之ヲ告示スベシ
條ノ地域內ニ在ルトキハ之ヲ以テ負擔區劃ノ限界トス

2 同等以上ノ效用アリト認ムル並行道路ガ第三條ノ區劃ノ二倍ノ地域內ニ在ルトキハ其ノ道路トノ間隔ノ中央線ヲ以テ負擔區劃ノ限界トス但シ其ノ間隔內ニ前項ノ地物アルトキハ前項ノ例ニ依ル

第七條 前二項ノ場合ニ於ケル各受益者ノ負擔額ノ算定ニ付テハ負擔區劃ノ限界ナキモノト看做ス
2 前項ノ事業著手ノ日ハ府知事之ヲ告示スベシ
3 第二條及第五條ノ受益者ノ負擔金額ヲ決定シタルトキハ府知事ハ之ヲ受益者ニ通知スベシ
第八條 第五條ノ各受益者ハ府知事ノ相當ト認ムル擔保ヲ提供シ且利子ニ相當スル増負擔金ヲ納付シ前條第三項ノ決定通知ノ日ヨリ五年ヲ超エザル期間ニ於テ負擔金ノ分割延納ヲ求ムルコト

第三類 都市計畫

大阪府知事執行都市計畫事業道路新設擴張受益者負擔ニ關スル件

第三類 都市計畫 大阪府知事執行都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔ニ關スル件 三一〇

ヲ得

第九條 負擔金が事業費精算額ニ依り算出シタル各受益者ノ負擔金額ニ比シ超過スルトキハ之ヲ還付シ不足スルトキハ之ヲ追徴ス但シ府知事ニ於テ大差ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 都市計畫法又ハ道路法ノ規定ニ依リ道路ノ新設若ハ擴築又ハ路面改良ニ要スル費用ヲ著シク利益ヲ受クルニ依リ負擔スベキ關係ニ該當シタル土地ガ五年以内ニ重複シテ本令ニ依ル負擔金ヲ課セラルベキ關係ニ該當スルトキハ其ノ負擔金ノ一部ヲ免除スルコトヲ得

第十一條 道路ノ新設又ハ擴築ニ要スル費用ヲ補足スル爲土地、物件、勞力又ハ金錢ヲ寄附シタル者ニ對シテハ其ノ寄附額ノ範圍内ニ於テ負擔金ヲ減免スルコトヲ得府知事が適當ト認ムル工法ニ依リ工事ヲ施行シテ之ヲ寄附シタル者ニ對シテ亦同ジ

2 道路ノ新設又ハ擴築ニ要スル土地ヲ土地區劃整理施行者が無償ニテ供用スルトキハ其ノ整理施行地區内又ハ整理施行地區タリシ區域内ノ受益者ニ對シテハ前項ノ例ニ依リ負擔金ヲ減免スルコトヲ得

3 前二項ノ寄附額又ハ提供額ハ府知事之ヲ評定シ第二條又ハ第四條ノ事業費ニ算入ス
第十二條 土地ノ狀況ニ依リ府知事ニ於テ必要アリト認ムルトキハ負擔金ヲ減免スルコトヲ得
第十三條 本令ノ施行ニ關シ必要ナル事項ハ府知事之ヲ定ム

附 則
1 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

2 昭和三年二月內務省令第五號ハ之ヲ廢止ス
3 従前ノ規定ニ依リ爲シタル處分其ノ他ノ行爲ハ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

附 則 (昭和七年十月二十一日) 內務省令第三九號

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎大阪府知事執行都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔ニ關スル件施行細則 (昭和七年十二月二十六日) 府令第八〇號

第一條 本則ニ於テ省令ト稱スルハ昭和七年內務省令第十五號ヲ謂フ

第二條 事業費トハ用地買收費、補償費、工事費及之ニ伴フ諸經費ヲ謂フ

第三條 省令第五條第一項第二號ノ地帯ハ之ヲ左ノ三箇ニ區分ス但シ特別ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

- 第一地帯 道路ノ境界線ヨリ道路幅員ノ一倍ノ地域
- 第二地帯 前號地域界ヨリ道路幅員ノ二倍ノ地域
- 第三地帯 前號ノ地域界ヨリ道路幅員ノ四倍ノ地域
- 第四條 前條ノ各地帯ノ負擔額ハ左ノ率ニ之リ定ム

第三類 都市計畫 大阪府知事執行都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔ニ關スル件 大阪府知事執行都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔ニ關スル件施行細則

第三類 都市計畫 大阪府知事執行都市計畫事業道路新設擴築受益者負 三一三

第一地帶 百分ノ五十

第二地帶 百分ノ三十五

第三地帶 百分ノ十五

第五條 大正九年內務省令第二十八號ノ受益者ハ土地登記簿ニ依リ之ヲ定ム但シ未登記ニ屬スルモノハ知事ノ定ムル所ニ依ル

第六條 同一ノ土地ニ付前條ノ受益者ニ以上アル場合ニ於テハ現ニ土地ヲ使用スル權利ヲ有スル者ヲ以テ受益者ト看做ス

第七條 地積ハ土地臺帳ニ依ル但シ土地臺帳ニ登載ナキ土地又ハ土地臺帳ノ地積ト實測地積トノ差甚シキ土地ニ就テハ實測ニ依ル

第八條 省令第六條ノ河川、運河、溝渠ハ平均幅員十間以上ノモノトス但シ土地ノ狀況ニ依リ右ノ制限ニ斟酌ヲ加フルコトアルベシ

第九條 省令第八條ニ依リ負擔金ノ分割延納ヲ求メントスル者ハ負擔金額決定通知ヲ受ケタル日ヨリ十五日以内ニ出願スベシ

第十條 省令第八條ノ擔保ハ國債證券、大阪府債券、勸業債券其ノ他知事ニ於テ適當ト認ムル有價證券又ハ所有權以外ノ權利ノ設定登記ナキ土地トス但シ知事ニ於テ負擔金完納ノ資力アリト認ムル連帶保證人二名以上ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

2 前項有價證券ノ見積價格ハ時價ノ九割トシ土地ノ見積價格ハ知事ノ定ムル所ニ依ル

3 擔保物件ノ價格著シク低下シタルトキ又ハ保證人ノ變更ヲ要スト認メタルトキハ之ガ增徴又ハ變更ヲ命ズルコトアルベシ

第十一條 土地ヲ擔保トシテ提供セントスル場合ハ願書ニ土地登記簿謄本ヲ添付スベシ

第十二條 省令第八條ノ增負擔金ハ年五分ノ利子ニ相當スル金額トス

第十三條 負擔金ハ隨時之ヲ徵收ス但シ分割延納ヲ許可シタル場合ノ負擔金竝ニ增負擔金ハ毎年左ノ納期ニ於テ之ヲ徵收ス

第一期 四月一日ヨリ四月三十日限

第二期 十月一日ヨリ十月三十一日限

2 前項但書ノ場合ニ於ケル第一回分ニ限り別ニ納期ヲ指定スルコトアルベシ

第十四條 負擔金ノ分割延納ノ許可ヲ受ケタル者左記各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ許可ヲ取消シ未納額ヲ一時ニ徵收スルコトアルベシ

一 指定ノ期間内ニ納付セザルトキ

二 擔保物件ノ增徴又ハ保證人ノ變更ニ應ゼザルトキ

三 破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ又ハ法人ニシテ解散シタルトキ

第十五條 省令第十條ノ免除額ハ輕キ負擔金ニ相當スル金額トス

第十六條 省令第十二條ノ負擔金ノ減免ハ左ノ通トス但シ同一ノ土地ニシテ左記各號ノ二以上ニ該當スル場合ハ免除額ノ多キ方ヲ適用ス

一 道路ニ接スル土地ニシテ路面ニ對シ高低差平均三尺ヲ超エタルトキハ一割、以上一尺ヲ超

ユル毎ニ一割ヲ増シタル率ニ依リ間口當負擔金ヲ減額ス但シ高低差平均十二尺ヲ超エタルモ

第三類 都市計畫 大阪府知事執行都市計畫事業道路新設擴築受益者負

擔ニ關スル件施行細則 三一三

第三類 都市計畫

大阪府知事執行都市計畫事業道路新設擴築受益者負擔ニ關スル件施行細則 大阪都市計畫事業神崎川改修受益者負擔ニ關スル件 三一四

ノハ免除ス

- 二 道路ニ接スル土地ニシテ後方接續地ト受益者ヲ異ニシ宅地ニ利用シ難キ狹小ノ土地ハ奥行平均一間未滿ハ八割、一間半未滿ハ六割、二間未滿ハ四割、各其ノ間口當負擔金ヲ減額ス但シ奥行平均三尺未滿ハ免除ス
- 三 有租地ニシテ道路法ニ依リ認定セラレタル道路及公共ノ用ニ供スル溝渠、溜池、運河ハ負擔金ヲ免除シ私有道路ニシテ公衆ノ用ニ供シ事實上他ノ用途ニ使用シ得ザル土地ハ負擔金ノ五割、公共ノ用ニ供セザル溜池ハ其ノ二割ヲ減額ス

附 則

- 1 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 2 昭和三年大阪府令第三十二號ハ之ヲ廢止ス從前ノ規定ニ依リ爲シタル處分其ノ他ノ行爲ハ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

◎大阪都市計畫事業神崎川改修受益者負擔ニ關スル件

(昭和八年三月三十一日 內務省令第七號)

- 第一條 大阪府知事ハ昭和七年十月二十八日內閣認可ニ係ル都市計畫事業神崎川改修ニ要スル費用ヲ本令ノ定ムル所ニ依リ受益者ヲシテ負擔セシムベシ
- 第二條 大正九年內務省令第二十八號ノ區劃ハ河川ノ周圍ニ於テ其ノ計畫職員ノ境界線ヨリ三百

五十米ノ地域トス

第三條 前條ノ區劃內ノ受益者負擔金額ハ事業費ノ三分ノ一トス

第四條 各受益者ノ負擔金額ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ定ム

- 一 負擔區劃內ニ於ケル總地積ニ付利益ヲ受クル厚薄ニ依リ單位地積當負擔指數ヲ定メ之ニ各土地ノ單位地積數ヲ乘ジテ得タル數ヲ當該土地ノ負擔指數トス

- 二 前條ノ負擔金額ヲ前號ノ各土地ノ負擔指數ノ總和ニテ除シテ得タル金額ヲ指數一箇當負擔金額トス
- 三 指數一箇當負擔金額ニ各土地ノ負擔指數ヲ乘ジテ得タル金額ヲ以テ當該土地ノ受益者ノ負擔金額トス

第五條 負擔金ハ本令施行ノ日ノ現在ニ依リ受益者ヨリ之ヲ納付セシム

第六條 受益者ノ負擔金額ヲ決定シタルトキハ知事ハ之ヲ各受益者ニ通知スベシ

2 各受益者ハ知事ノ相當ト認ムル擔保ヲ提供シ且利子ニ相當スル増負擔金ヲ納付シ前項ノ決定通知ノ日ヨリ五年ヲ超エザル期間ニ於テ負擔金ノ分割延納ヲ求ムルコトヲ得

第七條 負擔金額ガ事業費精算額ニ依リ算出シタル各受益者ノ負擔金額ニ比シ超過スルトキハ之ヲ還付シ不足スルトキハ之ヲ追徴ス但シ知事ニ於テ大差ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ負擔金ヲ減免スルコトヲ得但シ第二號ノ場合ニ於ケル減免額ハ其ノ寄附額又ハ工事費額ヲ超ユルコトヲ得ズ

- 一 土地ノ狀況ニ依リ斟酌スベキ必要アルトキ
- 二 本事業ニ要スル費用ヲ補足スル爲土地、物件、勞力若ハ金錢ヲ寄附シ又ハ知事ガ適當ト認

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業神崎川改修受益者負擔ニ關スル件 三一五

第三類 都市計畫 大阪都市計畫事業神崎川改修受益者負擔ニ關スル件 三一六
風致地區規則

ムル工法ニ依リ工事ヲ施行シテ寄附シタルトキ
2 前項第二號ノ寄附額ハ知事之ヲ評定シ第三條ノ事業費ニ算入ス
第九條 本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ知事之ヲ定ム

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

◎風致地區規則 (昭和八年八月三十日 府令第八八號)

- 第一條 風致地區内ニ於テハ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ
 - 一 樹竹林ノ皆伐
 - 二 巨木ノ伐採
 - 三 池沼河水ノ汚染
 - 四 前各號ノ外風致ヲ害スル行爲
- 第二條 風致地區内ニ於テ左ノ行爲ヲ爲サントスルトキハ當廳ノ認可ヲ受クベシ但シ別ニ告示シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
 - 一 建物其ノ他工作物ノ新築、改築、増築、除却又ハ移轉
 - 二 土地ノ掘鑿、盛土、水面ノ埋立又ハ道路、溝渠等ノ廢置其ノ他土地ノ形質ノ變更
 - 三 竹木土石ノ類ノ採取

- 四 前各號ノ外風致維持ニ影響ヲ及ボス虞アル行爲
- 第三條 前條ノ認可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ設計書又ハ施行方法書ヲ添附シ申請書正副二通ヲ提出スベシ
 - 一 申請者ノ住所氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱、事務所所在地及代表者ノ住所氏名)
 - 二 行爲地ノ所在、地目及面積
 - 三 認可ヲ受ケントスル行爲及其ノ目的
 - 四 着手竝ニ完了ノ豫定期日
 - 五 其ノ他參考事項
- 2 前項ノ設計書又ハ施行方法書ニハ左ノ圖面ヲ添附スベシ
 - 一 附近地ノ見取圖
 - 二 平面圖(位置ヲ含ム)、立面圖、意匠配色圖等設計又ハ施行方法ノ表示ニ必要ナル圖面
- 第四條 第二條ノ認可ヲ受ケタル行爲ヲ完了シ又ハ中止シタルトキハ五日以内ニ其ノ旨届出ツベシ
- 第五條 第二條各號ノ行爲ニシテ他ノ法令ニ依リ當廳ニ願届ヲ要スルモノニ付テハ其ノ願届書ニ本令ノ願届ヲ併記スルコトヲ得
- 第六條 第一條、第二條又ハ第四條ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

附 則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第三類 都市計畫 風致地區規則

市街地建築物法

(大正八年四月五日 法律第三七號)

第一條 主務大臣ハ本法ヲ適用スル區域内ニ住居地域、商業地域又ハ工業地域ヲ指定スルコトヲ得

第二條 建築物ニシテ住居ノ安寧ヲ害スル虞アル用途ニ供スルモノハ住居地域内ニ之ヲ建築スルコトヲ得ス

第三條 建築物ニシテ商業ノ利便ヲ害スル虞アル用途ニ供スルモノハ商業地域内ニ之ヲ建築スルコトヲ得ス

第四條 工場、倉庫其ノ他之ニ準スヘキ建築物ニシテ規模大ナルモノ又ハ衛生上有害若ハ保安上危険ノ虞アル用途ニ供スルモノハ工業地域内ニ非サレハ之ヲ建築スルコトヲ得ス

2 主務大臣必要ト認ムルトキハ前項ノ建築物ニシテ著シク衛生上有害又ハ保安上危険ノ虞アル用途ニ供スルモノニ付テハ工業地域内ニ於テ其ノ建築ニ付特別地區ヲ指定スルコトヲ得

第五條 前三條ニ規定スル建築物ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 前四條ノ規定ノ適用ニ付テハ新ニ建築物ノ用途ヲ定メ又ハ建築物ヲ他ノ用途ニ供スルトキハ其ノ用途ニ供スル建築物ヲ建築スルモノト看做ス

第七條 道路敷地ノ境界線ヲ以テ建築線トス但シ特別ノ事由アルトキハ行政官廳ハ別ニ建築線ヲ指定スルコトヲ得

第八條 建築物ノ敷地ハ建築線ニ接セシムルコトヲ要ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條 建築物ハ建築線ヨリ突出セシムルコトヲ得ス但シ建築線カ道路幅ノ境界線ヨリ後退シテ指定セラレタルモノナルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ建築物ノ前面突出部又ハ基礎ハ道路幅ノ境界線ヲ超エサル範圍内ニ於テ建築線ヨリ之ヲ突出セシムルコトヲ得

第十條 行政官廳ハ市街ノ體裁上必要ト認ムルトキハ建築線ニ面シテ建築スル建築物ノ壁面ノ位置ヲ指定スルコトヲ得

第十一條 建築物ヲ建築スル場合ニ於ケル其ノ高又ハ其ノ敷地内ニ存セシムヘキ空地ニ關シテハ地方ノ狀況、地域及地區ノ種別、土地ノ情態、建築物ノ構造、前面道路ノ幅員等ヲ參酌シ勅令ヲ以テ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十二條 主務大臣ハ建築物ノ構造、設備又ハ敷地ニ關シ衛生上又ハ保安上必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十三條 主務大臣ハ火災豫防上必要ト認ムルトキハ防火地區ヲ指定シ其ノ區域内ニ於ケル防火設備又ハ建築物ノ防火構造ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

2 防火地區内ニ於テハ建物ノ部分ヲ爲ス防火壁ハ土地ノ疆界線ニ接シ之ヲ設クルコトヲ得

第十四條 主務大臣ハ學校、集會場、劇場、旅館、工場、倉庫、病院、市場、屠場、火葬場其ノ他命令ヲ以テ指定スル特殊建築物ノ位置、構造、設備又ハ敷地ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十五條 主務大臣ハ美觀地區ヲ指定シ其ノ地區内ニ於ケル建築物ノ構造、設備又ハ敷地ニ關シ美觀上必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十六條 主務大臣ハ建築物ノ工事執行ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第十七條 行政官廳ハ建築物左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ除却、改築、修繕、使用禁止、使用停止其ノ他ノ必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

一 保安上危險ト認ムルトキ
二 衛生上有害ト認ムルトキ

第十八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ建築物ヲ建築シタルトキ
ニ於テ從來存在スル建築物力其ノ後新ニ建築セラレタリトセハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反スヘキモノナルトキハ行政官廳ハ相當ノ期間ヲ指定シ其ノ建築物ニ付前條ニ掲クル必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

2 前項ノ規定ニ依ル措置ヲ命スルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ建築物所在地ノ公共團體ヲシテ損失ヲ補償セシム

3 前項ノ規定ニ依リ補償ヲ受クヘキ者補償金額ニ付不服アルトキハ其ノ金額決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十九條 建築主、建築工事請負人、建築工事管理者又ハ建築物ノ所有者若ハ占有者本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ二千圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 前條ノ規定ハ前條ニ掲クル者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者其ノ營業ニ關シ前條ニ規定スル違反ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

2 前條ニ掲クル者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者其ノ營業ニ關シ前條ニ規定スル違反ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得

3 前條ニ掲クル者法人ナルトキハ明治三十三年法律第五十二號ヲ準用ス

第二十一條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ訴願スルコトヲ得
2 本法ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ル場合ニ於テハ主務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第三類 都市計畫 市街地建築物法

第二十二條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付行政官廳ノ爲シタル違法處分ニ因リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十三條 本法適用ノ區域ハ勅令ヲ以テ指定スル市、區其ノ他ノ市街地トス

2 特別ノ必要アル場合ニ於テハ勅令ヲ以テ其ノ定ムル所ニ依リ前項ノ市街地ノ外ニ互リ本法適用ノ區域ヲ定ムルコトヲ得

第二十四條 本法ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ建築工事中ノ建築物、建築工事ニ著手セザルモ設計アル建築物又ハ建築物ニ非サル工作物ニ之ヲ準用スルコトヲ得

第二十五條 本法ノ全部又ハ一部ノ適用ヲ必要トセサル建築物ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十六條 本法ニ於テ道路ト稱スルハ幅員九尺以上ノモノヲ謂フ

2 道路ノ新設又ハ變更ノ計畫アルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ計畫ノ道路ハ之ヲ道路ト看做ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正九年十一月十八日勅令第五三九號ヲ以テ同九年十二月一日ヨリ施行)

市街地建築物法施行令

(大正九年九月三十日 勅令第四三八號)

改正(大正十二年八月勅令第三九五號、十三年六月同第一五二號、同年十二月同第三〇四號、昭和四年六月二十八日同第二一三號、六年十二月二十六日同第二九四號)

第一條 建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ住居地域内ニ之ヲ建築スルコトヲ得ズ但シ第一號乃至第四號ニ該當スル建築物ニシテ行政官廳住居ノ安寧ヲ害スル虞ナシト認ムルモノ又ハ公益上已ムヲ得ズト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ(昭和六年十二月勅令第二九四號)

一 當時使用スル原動機馬力數ノ合計三ヲ超過スル工場

二 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場

イ 玩具用普通火工品ノ製造

ロ 「アセチレンガス」ヲ用フル金屬ノ工作(單ニ修繕スルモノヲ除ク)

ハ 「ドライクリーニング」(單ニ拂拭スルモノヲ除ク)又ハ「ドライダイニング」

ニ 「セルロイド」ノ加熱加工又ハ鋸機ヲ用フル加工

ホ 塗料ノ吹付

ヘ 亞硫酸「ガス」ヲ用フル物品ノ漂白

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行令

- ト 骨炭其ノ他動物質炭ノ製造
- チ 羽又ハ毛ノ洗滌、染色又ハ漂白
- リ 襪、屑綿、屑紙、屑毛ノ類ノ消毒、選別、洗滌又ハ漂白
- ヌ 製綿、古綿ノ再製、起毛、反毛又ハ「フェルト」ノ製造ニシテ原動機ヲ用フ
ルモノ
- ル 骨、角、牙、蹄、貝殻ノ挽割若ハ乾燥研磨又ハ金屬ノ乾燥研磨ニシテ原動機
ヲ用フルモノ
- ヲ 鑛物、岩石、土砂、硫黃、金屬、硝子、煉瓦、陶磁器、骨又ハ貝殻ノ粉碎ニ
シテ原動機ヲ用フルモノ
- ワ 墨、懷爐灰又ハ煉炭ノ製造
- カ 煉瓦、土器類、陶磁器、人造砥石又ハ坩堝ノ製造
- ヨ 硝子ノ製造又ハ砂吹
- タ 動力槌ヲ用フル鍛冶
- 三 室面積ノ合計五十平方メートルヲ超過スル自動車ノ車庫
- 四 劇場、活動寫眞館、演藝場又ハ觀物場
- 五 待合又ハ貸座敷
- 六 倉庫業ヲ營ム倉庫
- 七 火葬場又ハ産穢物處理場

十九八 屠場又ハ死畜處理場
塵芥又ハ汚物ノ處理場
前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外行政官廳住居ノ安寧ヲ害スル虞アリト認め命令
ヲ以テ指定スルモノ

第二條 建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ商業地域内ニ之ヲ建築スルコトヲ得ズ
但シ第一號又ハ第二號ニ該當スル建築物ニシテ行政官廳商業ノ利便ヲ害スル虞ナシ
ト認ムルモノ又ハ公益上已ムヲ得ズト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ（昭和六年十二月
勅令第二九四號本條改正）

- 一 常時使用スル原動機馬力數ノ合計十五ヲ超過スル工場但シ日刊新聞印刷所ヲ除
ク
- 二 前條第二號ニ該當スルモノ
- 三 前條第七號乃至第九號ニ該當スルモノ
- 四 前各號ニ掲グルモノヲ除クノ外行政官廳商業ノ利便ヲ害スル虞アリト認め命令
ヲ以テ指定スルモノ
- 第三條 建築物左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ工業地域内ニ非ザレバ之ヲ建築スルコ
トヲ得ズ但シ第一號、第二號又ハ第四號ニ該當スル建築物ニシテ行政官廳衛生上有
害ノ若ハ保安上危険ノ虞ナシト認ムルモノ又ハ公益上已ムヲ得ズト認ムルモノハ此
ノ限ニ在ラズ（同上）

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行令

- 一 常時使用スル原動機馬力數ノ合計五十ヲ超過スル工場但シ日刊新聞印刷所ヲ除ク
- 二 左ニ掲グル事業ヲ營ム工場
 - イ 銃砲火藥類取締法ノ火藥類ノ製造
 - ロ 鹽素酸鹽類、過鹽素酸鹽類、硝酸鹽類、黃磷、赤磷、硫化磷、金屬「カリウム」、金屬「ナトリウム」、「マグネシウム」、過酸化水素水、過酸化「カリ」、過酸化「ソーダ」、過酸化「バリウム」、二硫化炭素、「メタノール」、「アルコール」、「エーテル」、「アセトン」、醋酸「エステル」類、「ニトロセルロース」、「ベンゾール」、「トルオール」、「キシロール」、「ピクリン」酸、「ピクリン」酸鹽類、「テレピン」油又ハ石油類ノ製造
 - ハ 燐寸ノ製造
 - ニ 「セルロイド」ノ製造
 - ホ 「ニトロセルロース」製品ノ製造
 - ヘ 「ビスコース」製品ノ製造
 - ト 合成染料若ハ其ノ中間物、顔料、塗料(漆ヲ除ク)、印刷用「インキ」又ハ繪具ノ製造
 - チ 溶劑ヲ用フル「ゴム」製品又ハ芳香油ノ製造
 - リ 乾燥油又ハ溶劑ヲ用フル擬革紙布又ハ防水紙布ノ製造

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行令

- ヌ 溶劑ヲ用フル塗料ノ加熱乾燥又ハ焼付
- ル 石炭「ガス」類又ハ「コークス」ノ製造
- ワ 壓縮「ガス」又ハ液體「ガス」ノ製造
- ヲ 鹽素、「ブロム」、「ヨード」、硫黃、鹽化硫黃、弗化水素酸、鹽酸、硝酸、硫酸、磷酸、苛性「カリ」、苛性「ソーダ」、「アンモニア」水、炭酸「カリ」、洗濯「ソーダ」、「ソーダ」灰、晒粉、次硝酸蒼鉛、亞硫酸鹽類、「チオ」硫酸鹽類、砒素化合物、「バリウム」化合物、鉛化合物、銅化合物、水銀化合物、「シアン」化合物、「クロロホルム」、四鹽化炭素、「ホルマリン」、「ズルホナル」、「グリセリン」、「イヒチオールスルホン」酸、「アンモン」、「醋酸」、石炭酸、安息香酸、「タンニン」酸、「アセトアニリド」、「アスピリン」又ハ「グアヤコール」ノ製造
- カ 蛋白質ノ加水分解ニ依ル製品ノ製造
- ヨ 油脂ノ採取又ハ加熱加工
- タ 石鹼、「フアクチス」又ハ「ベークライト」ノ製造
- レ 肥料ノ製造
- ソ 製紙
- ツ 製革、製膠又ハ毛皮若ハ骨ノ精製
- ネ 「アスファルト」ノ精製

- ナ 「アスファルト」、「コールドタール」、木「タール」、石油蒸溜産物又ハ其ノ残渣ヲ原料トスル製造
 - ラ 「セメント」、石膏、消石灰、生石灰又ハ「カーバイド」ノ製造
 - ム 金屬ノ熔融又ハ精煉
 - ウ 電氣用「カーボン」ノ製造
 - エ 金屬厚板又ハ形鋼ノ工作ニシテ鋸打又ハ填隙作業ヲ伴フモノ
 - オ 鐵釘類又ハ鋼球ノ製造
 - カ 伸線、伸管又ハ「ロール」ヲ用フル金屬ノ壓延
 - キ 前號ニ掲グルモノヲ除クノ外行政官廳衛生上有害ノ又ハ保安上危險ノ虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スル事業ヲ營ム工場
 - ク 第二號イ、ロ、ハ、ニ及フノ物品、可燃性「ガス」又ハ「カーバイド」ノ貯藏又ハ處理ニ供スルモノ
 - ケ 前號ニ掲グルモノヲ除クノ外行政官廳衛生上有害ノ又ハ保安上危險ノ虞アリト認メ命令ヲ以テ指定スル物品ノ貯藏又ハ處理ニ供スルモノ
- 第三條ノ二 前三條ノ規定又ハ市街地建築物法第四條第二項ノ規定ニ依リ現在地ニ建築スルコトヲ得ザル種類ニ屬スル建築物ハ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル日ヨリ十年間ヲ限リ行政官廳ノ許可ヲ受ケ左記各號ニ規定スル制限内ニ於テ増築、再築又ハ用途ノ變更ヲ爲スコトヲ妨グズ (昭和六年十二月勅令第二九四號本條改正)

- 一 現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ノ敷地及之ト一團ヲ成ス土地ヲ超エテ増築、改築、再築又ハ用途ノ變更ヲ爲サザルコト
 - 二 建築物ノ増築、改築、再築又ハ用途ノ變更ニ因リ増加スベキ建築面積ハ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ノ建築面積ノ二分ノ一ヲ超過セザルコト
 - 三 建築物ノ増築、改築、再築又ハ用途ノ變更ニ因リ増加スベキ床面積ハ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ノ床面積ヲ超過セザルコト
 - 四 工場ノ常時使用スル原動機馬力數ヲ増加スル場合ニ於テ増加スベキ馬力數ハ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ノ馬力合計數ヲ超過セザルコト但シ行政官廳土地ノ狀況、事業ノ種類、作業方法又ハ建築物ノ構造設備ニ依リ特ニ支障ナシト認ムルモノハ此ノ限ニ在ラズ
 - 五 前號ニ掲グルモノヲ除クノ外用途ノ變更ニ付テハ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ノ用途ニ類似スル用途又ハ設備ヲ變更セズ若ハ之ニ些少ノ變更ヲ加フルニ依リ營ムコトヲ得ル用途ニ限ルコト
- 第二十六條ノ規定ニ依リ建築ノ許可ヲ受ケタル建築物ハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ現在地ニ建築スルコトヲ得ザルニ至リタル際現ニ存在スル建築物ト看做ス
- 第四條 建築物ノ高ハ住居地域内ニ於テハ二十メートルヲ、住居地域外ニ於テハ三十

一メートルヲ超過スルコトヲ得ス但シ建築物ノ周圍ニ廣潤ナル公園、廣場、道路其
ノ他ノ空地アル場合ニ於テ行政官廳交通上、衛生上及保安上支障ナシト認ムルトキ
ハ此ノ限ニ在ラス（昭和六年十二月勅令第二九四號改正）

第五條

煉瓦造建築物、石造建築物及木造建築物ハ高十三メートル軒高九メートルヲ
木骨煉瓦造建築物及木骨石造建築物ハ高八メートル軒高五メートルヲ超過スルコト
ヲ得ス（同上）

第六條

前項ノ石造ニハ人造石造及「コンクリート」造ヲ、木造ニハ土藏造ヲ包含ス
3 第一項ノ木骨煉瓦造建築物トハ厚十センチメートル以上ノ煉瓦積ヲ以テ木骨ヲ被覆
又ハ填充シテ外壁ヲ構成スルモノヲ謂ヒ木骨石造建築物トハ厚十センチメートル以
上ノ石、人造石又ハ「コンクリート」ヲ以テ木骨ヲ被覆又ハ填充シテ外壁ヲ構成ス
ルモノヲ謂フ（同上）

第七條

一建築物ニシテ外壁二種以上ノ構造ヨリ成ルモノニ付テハ第一項ノ規定ノ適用ニ關
シ制限ノ最嚴ナルモノニ依ル

第八條

前二條ニ規定スル建築物ノ高トハ地盤面ヨリ建築物ノ最高部迄ノ高ヲ謂フ
2 前條第一項ノ軒高トハ地盤面ヨリ建築物ノ外壁上端迄ノ高、外壁上端ニ扶欄、扶壁
又ハ軒蛇腹アルトキハ其ノ最高部迄ノ高、出軒ノ場合ニハ軒桁上端迄ノ高ヲ謂フ但
シ切妻ノ部分ハ軒高ニ之ヲ算入セス

第九條

前二項ノ地盤面ニ高低アルトキハ行政官廳其ノ地盤面ヲ認定ス
3 前二項ノ建築物各部分ノ高ハ其ノ部分ヨリ建築物ノ敷地ノ前面道路ノ對側境界線迄ノ
水平距離ノ一倍四分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス且其ノ前面道路幅員ノ一倍四分ノ一
ニハメートルヲ加ヘタルモノヲ限度トス但シ住居地域外ニ在ル建築物ニ付テハ一倍
四分ノ一ヲ一倍二分ノ一トス（同上）

第十條

前項ノ高トハ前面道路ノ中央ヨリノ高ヲ謂フ
2 前項ノ建築物ノ敷地カ幅員同シカラサル二以上ノ道路ニ接スル場合ニ於テ一ノ道路
ノ境界線迄ノ水平距離カ其ノ道路幅員ノ一倍二分ノ一以內ニシテ且二十五メートル
以內ノ區域ノ內ニ在ル建築物各部分ノ高ニ付テハ前條ノ規定ノ適用ニ關シ其ノ道路
ヲ前面道路ト看做ス（同上）

第十一條

前項ノ規定ニ依ル前面道路二以上アル場合ニ於テ其ノ幅員同シカラサルトキハ幅員
小ナル前面道路ハ幅員最大ナル前面道路ト同一ノ幅員ヲ有スルモノト看做ス
3 第一項ノ場合ニ於テ同項ニ規定スル區域ノ外ニ在ル建築物各部分ニ付テハ幅員最大
ナル道路ヲ前面道路ト看做ス

第十二條

道路境界線カ建築線ト一致セサル場合ニ於テハ道路境界線又ハ道路幅員ニ關
スル前二條ノ規定ノ適用ニ關シ建築線ヲ其ノ道路境界線ト看做ス
第十條 建築物ノ敷地左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前三條ノ規定ニ拘ラス行政官廳
別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

- 一 公園、廣場、河、海ノ類ニ接スルトキ
- 二 前面道路ノ對側ニ公園、廣場、河、海ノ類アルトキ
- 三 其ノ地盤面ト前面道路ノ路面トノ高低ノ差著シキトキ
- 四 高低ノ差著シキニ以上ノ道路ニ接スルトキ
- 五 道路ノ終端ニ位スルトキ

第十一條 行政官廳ハ土地ノ狀況ニ依リ特ニ必要ト認ムルトキハ區域ヲ指定シ其ノ區域内ニ於ケル建築物ノ高ノ最低限度又ハ最高限度ヲ定ムルトコトヲ得(昭和六年十二月勅令第一九四號本條改正)

第十二條 煙突、棟飾、避雷針、旗竿、風見竿等建築物ノ屋上ニ突出スルモノノ高ハ建築物ノ高ニ之ヲ算入セス

2 裝飾塔、物見塔、屋窓、昇降機塔、水槽等建築物ノ屋上突出部ノ高ハ行政官廳命令ノ定ムル所ニ依リ建築物ノ高ニ之ヲ算入セサルコトヲ得

第十三條 本令中高ニ關スル規定ハ煙突、物見塔、扛重機、水槽、氣槽、無線電信用電柱ノ類及工業用建築物ニシテ行政官廳其ノ用途ニ依リ已ムヲ得スト認メ許可シタルモノニ付之ヲ適用セス

2 本令中高ニ關スル規定ハ社寺建築物ニシテ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルモノニ付之ヲ適用セス

第十四條 建築物ノ建築面積ハ建築面積ノ敷地ノ面積ニ對シ住居地域内ニ於テハ十分ノ六、商業地域内ニ於テハ十分ノ八、住居地域及商業地域外ニ於テハ十分ノ七ヲ超過スルコトヲ得ス但シ行政官廳特ニ指定シタル角地其ノ他ノ地區ニ於ケル建築物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十四條ノ二 行政官廳ハ土地ノ狀況ニ依リ特ニ必要ト認ムルトキハ區域ヲ指定シ其ノ區域内ニ於ケル建築物ノ敷地内ニ存セシムベキ空地ノ最小限度ヲ定ムルトコトヲ得(昭和六年十二月勅令第二九四號本條改正)

第十四條ノ三 都市計畫區域内ニ於テ第十一條ノ規定ニ依リ建築物ノ最低限度若ハ最高限度ヲ定ムル場合又ハ前條ノ規定ニ依リ建築物ノ敷地内ニ存セシムベキ空地ノ最小限度ヲ定ムル場合ニ於テハ行政官廳ハ之ヲ都市計畫委員會ノ議ニ付スベシ(同上)

第十五條 本令ニ於テ建築面積トハ建築物ノ水平斷面ニ於ケル外壁ノ又ハ之ニ代ルヘキ柱ノ中心線内面積中最大ナルモノヲ謂フ但シ地階ニシテ其ノ外壁ノ高地盤面上ニメイトル以下ノモノノ部分ノ面積ハ之ヲ建築面積ト看做サス(同上改正)

2 軒、庇、結出線ノ類カ前項ノ中心線ヨリ突出スルコト一メートルヲ超ユル場合ニ於テハ其ノ外端ヨリ一メートルヲ後退スル線ヲ以テ前項ノ中心線ト看做ス(同上)

3 第十四條ノ建築物ノ敷地ノ面積トハ建築物ノ敷地ノ水平斷面ノ面積中最大ナルモノヲ謂フ(同上)

第十六條 本令ニ於テ建築物ノ敷地トハ一構ノ建築物ニ屬スル一團ノ土地ヲ謂フ(同上)

第十六條ノ二 建築物ノ敷地ガ二以上ノ地域、地區又ハ第十四條ノ二ノ規定ニ依リ指定セラレタル區域ニ跨ル場合ニ於テ第一條乃至第三條、第十四條又ハ第十四條ノ二

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行令

ノ規定ノ適用ニ關シテハ制限ノ最嚴ナルモノニ依ル但シ特別ノ事由アル場合ニ於テ
行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ (同上本條改正)

第十七條 市街地建築物法第十八條第二項ノ規定ニ依リ損失ヲ補償スヘキ場合ハ左ノ
各號ノ一ニ該當スル場合ニ限ル

一 地域ノ又ハ工業地域内特別地區ノ指定又ハ變更ニ基キ建築物ノ使用禁止又ハ建
築物主要構造部ノ除却ヲ命シタル場合

二 美觀地區ノ指定又ハ變更ニ基キ建築物主要構造部ノ除却ヲ命シタル場合

三 建築線ノ指定又ハ變更ニ基キ建築物ノ主要構造部ノ除却ヲ命シタル場合

四 建築線ニ面スル建築物ノ壁面ノ位置ノ指定ニ基キ建築物主要構造部ノ變更又ハ
除却ヲ命シタル場合

五 建築物ノ高又ハ建築物ノ敷地内ニ存セシムヘキ空地ニ關スル規定ニ基キ建築物
主要構造部ノ除却ヲ命シタル場合

第十八條 市街地建築物法第十八條第二項ノ規定ニ依リ補償スヘキ損失ハ通常生スヘ
キ損失ニ限ル

第十九條 前二條ノ規定ニ依ル損失補償ノ請求ハ市街地建築物法第十八條第一項ノ措
置ヲ命セラレタル者之ヲ命セラレタル日ヨリ起算シ三月内ニ之ヲ爲スコトヲ得

第二十條 市街地建築物法第十八條第二項ノ公共團體トハ同法第二十三條ノ規定ニ依
ル同法適用區域ノ屬スル市區町村トス

第二十一條 補償義務ノ有無及補償ノ金額ハ補償審査會之ヲ裁定ス

第二十二條 補償審査會ハ第二十條ニ規定スル市街地建築物法第十八條第二項ノ公共
團體毎ニ之ヲ置ク

2 補償審査會ハ會長一人及委員十二人ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十三條 會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ

2 委員ハ左ニ掲クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一 關係各廳高等官 四人

二 前條第一項ノ公共團體ノ吏員 二人

三 前號ノ公共團體ノ議會ノ議員 四人

四 學識經驗アル者 二人

3 前項第一號、第二號及第四號ノ委員ハ主務大臣之ヲ命シ第三號ノ委員ハ其ノ議會ニ
於テ之ヲ選舉ス

第二十四條 補償審査會ニ關シテハ土地收用法第二十七條乃至第三十一條、第三十七
條、第三十九條、第四十條第一項、第二項、第四十二條乃至第四十五條、第六十九

條、第七十二條及第八十三條ノ規定ヲ準用ス

2 第二十二條第一項ノ公共團體ノ二以上ニ亙ル建築物ニ關シテハ關係補償審査會合同
シテ會議ヲ開クヘシ

第二十五條 市街地建築物法第十八條ノ規定ハ建築工事中ノ建築物及建築工事ニ著手

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行令

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行令

セサルモ設計アル建築物ニ之ヲ準用ス

第二十六條 行政官廳ハ建築工事中ノ建築物又ハ建築工事ニ著手セサルモ設計アル建築物ニシテ其ノ建築竣成ノ後ニ於テ市街地建築物法第十八條第一項ノ規定ニ依ル措置ヲ命スル必要ナシト認ムルモノニ付テハ其ノ建築ヲ許可スルコトヲ得

第二十六條ノ二 建築物ノ敷地ヲ造成スル爲ニスル擁壁ニ對シテハ市街地建築物法第九條、第十二條、第十五條乃至第二十二條及第二十五條ノ規定ヲ準用ス (昭和六年十二月勅令第二九四號改正)

第二十七條 市街地建築物法ハ國寶保存法又ハ史蹟名勝天然記念物保存法ノ適用ヲ受タル建築物ニ付之ヲ適用セス (同上)

第二十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル建築物ニシテ行政官廳支障ナシト認ムルモノニ對シテハ市街地建築物法第八條、第九條及第十一條ノ規定ヲ適用セザルコトヲ得 (同上)

一 鳥居、形像、紀念門、紀念塔ノ類

二 交通信號塔、公共便所ノ類

三 陸橋ノ類

四 地下停車場ノ類

五 高架工作物内ニ設クル倉庫、店舗ノ類

第二十八條ノ二 地階ヲ有スル建築物ノ地盤面下ニ在ル部分ニ對シテハ市街地建築物法第九條ノ規定ヲ適用セザルコトヲ得第二十六條ノ二ノ擁壁ノ地盤面下ニ在ル部分ニ付亦同ジ (同上)

第二十九條 博覽會建築物、觀覽場、節門、節塔、足代、棧橋其ノ他ノ假設建築物ニシテ行政官廳支障ナシト認ムルモノニ對シテハ市街地建築物法第二條乃至第六條、第九條及第十一條ノ規定ヲ適用セザルコトヲ得 (同上)

第二十九條ノ二 市街地建築物法第二十六條第二項ノ道路ノ境域内ニ於テ行政官廳支障ナシト認ムルトキハ同法第八條、第九條及第十一條ノ規定ニ拘ラス存續期限ヲ附シ假設建築物ノ建築ヲ許可スルコトヲ得

第三十條 市街地建築物法第二十六條第一項ノ道路ノ新設又ハ變更ノ計畫アル場合ニ於テ行政官廳其ノ計畫ヲ告示シタルトキハ其ノ計畫ノ道路ハ之ヲ道路ト看做ス

第三十一條 第四條乃至第十四條ノ三ノ規定ハ市街地建築物法適用區域ニシテ内務大臣ノ指定スルモノニ之ヲ適用セス (同上)

附 則

本令ハ市街地建築物法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (大正九年十二月一日)

附 則 (大正十三年六月勅令第一五二號)

本令ハ大正十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行令

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭和四年六月二十八日勅令第二一三號)

本令ハ國寶保存法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス (昭和四年七月一日)

附 則 (昭和六年十二月二十六日勅令第二九四號)

本令ハ昭和七年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

◎市街地建築物法施行規則 (大正九年十一月九日 內務省令第三七號) 改正 大正十一年八月內務省令第二一號、十二年八月同第二六號、十三年六月同第一五號、同十二月同第三〇號、十四年一月同第一號、十五年十月同第五三號、昭和七年一月十二日同第一號

第一章 通 則

第一條 本則ニ於ケル用語ハ左ノ例ニ依ル

- 一 居室トハ居住ノ用ニ供スル室ヲ謂フ 玄關、廊下、階段室、外套室、便所、手洗所、浴室、物置、納戸、暗室ノ類ハ居室ト看做サス

二 地階トハ其ノ床面地盤面下ニ在ル階ヲ謂フ但シ其ノ床面地盤面ヲ下ルコト一尺未満ノモノハ之ヲ第一階ト看做ス

三 屋階トハ屋根裏ニ設ケタル階ヲ謂フ 床高トハ床面ヨリ其ノ直下地面迄ノ距離ヲ謂フ

四 階高トハ其ノ階ノ床面ヨリ其ノ直上階ノ床面迄ノ高ヲ謂フ但シ最上階ニ在リテハ其ノ天井高ヲ謂フ

五 天井高トハ室ノ床面ヨリ天井迄ノ高ヲ謂フ 一室ニシテ天井高異ル部分アルトキハ其ノ室ノ床面積ヲ以テ容積ヲ除シタルモノヲ謂フ

六 外壁トハ建築物ノ外側ヲ構成スル壁體ヲ謂フ 間壁トハ建築物ノ内部ヲ區劃スル壁體ヲ謂フ

七 削除 (昭和七年一月十二日內務省令第一號)

八 不燃材料トハ煉瓦、石、人造石、ココンクリート、石綿盤、瓦、金屬、陶磁器、硝子、コモルタル、漆喰ノ類ヲ謂フ

九 耐火材料トハ煉瓦、石、人造石、ココンクリート、鉛、アスファルト、陶磁器ノ類ヲ謂フ

十 石造トハ石造、人造石造及「ココンクリート」造ヲ謂フ

十一 壁體ノ耐火構造トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ

十二 厚一尺以上ノ煉瓦造又ハ石造

十三 厚四寸以上ノ鐵筋「ココンクリート」造

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行規則

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行規則

- ハ 厚一尺以上ノ孔煉瓦造、厚六寸以上ノ鐵筋「コンクリート」、ホロブロック造、厚五寸以上ノ鐵筋「コンクリート」、ブロック造ノ類ニシテ地方長官本號イ又ハロニ規定スル壁體ト同等以上ノ耐火の效力アリト認ムルモノ
- 十三 床又ハ屋根ノ耐火構造トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ
- 十四 鐵筋「コンクリート」造
- ロ 鐵骨ヲ有スル鐵筋「コンクリート」造、煉瓦造又ハ石造
- ハ 煉瓦造又ハ石造
- ニ 最下階ノ床ニ在リテハ土間、叩、石敷ノ類
- ホ 鐵骨ヲ有シ「メタルラス、コンクリート」、網入硝子ノ類ヲ以テ覆葺スル屋根ニシテ地方長官ノ承認セルモノ
- 十五 柱ノ耐火構造トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ
- イ 煉瓦造又ハ「コンクリート」造
- ロ 鐵筋「コンクリート」造
- ハ 鐵柱ニシテ耐火的ニ有效ナル被覆ヲ爲シタルモノ
- ニ 石造ニシテ地方長官ノ承認セルモノ
- 十六 階段ノ耐火構造トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ
- イ 鐵筋「コンクリート」造、煉瓦造又ハ石造
- ロ 鐵骨ヲ有スル鐵筋「コンクリート」造、煉瓦造又ハ石造
- ハ 鐵造

- 十七 甲種防火戸トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ
- イ 鐵製ニシテ鐵板ノ厚五厘以上ノモノ
- ロ 鐵骨「コンクリート」造又ハ鐵筋「コンクリート」造ニシテ厚一寸二分以上ノモノ
- ハ 厚五寸以上ノ土藏扉
- 地方長官ハ防火戸ノ構造ノ種類ニ依リ適當ト認ムルモノニ對シ前各號ノ規定ニ拘ラス別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
- 十八 乙種防火戸トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノヲ謂フ
- イ 鐵製ニシテ鐵板ノ厚五厘未滿ノモノ
- ロ 鐵骨「コンクリート」造又ハ鐵筋「コンクリート」造ニシテ厚一寸二分未滿ノモノ
- ハ 木造又ハ鐵造ニシテ屋外ニ面スル部分ノ厚一寸以上ノ「モルタル」、漆喰又ハ適當ナル厚ノ石綿盤ノ類ヲ以テ被覆シタルモノ
- 地方長官ハ防火戸ノ構造ノ種類ニ依リ適當ト認ムルモノニ對シ前各號ノ規定ニ拘ラス別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
- 十九 建築物ノ大修繕トハ壁體、柱、小屋若ハ基礎ノ過半ノ修繕又ハ之ニ準スル構造上主要ナル部分ノ修繕ヲ謂フ
- 二十 大變更トハ壁體、柱、小屋、基礎等構造上主要ナル部分ノ變更ヲ謂フ
- 二十一 階數トハ地階及屋階ヲ除キタル階數ヲ謂フ
- 第二條 本則ノ適用ニ關シ土地又ハ建築物ニ關スル測算法、呼稱等ニ付疑義ヲ生シタルトキハ地方長官之ヲ決定ス
- 第三類 都市計畫 市街地建築物法施行規則

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行規則

第三條 本則ニ規定セル建築物ノ採光、換氣、防火、避難、清潔、強度ニ關スル構造設備ハ常に有效ニ保持スヘシ

第二章 建築物ノ突出部

第四條 市街地建築物法第九條但書ノ建築物ノ前面突出部ハ地方長官特ニ指定スル場合ニ於テハ左ノ範圍内ニ於テ建築線ヨリ突出セシムルコトヲ得但シ特ニ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ノ外前面建築線間ノ距離ノ二十分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス(昭和七年一月内務省令第一號改正)
一 蛇腹、軒、小塔、出窓、標旗、標燈、招牌其ノ他之ニ類スルモノハ路面上八尺以上ニ在ル場合ニ限リ三尺迄

二 出入口ノ階段、凹庭ノ手摺、地覆、腰石、根石其ノ他之ニ類スルモノハ一尺迄

第五條 市街地建築物法第九條但書ノ建築物ノ基礎ハ地方長官特ニ指定スル場合ヲ除クノ外道路幅ノ境界線ヲ超エサル範圍内ニ於テ建築線ヨリ突出セシムルコトヲ得

第六條 裝飾塔、物見塔、屋簷、昇降機塔、水槽等建築物ノ屋上突出部ニ付テハ市街地建築物法施行令第四條乃至第九條ノ適用ニ關シ其ノ部分ノ高ノ最高限ノ五分ノ一迄ハ建築物ノ高ニ之ヲ算入セズ但シ其ノ算入セザル部分ノ最大面積ノ合計ハ建築面積ノ十分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ズ(昭和七年一月内務省令第一號本條改正)
2 昇降機塔ニ付テハ特ニ地方長官ノ許可ヲ受ケ前項ノ五分ノ一ヲ九メートル迄増加スルコトヲ得

第三章 建築物ノ構造設備

第一節 一般構造設備

第七條 建築物ノ敷地ハ其ノ接スル道路境界ニ於ケル路面ヨリ高カラシメ建築物ノ床下ノ地盤面ハ周圍ノ地盤面ヨリ高カラシムベシ但シ建築物ノ用途又ハ土地ノ狀況ニ依リ地方長官本例ノ規定ニ依リ難シト認メ又ハ必要ナシト認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス (昭和七年一月内務省令第一號改正)

第八條 建築物ノ敷地濕潤ナルトキ、出水氾濫ノ虞アルモノナルトキ又ハ塵芥ノ類ヲ以テ埋立テラレタルモノナルトキハ地方長官ハ地盤面ノ地揚高、建築物ノ床高又ハ地盤ノ改良等ニ關シ必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得 (同上)

第九條 建築物ノ敷地ニハ其ノ敷地内ニ於ケル雨水及汚水ヲ排泄又ハ處理スヘキ適當ナル設備ヲ爲スヘシ

第十條 下水溝、下水管、溜枳ノ類ハ耐水材料又ハ當該官吏又ハ吏員ノ承認スル材料ヲ以テ構造スヘシ (同上)

第十一條 便所、畜舍等ヨリ排出スル汚物ニ對シ汚物溜ヲ設ケムトスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 汚物溜ハ耐水材料ヲ以テ構造シ適當ナル防水裝置ヲ施シ且覆蓋ヲ設クヘシ
便所、畜舍等ヨリ排出スル汚物ハ地方長官ノ指定スル下水道ニ非サレハ之ニ放流スヘカラス但シ地方長官ノ承認スル汚物處理槽ヲ設クルトキハ此ノ限ニ在ラス

2 前項ノ下水道ノ設備アル地區ニシテ地方長官特ニ指定スル區域内ニ在リテハ便所ハ汲取便所ト

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行規則

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行規則

爲スヘカラス

第十三條 汲取便所ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルベシ (同上本條改正)

- 一 糞尿溜、尿樋、糞尿壺及其ノ上口周圍ハ不透性質ノ材料ヲ以テ造ルコト
- 二 床下ニ於テハ耐水材料ヲ以テ他ノ部分ト遮斷スルコト
- 三 汲取口ハ密閉シ得ル裝置ヲ爲シ地盤面ヨリ十センチメートル以上高カラシメ且之ヲ直接道路ニ面セシメザルコト

第十四條 井戸ト汲取便所及汚物溜トノ距離ハ三間以上ヲ有セシムヘシ但シ地方長官其ノ構造設備又ハ土地ノ狀況ニ依リ衛生上支障ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十五條 地方長官ハ井戸、汲取便所又ハ汚物溜ノ位置、構造、設備等ニ關シ前三條及前項ノ外必要ナル規定ヲ設ケ又ハ措置ヲ命スルコトヲ得

第十六條 建築物ノ壁體ニシテ直接土壤ニ接觸スル部分ハ耐水材料ヲ以テ構造スヘシ但シ門、障扉其ノ他輕微ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 居室ノ床地盤面下ニ在ル建築物ニ在リテハ最下階ノ居室ノ床又ハ其ノ床下ハ耐水材料ヲ以テ構成シ其ノ壁體及床下ニハ適當ナル防濕方法ヲ施スヘシ

第十八條 居室ノ床高ハ一尺五寸以上ト爲スヘシ但シ床又ハ床下ニ「コンクリート」叩其ノ他適當ナル防濕方法ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 居室ノ床木造ナルトキハ其ノ床下ニハ適當ナル換氣方法ヲ講スヘシ

第二十條 居室ノ天井高ハ七尺以上ト爲スヘシ

第二十一條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第二十二條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第二十三條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第二十四條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第二十五條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第二十六條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第二十七條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第二十八條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第二十九條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第三十條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第三十一條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第三十二條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第三十三條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第三十四條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第三十五條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第三十六條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第三十七條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第三十八條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第三十九條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第四十條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第四十一條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第四十二條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第四十三條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第四十四條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第四十五條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第四十六條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第四十七條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第四十八條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第四十九條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第五十條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第五十一條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第五十二條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第五十三條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第五十四條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第五十五條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第五十六條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第五十七條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第五十八條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第五十九條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第六十條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第六十一條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第六十二條 居室ハ其ノ室面積ノ十ノ一以上ノ有效面積ヲ有スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ヲ有ス

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行規則

ヘシ 2 前項ノ採光面積三尺以上ノ縁側ヲ距ツル場合ハ其ノ採光面積二分ノ一ヲ有效面積ト看做ス此ノ場合ニ於テ濡縁ハ縁側ト看做サス

3 第一項ノ採光面積ハ左ノ各號ニ該當スル部分ニ限り有效ナルモノト看做ス但シ道路、公園、廣場等ノ空地ニ面スルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

一 其ノ部分ヨリ直上屋根面(直上屋根面ナキトキハ壁頂迄以下同シ)ニ至ル高ハ住居地域内ニ於テハ其ノ面スル隣地境界線迄ノ水平距離ノ二倍半ヲ、商業地域内ニ於テハ五倍ヲ、住居地域及商業地域外ニ於テハ四倍ヲ超過セザルコト

二 其ノ部分ヨリ直上屋根面ニ至ル高ハ住居地域内ニ於テハ同一敷地内ニ在ル對向壁迄ノ水平距離ノ二倍半ヲ、商業地域内ニ於テハ五倍ヲ、住居地域及商業地域外ニ於テハ四倍ヲ超過セザルコト

三 對向壁迄ノ水平距離ノ二倍半ヲ、商業地域内ニ於テハ五倍ヲ、住居地域及商業地域外ニ於テハ四倍ヲ超過セザルコト

四 軒、庇其ノ他著シク採光ヲ妨クルモノアリト認メ又ハ衛生上特別ノ必要アリト認ムルトキハ地方長官ハ採光ニ關シテ採光面ノ増加其ノ他適當ナル措置ヲ命スルコトヲ得

5 第一項ノ適用ニ於テ天窓ハ地方長官ノ認定ニ依リ其ノ面積ヲ三倍迄ニ換算スルコトヲ得(昭和七年一月内務省令第一號改正)

6 第一項ノ面積ニ相當スル窓又ハ之ニ代ルヘキ採光面ノ部分ハ其ノ上端ヲ床面上五尺七寸以上ト爲スヘシ

7 隨時開放シ得ル襖、障子ノ類ヲ以テ仕切りタル二室ハ本條ノ適用ニ關シ之ヲ一室ト看做ス

第二十條 居室ニ於テハ直接外氣ニ面シテ室面積ノ二十分ノ一以上ニ相當スル面積ヲ開放シ得ヘカラシムヘシ但シ之ニ代ルヘキ適當ノ換氣裝置アルトキハ此ノ限ニ在ラス

2 前條第四項、第六項及第七項ノ規定ハ本條ニ之ヲ準用ス

第二十一條 特殊ノ用途ニ充ツル居室ニシテ已ムヲ得サルモノハ地方長官ノ許可ヲ受ケ第十七條

第十九條及第二十條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二十二條 浴室及便所ニハ採光換氣ノ爲直接外氣ニ面シ適當ナル窓ヲ設ケ又ハ之ニ代ルヘキ設備ヲ爲スヘシ

第二十三條 地方長官ハ建築物ニ對シ防疫上必要ナル防鼠其ノ他ノ設備ヲ命スルコトヲ得

第二十四條 出入口及窓ノ扉ハ路面上三メートル以上ニ在ルモノヲ除クノ外開閉ノ際ト雖建築線ヨリ突出セザル構造ト爲スベシ但シ第四條ノ指定アリタル場合ハ同條第二號ノ例ニ依リ建築線ヨリ突出セシムルコトヲ得(昭和七年一月内務省令第一號本條改正)

第二十五條 階段ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ但シ避難階段其ノ他特殊ノ用途ニ供スルモノハ此ノ限ニ在ラス

一 階段及踊場ノ幅ハ内法二尺五寸以上ト爲スコト

二 蹴上七寸五分以下踏面五寸以上ト爲スコト

三 高十五尺ヲ超ユルモノニ在リテハ高十五尺以内毎ニ踊場ヲ設クルコト

2 階段ノ用途ニ依リ危險ナリト認ムルトキハ地方長官ハ前項ノ規定ニ拘ラス必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 地方長官保安上必要ト認ムルトキハ階段ノ設置ヲ命シ又ハ其ノ配置若ハ設備ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十七條 屋根ハ耐火構造ニ非サルトキハ不燃材料ヲ以テ覆葺スヘシ但シ「モルタル」塗、漆噴塗ノ類ヲ以テ覆葺セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

2 瓦葺屋根ニ在リテハ引掛棧瓦ノ類ヲ使用シ又ハ瓦ヲ野地ニ緊結スヘシ

3 神社建築物ノ屋根、茶室、四阿ノ類ノ屋根又ハ輕微ナル庇ノ類ハ土地ノ狀況ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケ本條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

4 地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ支障ナシト認ムルトキハ區域ヲ指定シ第一項ノ規定ヲ適用セザルコトヲ得(昭和七年一月内務省令第一號追加)

第二十八條 地方長官ハ物干、物見臺等屋上工作物ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第二十九條 建築面積二百坪以上ノ建築物ニハ建築面積二百坪以内毎ニ防火壁ヲ設クヘシ但シ外壁、床、屋根、柱及階段耐火構造ナルトキ若ハ壁體、床、屋根、天井、小屋、柱及階段不燃材料ヲ以テ構成セラレタルモノナルトキ又ハ地方長官其ノ用途ニ依リ已ムヲ得スト認ムルトキ若ハ土地ノ狀況ニ依リ特ニ支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス(同上改正)

第二十九條ノ二 地方長官ハ建築物ノ配置、構造又ハ用途ニ依リ危險ナリト認ムルモノニ付防火壁ノ設置其ノ他防火上必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第三十條 前二條ノ防火壁ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一 耐火構造ト爲スコト

二 兩端ハ外壁ニ達スルコト但シ木造建築物ニ在リテハ之ニ近接スル木部ヨリ一尺以上屋外ニ

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行規則

- 一 突出セシムルコト
- 三 上端ハ屋根面ニ直角ニ測リ一尺五寸以上屋上ニ突出セシムルコト但シ耐火構造ノ屋根ニ在リテハ屋上ニ突出セシメサルコトヲ得
- 四 各開口ノ幅及高ハ九尺以下ニシテ甲種防火戸ノ設備ヲ有スルコト但シ特殊ノ用途ニ充ツル建築物ニ在リテハ地方長官ノ認可ヲ受ケ幅及高ヲ十二尺迄ト爲スコトヲ得
- 五 凹壁溝ヲ設クル場合ト雖モ其ノ部分ノ壁厚ハ煉瓦造及石造ニ在リテハ七寸以上、鐵筋「コンクリート」造ニ在リテハ三寸五分以上ト爲スコト
- 第三十一條 防火壁アル建築物ニ於テ屋窓、裝飾塔等ノ屋上突出部木造ニシテ延焼ノ虞アリト認ムルトキハ地方長官ハ其ノ構造ニ對シ防火上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得
- 第三十二條 木造又ハ木骨造建物ノ防火壁ハ鐵筋「コンクリート」造又ハ鐵骨造ト爲スヘシ
- 第三十三條 壁附煖爐ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ
 - 一 爐胸ハ堅牢ナル基礎ノ上ニ築造シ木造建物ニ在リテハ上部ヲ積出シト爲ササルコト
 - 二 薪炭ヲ使用スル壁附煖爐ニ在リテハ焚口下及其ノ前方一尺以上左右各五寸以上ノ部分ノ床ヲ、其ノ他ノ壁附煖爐ニ在リテハ焚口下ノ部分ノ床ヲ不燃材料ニテ構造シ其ノ下方八寸以内ニハ燃質材料ヲ取付ケサルコト
 - 三 壁附煖爐ノ煙突ニシテ屋内ニ在ル部分ハ鐵筋「コンクリート」、石、煉瓦ノ類ヲ以テ構造シ外壁ノ厚ハ鐵筋「コンクリート」ニ在リテハ五寸以上、其ノ他ニ在リテハ七寸以上ト爲シ煙道ハ土管ヲ挿入シ又ハ「セメント」、モルタル「」ヲ以テ塗ルコト
 - 四 煙道ノ屈曲百二十度以内ナルトキハ其ノ屈曲部ニ掃除口ヲ設クルコト

- 第三十四條 木造又ハ木骨造建物ノ壁附煖爐ハ鐵筋「コンクリート」造又ハ鐵骨造ト爲スヘシ
- 第三十五條 煖爐、竈、風呂竈ノ類ノ煙突ノ屋上突出部ハ其ノ最短部ニ於テ二尺以上ト爲スヘシ但シ煉瓦造又ハ石造ノ部分ハ補強ヲ爲ササル限リ三尺以上ト爲スヘカラス
- 第三十六條 煙突ノ直上部ニ軒アルトキハ其ノ軒ヨリ更ニ二尺以上突出セシムヘシ煙突ト上方軒先トノ水平距離三尺未滿ナルトキ亦同シ
- 第三十七條 金屬製煙突ニシテ小屋裏、床裏等露出セサル位置ニ在ル部分ハ金屬以外ノ不燃材料ヲ以テ被覆スヘシ
- 第三十八條 金屬製煙突ハ木材其ノ他ノ燃質材料ト五寸以上ノ間隔ヲ有スヘシ但シ厚三寸以上ヲ有スル金屬以外ノ不燃材料ヲ以テ被覆スルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第三十九條 地方長官ハ煙突ニシテ近接建築物ニ危害ヲ及ホス虞アリト認ムルトキハ前數條ノ外必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得
- 第四十條 汽罐、營業用風呂竈其ノ他多量ノ燃料ヲ使用スル設備ニ附屬スル煙突ノ高及口徑ニ付テハ其ノ燃料ノ種類、量及土地ノ狀況ニ依リ地方長官之ヲ定ム
- 第四十條ノ二 地方長官ハ汽罐其ノ他多量ノ燃料ヲ使用スル設備ニ對シ其ノ燃料ノ種類、量及土地ノ狀況ニ依リ煤煙ヲ發散セサル装置ノ設備ヲ命スルコトヲ得
- 第四十一條 汽罐、風呂竈ノ類ノ焚場及灰捨場ニ對シ地方長官防火上必要ナル構造設備ヲ命スルコトヲ得
- 第四十二條 高六十五尺ヲ超過スル建築物ニハ適當ナル避雷設備ヲ爲スヘシ但シ地方長官土地ノ狀況又ハ建築物ノ種類ニ依リ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ（昭和七年一月內務省令）

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行規則

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行規則

第一號但書追加)

第四十三條 高六十五尺又ハ軒高五十尺ヲ超過スル建築物ハ其ノ壁體、床、柱、屋根、階段等主要構造部ヲ耐火構造ト爲スヘシ但シ壁體、床、屋根、天井、小屋、柱及階段不燃材料ヲ以テ構成セラレタルモノニシテ地方長官支障ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス(同上改正及但書追加)

第四十三條ノ二 市街地建築物法施行令第二十九條及第二十九條ノ二ノ建築物ニ付テハ地方長官支障ナシト認ムルトキハ本則第三章ノ規定ノ一部ヲ適用セサルコトヲ得

第二節 構造強度

第一 概 則

第四十四條 構造用「コンクリート」及「モルタル」ノ原料ト爲スヘキ「セメント」ハ商工省告示日本標準規格第二十八號又ハ第二十九號ノ規定ニ依リ合格シタルモノナルコトヲ要ス(昭和七年一月内務省令第一號改正)

2 構造用鋼材ハ商工省告示日本標準規格第二十號ノ規定ニ依ル品質以上ノモノナルコトヲ要ス(同上追加)

第四十五條 建築物ノ基礎ニ使用スル木材ハ常水面下ニ在ルコトヲ要ス但シ規模小ナル建築物又ハ短期間使用ノ建築物ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條 主要ナル構造用木材ニシテ石、煉瓦、「コンクリート」、土ノ類ニ積込ム部分又ハ之ニ接スル部分ニハ防腐方法ヲ施スヘシ但シ木造建築物ノ眞壁ニ接スル木部ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス

第四十七條 地方長官ハ建築物ノ構造強度ニ關シ土地ノ狀況ニ依リ本節ニ定ムルモノノ外必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

第二 木構造及木骨構造

第四十八條 柱、梁其ノ他之ニ類スル構材ノ継手及仕口ニシテ主要ナルモノハ「ボルト」締其ノ他適當ナル方法ニ依リ緊著スヘシ

第四十九條 建物ノ主要ナル柱ハ掘立ト爲スヘカラス但シ適當ナル防腐方法ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十條 掘立ニ非サル柱ノ下部ニハ土臺又ハ脚固ヲ使用スヘシ但シ柱ヲ其ノ基礎ニ緊著シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五十一條 石、煉瓦其ノ他ノ腰積ヲ有スル建物ハ之ヲ土臺敷構造ト爲シ土臺ハ腰積ニ緊結スヘシ

2 石、煉瓦、「コンクリート」ノ類ノ束ヲ以テ前項ノ腰積ニ代フルモノハ其ノ構造ニ付特ニ地方長官ノ許可ヲ受クヘシ

第五十二條 建物ノ土臺及敷桁ノ隅角ニハ燧材ヲ使用スヘシ

第五十三條 柱ノ小徑ハ土臺、脚固、胴差、梁、桁其ノ他ノ主要橫架材間ノ距離ニ對シ三階建ノ第三階、二階建ノ第二階又ハ平家建ニ在リテハ其ノ三十分ノ一ヲ、三階建ノ第二階又ハ二階建ノ第一階ニ在リテハ其ノ二十五分ノ一ヲ、三階建ノ第一階ニ在リテハ其ノ二十二分ノ一ヲ下ル

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行規則

ヘカラス但シ庇ノ支柱其ノ他輕微ナル荷重ヲ承クルモノハ此ノ限ニ在ラス
 2 屋根ヲ金屬板、石盤又ハ石綿盤ノ類ヲ以テ覆葺スルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ關シ三十分ノ一ヲ三十五分ノ一、二十五分ノ一ヲ三十分ノ一、二十二分ノ一ヲ二十五分ノ一ト爲スコトヲ得
 3 木骨石造、木骨煉瓦造及土藏造ニ在リテハ第一項ノ適用ニ關シ三十分ノ一ヲ二十五分ノ一、二十五分ノ一ヲ二十二分ノ一、二十二分ノ一ヲ二十分ノ一トス
 第五十四條 柱ニシテ其ノ必要ナル斷面積ノ三分ノ一以上ヲ缺取ル場合ニハ其ノ部分ヲ補強スヘシ

第五十五條 建物ニハ適當ニ筋違又ハ方杖ヲ設クヘシ

第五十六條 削除(大正十三年六月内務省令第一五號)

第五十七條 建築物ノ敷地ノ地盤堅牢ナルトキ又ハ規模小ナル建築物ハ當該官吏又ハ吏員ノ承認ヲ受ケ第五十條及第五十二條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得(昭和七年一月内務省令第一號改正)

第三 石構造煉瓦構造及「コンクリート」構造

第五十八條 石、煉瓦其ノ他之ニ類スル材料ヲ以テ築造スル建築物ノ部分ハ「セメント」入「モルタル」ヲ用キテ組積スヘシ但シ高三尺以下ノ牆壁其ノ他構造ノ輕微ナルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十九條 建物ノ壁體石造又ハ煉瓦造ナルトキ下階ノ壁厚ハ其ノ上階ノ壁厚ヨリ小ナルヘカラス
 第六十條 石造又ハ煉瓦造壁體ノ壁厚ハ之ヲ一尺未満ト爲スヘカラス
 第六十一條 建物ノ壁體石造又ハ煉瓦造ナルトキハ其ノ壁長三十尺ヲ超過スヘカラス

2 壁厚特ニ大ナルモノハ地方長官ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

3 壁長ハ其ノ壁體ニ接著スル對隣壁ノ接著部分ノ中心距離ヲ以テ之ヲ度ル

4 地方長官適當ト認ムル補強方法ヲ施シタル控壁ハ前項ノ適用ニ關シ之ヲ對隣壁ト看做ス

5 壁高ハ其ノ壁體ノ接著スル地盤面ヨリ之ヲ度ル

第六十二條 建物ノ壁體石造又ハ煉瓦造ナルトキハ其ノ壁頂ニ鐵又ハ鐵筋「コンクリート」ノ臥梁ヲ設クヘシ

第六十三條 建物ノ外壁煉瓦造ナルトキハ其ノ壁厚ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一 長十八尺以下ノモノニ在リテハ一尺以上ト爲スコト

二 長十八尺ヲ超過シ三十尺以下ノモノニ在リテハ一尺三寸以上ト爲スコト

第六十四條 煉瓦造間壁ノ厚ハ前條ノ厚ヨリ三寸ヲ減スルコトヲ得

第六十五條 建物ノ壁體煉瓦造ナルトキ或ル階ニ於ケル出入口、窓其ノ他ノ開口ノ幅ノ總和カ壁

長ノ二分ノ一ヲ超過スルトキハ其ノ壁厚ハ前二條ノ厚ニ三寸ヲ加フヘシ但シ其ノ壁體ニ幅三尺

以上ノ柱形(控壁ヲ含ム以下同シ)ヲ有スル場合ニ於テ其ノ柱形間及之ト對隣壁トノ中心距離

十五尺以下ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十六條 建物ノ壁體煉瓦造ニシテ左記各號ノ一ニ該當スル場合ニハ各階ノ壁厚ハ第六十三條

及第六十四條ノ厚ヨリ三寸ヲ減スルコトヲ得

一 其ノ階ノ床及其ノ階ノ直上階ノ床又ハ屋根鐵筋「コンクリート」造ナルトキ

二 地方長官適當ト認ムル控壁、鐵骨又ハ鐵筋「コンクリート」ノ臥梁其ノ他ノ補強方法アルトキ

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行規則

- 第六十七條 建物ノ壁體煉瓦造ナルトキ其ノ壁厚ハ第六十三條乃至第六十六條ノ規定ニ拘ラス其ノ階高ノ十五分ノ一未滿ト爲スヘカラス
- 第六十八條 建物ノ壁體煉瓦造ナルトキ其ノ階高ノ四分ノ三以上ノ高ヲ通シテ壁體ニ堅壁溝ヲ設ケル場合ニハ其ノ壁溝部ノ壁厚ハ第六十條、第六十三條乃至第六十七條ノ厚ノ三分ノ二未滿ト爲スヘカラス
- 2 横壁溝ハ深三寸長九尺ヲ超過スヘカラス
- 第六十九條 煉瓦造壁體ニ於ケル出入口及窓相互間ノ直上垂直距離ハ二尺以上ト爲スヘシ但シ鐵又ハ鐵筋「コンクリート」ノ臥梁ヲ以テ適當ナル補強ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス
- 第七十條 煉瓦造二重壁ニ於テハ其ノ一方ノ壁ハ第五十九條乃至第六十九條ノ規定ニ依ルヘシ
- 第七十一條 建物ノ壁體「コンクリート」造ナルトキハ第六十三條乃至第七十條ノ適用ニ關シ之ヲ煉瓦造ト看做ス
- 第七十二條 建物ノ壁體「コンクリート」造以外ノ石造ナルトキ其ノ厚ハ第六十三條乃至第六十五條及第六十七條ノ厚ニ其ノ十分ノ二ヲ加フヘシ
- 第七十三條 貼石、貼瓦ノ類ハ之ヲ壁厚ニ算入セス
- 第七十四條 鐵骨造又ハ鐵筋「コンクリート」造ニ於ケル石、煉瓦「コンクリート」等ノ帳壁ニハ第五十九條、第六十條、第六十二條乃至第七十二條ノ規定ヲ適用セス
- 第七十五條 高十二尺未滿ノ間壁其ノ他構造上輕微ナル壁體ニ對シテハ第六十條乃至第七十二條ノ規定ヲ適用セス

第七十六條 石造又ハ煉瓦造ノ墻壁ハ特殊ノ補強方法ヲ施シタル場合ノ外左ノ規定ニ依ルヘシ

一 壁厚ハ其ノ部分ヨリ壁頂迄ノ垂直距離ノ十分ノ一以上ト爲スコト

二 削除(大正十三年六月内務省令第一五號)

三 長二間未滿毎ニ適當ナル控壁ヲ設クルコト但シ其ノ壁厚第一號ノ規定ノ最小限ノ一倍半以上ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七十七條 同一建築物ノ壁體二種以上ノ構造ヨリ成ルトキハ其ノ壁長及壁厚ニ付テハ地方長官之ヲ定ム

第七十八條 切妻壁體又ハ高三尺ヲ超過スル扶欄若ハ扶壁ハ石造又ハ煉瓦造ト爲スヘカラス但シ切妻壁體ニシテ其ノ頂部ヲ鐵筋「コンクリート」造屋根ニ緊結シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第七十九條 張間五尺以上ノ開口上ニ架スル石造又ハ煉瓦造ノ迫持ハ其ノ迫高ヲ張間ノ十分ノ一以上ト爲スヘシ但シ適當ナル補強ヲ爲シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第八十條 壁體ノ隅角、蛇腹、窓、出入口脇其ノ他之ニ類スル部分ニ使用スル石、人造石ノ類ハ適當ナル方法ヲ以テ之ヲ其ノ接スル壁體ノ部分ニ緊結スヘシ

第八十一條 石造又ハ煉瓦造ノ拮出窓、拮出縁等ニ在リテハ鐵骨又ハ鐵筋「コンクリート」ヲ以テ適當ナル補強ヲ爲スヘシ

第四 鐵構造及鐵骨構造

第八十二條 削除(昭和七年一月十二日内務省令第一號)

第八十三條 建物ノ構造ニ使用スル鋼又ハ鍊鐵ノ主要ナル構材ノ接合ニハ地方長官已ムヲ得スト

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行規則

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行規則

認ムル場合又ハ支障ナシト認ムル場合ノ外「リベット」ヲ使用スヘシ（同上改正）
2 接合用「リベット」又ハ「ボルト」ノ中心距離ハ其ノ直徑ノ二倍半未滿ト、其ノ中心ト材端トノ距離ハ其ノ直徑ノ一倍半未滿ト爲スヘカラス

第八十四條 建物ノ構造ニ使用スル鐵柱ハ其ノ斷面ノ最小二次率半徑ヲ其ノ主要ナル支點間距離ニ對シ鋼又ハ鍊鐵ニ在リテハ百五十分ノ一以上ト、鑄鐵ニ在リテハ七十五分ノ一以上ト爲スヘシ

2 柱以外ノ應壓鋼材又ハ應壓鍊鐵材ニ在リテハ前項ノ百五十分ノ一ヲ二百分ノ一トス
第八十五條 鋼柱又ハ鍊鐵柱ノ接合ニハ其ノ小ナル柱ト同等以上ノ強ヲ有スル添板ヲ用キ柱ノ全應力ヲ傳フルニ足ルヘキ數ノ「リベット」ヲ使用スヘシ

第八十六條 鐵骨造建物ニ於ケル主要ナル壁ハ之ヲ基礎ニ緊結スヘシ
第八十六條ノ二 鐵骨造建物ニ在リテハ梁其ノ他ノ橫架材ト柱トノ接合ニハ適當ナル方杖、腰板ノ類ヲ使用シ之ヲ緊結スヘシ但シ筋違又ハ鐵筋「コンクリート」ノ壁體ヲ設ケタル部分ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第八十六條ノ三 鐵骨造建物ニハ適當ニ筋違又ハ鐵筋「コンクリート」ノ壁體ヲ設ケヘシ
第八十七條 鐵骨造建物ノ帳壁ハ左ノ規定ニ依ルヘシ
一 鐵骨ニ緊結スルコト

二 「ホロタイル」ノ類ヲ使用セサルコト但シ間壁ニシテ適當ナル補強ヲ施シタル場合又ハ堅牢ナル壁體ノ表積若ハ裏積トシテ適當ニ之ニ連結シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第五 鐵筋「コンクリート」構造

第八十八條 鐵筋「コンクリート」構造ニ使用スル「コンクリート」ハ左ノ規定ニ依ルヘシ但シ其ノ用途ニ依リ已ムヲ得ス且構造上支障ナキモノニ在リテハ地方長官ノ許可ヲ受ケ第三號ノ規定ニ依ラサルコトヲ得（昭和七年一月內務省令第一號改正及第二項削除）

一 砂、砂利又ハ碎石ハ泥土、鹽分、有機物等ヲ含マサルモノナルコト
二 砂利又ハ碎石ハ硬質ニシテ二センチメートル二分ノ一目篩ヲ通過シ且鐵筋相互間及鐵筋ト假構トノ間ヲ自由ニ通過スルモノナルコト

三 煉瓦屑、石炭燼ノ類ハ之ヲ使用セサルコト
四 軟度ハ均質ナル「コンクリート」ヲ得ルニ適當ナルモノナルコト
第八十九條 鐵筋「コンクリート」構造ニ於テハ鐵筋ノ兩端ヲ他ノ構造部ニ緊結スルカ又ハ之ヲ曲ケテ適當ニ「コンクリート」中ニ碇著スヘシ

第九十條ノ二 鐵筋「コンクリート」構造ニ於ケル主筋ノ繼手ノ長ハ之ヲ主筋直徑ノ二十五倍以上ト爲スヘシ
第九十條 削除（昭和七年一月十二日內務省令第一號）

第九十條ノ二 鐵筋「コンクリート」ノ主要ナル梁ニハ全張間ニ涉リ複筋及繫筋ヲ配置スヘシ
第九十一條 鐵筋「コンクリート」柱ノ構造ハ左ノ規定ニ依ルヘシ
一 主筋ハ四本以上タルコト
二 繫筋ノ中心距離ハ一尺以下トシ且主筋直徑ノ十五倍ヲ超過セサルコト

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行規則
三五七

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行規則

三 柱ノ小徑ハ其ノ主要支點間距離ノ十五分ノ一以上ナルコト
 四 主筋ノ斷面積ノ和ハ「コンクリート」ノ有效斷面積ニ對シ八十分ノ一以上ナルコト但シ地方長官構造強度上支障ナシト認ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス（昭和七年一月内務省令第一號但書追加）

第九十一條ノ二 第八十六條ノ三及第八十七條ノ規定ハ之ヲ鐵筋「コンクリート」造建物ニ準用ス
 第九十二條 鐵筋「コンクリート」構造ニ於テ主筋ニ對スル「コンクリート」ノ被覆厚ハ版ニ在リテハ二種未滿ト、梁及柱ニ在リテハ三種未滿ト、基礎ニ在リテハ五種未滿ト爲スヘカラス
 第九十三條 鐵筋「コンクリート」ノ床、屋根其ノ他ノ橫架材ノ上ニ假構ヲ設クルトキハ其ノ假構ヲ除去スルニ先チ其ノ下階ノ主要假構ヲ除去スヘカラス但シ「コンクリート」施工後二月ヲ經過セルモノ又ハ特ニ當該官吏又ハ吏員ノ承認ヲ受ケタルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス（同上改正）
 第九十四條 高十二尺未滿ノ墻壁其ノ他建築上輕微ナルモノニ在リテハ當該官吏又ハ吏員ノ承認ヲ受ケ第八十八條乃至第九十二條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得（同上）

第六 獨立煙突

第九十五條 高五十尺ヲ超過スル煙突ハ鐵造又ハ鐵筋「コンクリート」造トシ支線ヲ要セサル構造ト爲スヘシ但シ假設的ノ煙突ニシテ地方長官支障ナシト認メ存續期限ヲ附シ許可シタルモノハ此ノ限ニ在ラス（昭和七年一月内務省令第一號但書追加）
 2 鐵造又ハ鐵筋「コンクリート」造ニ非サル煙突ニシテ高三十尺ヲ超過スルモノニ在リテハ鐵材

ヲ以テ適當ナル補強ヲ爲スヘシ

第九十六條 削除（大正十三年六月内務省令第一五號）
 第九十七條 煙突ノ構造上必要ナル支線ト地盤トノ接著ハ鐵筋「コンクリート」造其ノ他腐朽ノ虞ナキ控抗若ハ適當ナル防腐方法ヲ施シタル木杭ニ緊著スヘシ
 第九十八條 土管煙突ハ高三十尺ヲ超過スヘカラス但シ堅固ナル鐵製支柁ヲ有スルモノハ地方長官ノ許可ヲ受ケ高五十尺迄ト爲スコトヲ得
 第九十九條 土管煙突ハ其ノ接合部ニ「モルタル」ヲ用キ支柁ニ緊結スヘシ
 第一百條 第九十五條及第九十八條ノ適用ニ關シテハ煙突ノ高ハ之ニ接著スル地盤面ヨリ之ヲ度ル

第七 強度計算

第一百條 強度計算ニ適用スル各種材料ノ重量ノ最小限左ノ如シ

材	料	重	量 (吨)
煉瓦積		一立方米ニ付	一九〇〇・〇
花崗岩及安山岩		一立方米ニ付	二五〇〇・〇
砂利又ハ碎石ヲ凝元體トセル「コンクリート」及鐵筋「コンクリート」		一立方米ニ付	二三〇〇・〇

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行規則

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行規則

三六〇

松	一立方米ニ付	五七〇・〇
杉、檜、樅、「オレゴンパイン」、北海道松ノ類	一立方米ニ付	四六〇・〇
鋼	百立方糎ニ付	〇・七八五
瓦葺（葺土ヲ除ク）	一平方米ニ付	六〇・〇
葺土、壁土及漆喰	一立方米ニ付	一六〇〇・〇

第一百條ノ二 強度計算ニ於ケル地震ノ水平震度ハ之ヲ〇・一以上ト爲スヘシ但シ地方長官建築物ノ種類又ハ土地ノ狀況ニ依リ其ノ増加ヲ命シ又ハ其ノ低下ヲ許可スルコトヲ得

第二百條 強度計算ニ於テ建築物ノ各部分ニ生スヘキ應力度ハ各種材料ニ付左ノ限度ヲ超過スヘカラス（昭和七年一月内務省令第一號改正）

材 料	應力度（一平方糎ニ付）	應力度（一平方糎ニ付）	應力度（一平方糎ニ付）	應力度（一平方糎ニ付）
榑、栗	九〇・〇	九〇・〇	九〇・〇	九〇・〇

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行規則

三六一

松	七五・〇	七五・〇	七・五	七五・〇
檜、樅、「オレゴンパイン」	六五・〇	六五・〇	六・五	六五・〇
杉、北海道松ノ類	五〇・〇	五〇・〇	五・〇	五〇・〇
花崗岩	一一〇・〇			一五・〇
硬質安山岩	八〇・〇			九・〇
煉瓦積	二二・〇			
「コンクリート」「セメント」	三〇・〇	三・〇	三・〇	三・〇
砂利又ハ碎石六三				
軟鋼	「リベット」ノ側壓ニ對シテハ 一五〇〇・〇	一二〇〇・〇	八〇〇・〇	一二〇〇・〇
鍊鐵	八五〇・〇	八五〇・〇	五五〇・〇	八五〇・〇

鑄	鐵	八五〇・〇	二〇〇・〇	二〇〇・〇	二〇〇・〇
---	---	-------	-------	-------	-------

2 前表ニ於ケル「コンクリート」ノ調合割合ハ容積ヲ以テシ「セメント」ハ千五百キログラムヲ以テ一立方メートルトス(同上)

3 品質特ニ劣等ナリト認ムルモノニ對シテハ地方長官ハ第一項ノ限度ヲ低下セシムルコトヲ得
第二百二條ノ二 強度計算ニ於テ鐵筋「コンクリート」構造ノ各部分ニ生スヘキ「コンクリート」ノ應力度ハ左ノ限度ヲ超過スヘカラス(同上本條改正)

應 力 度 (一平方糎ニ付)	應 張 力 度 (一平方糎ニ付)	應 剪 力 度 (一平方糎ニ付)
應壓強度ノ三分ノ一且 七〇・〇	應壓強度ノ三分ノ一且 七〇	應壓強度ノ三分ノ一且 七〇

2 鐵筋「コンクリート」ニ使用スル「コンクリート」ハ一平方センチメートルニ付九十キログラム以上ノ應壓強度ヲ有スルモノタルヘシ

3 第一項ノ應壓強度ハ左式ニ依リ算定セルモノヲ超過スヘカラス但シ適當ナル試驗方法ニ依リ「コンクリート」ノ強度ヲ試驗シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

$$F = \frac{2K}{20x}$$

F 「コンクリート」ノ應壓強度
 K 商工省告示日本標準規格第二十八號又ハ第二十九號ノ試驗方法ニ依リ試驗セル砂入「セメント」ノ四週間後ノ應壓強度
 x 水ト「セメント」ノ重量比

4 寒冷ノ季節ニ施工スル「コンクリート」ニ付テハ地方長官ノ定ムル所ニ從ヒ前項ノ應壓強度ヲ減スルモノトス

5 地方長官ハ第三項ノ適用ニ關シ「コンクリート」ノ調合ニ付必要ナル規定ヲ設ケ又ハ措置ヲ命スルコトヲ得

第二百二條ノ三 地方長官必要ト認ムルトキハ建築材料ノ提出又ハ強度試験ノ施行ヲ命スルコトヲ得(同上)

第二百三條 鐵筋「コンクリート」構造ノ強度計算ニ於テハ鐵ト「コンクリート」トノ彈率比ヲ十五ト爲スヘシ

第二百四條 鐵筋「コンクリート」構造ノ強度計算ニ於ケル應滑力度ハ一平方糎ニ付七珎ヲ超過スヘカラス但シ異形鐵筋ヲ使用スル場合ニ在リテハ其ノ形狀ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ十珎迄ト爲スコトヲ得

第二百五條 強度計算ニ適用スル各種床動荷重ノ最小限左ノ如シ

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行規則

種類	動荷重 (一平方米ニ付)
住家	二五〇
事務所、病院ノ類	三七〇
學校	四二〇
集會所、劇場、寄席ノ類	五〇〇
商品陳列室、陳列館ノ類	五五〇

2 倉庫、書庫、作業場等ニ付テハ其ノ實況ニ應スル適當ナル動荷重ニ依ルヘシ
 3 本條ノ動荷重ハ其ノ實況ニ應シ小梁ニ對シテハ其ノ十分ノ一以內ヲ、大梁ニ對シテハ其ノ十分ノ二以內ヲ、柱ニ對シテハ其ノ十分ノ三以內ヲ、震力計算ニ關シテハ其ノ十分ノ五以內ヲ減スルコトヲ得但シ倉庫、書庫、集會室、劇場、陳列室等ニ對シテハ本項動荷重ノ輕減ヲ爲スコトヲ得ス(昭和七年一月內務省令第一號改正)

第百六條 杭打基礎ニ於ケル杭ニ對スル荷重ハ墜錘ヲ使用スル場合ニ在リテハ左式ニ依リ算定セルモノヲ超過スヘカラス

$$P = \frac{WH}{5D + 0.1}$$

P 荷重
 W 錘ノ重量
 H 錘ノ落高 (米)
 D 杭ノ最終沈下 (米)

2 「コンクリート」杭ニシテ其ノ完全ニ凝結セサルモノニ對シテハ前項ノ算式ヲ適用セス
 3 前項ノ場合及汽錘ヲ使用シタル場合ニ在リテハ地方長官ハ荷重試験ノ施行ヲ命スルコトヲ得

第百七條 應壓鐵材ニ對スル荷重ハ左式ニ依リ算定セルモノヲ超過スヘカラス

$$P = Af_c \left(1 - C \frac{l}{r} \right)$$

A 斷面積
 f_c 第百二條ノ鐵材ニ對スル應壓力度
 l 主要ナル支點間ノ距離
 r 斷面ノ最小二次率半徑但シ鐵柱ニシテ其ノ周圍ノ構造ニ依リ撓ミノ方向ニ制限アルモノハ其ノ斷面ノ適當ナル軸ニ對スル二次率半徑ト爲スコトヲ得
 C 定數
 鋼及鍊鐵ニ在リテハ〇・〇〇三トシ其ノ兩支端回轉自由ナルトキハ〇・〇〇四、鑄鐵ニ在リテハ〇・〇〇五トス

第百八條 應壓木材ニ對スル荷重ハ左式ニ依リ算定セルモノヲ超過スヘカラス

第三類 都市計畫 市街地建築物法施行規則 三六五

$$P = Af_c \left(1 - 0.02 \frac{l}{d} \right)$$

- P 荷重
- A 斷面積
- f_c 第二百二條ノ木材ニ對スル應壓力度
- l 主要ナル支點間ノ距離
- d 斷面ノ最小徑

第二百九條 應壓鐵筋「コンクリート」材ニ對スル荷重ハ左式ニ依リ算定セルモノヲ超過スヘカラス (昭和七年一月内務省令第一號改正)

$$P = f_c (A_c + 15A_s)$$

- P 荷重
- f_c 第二百二條ノ「コンクリート」ニ對スル應壓力度
- A_c 「コンクリート」ノ有效斷面積
- A_s 主筋ノ斷面積

2 前項有效斷面積ハ其ノ主筋ノ外側線内ノ面積トス

3 適當ナル卷筋ヲ有スル應壓「コンクリート」材ニ在リテハ第一項ノ「コンクリート」ニ對スル應壓力度ヲ十分ノ二以内増加スルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於ケル卷筋ノ中心距離ハ八倍ヲ超過スヘカラス

4 應壓鐵筋「コンクリート」材ニシテ其ノ主要ナル支點間ノ距離其ノ最小徑ノ十五倍ヲ超過スルモノニ在リテハ別ニ適當ナル算式ニ依リ之ヲ算定スヘシ

$$M = f_b S$$

- M 曲能率
- f_b 第二百二條ノ應曲力度
- S 斷面積

第二百一十條 鐵筋「コンクリート」ノ單筋矩形梁又ハ版内ニ中軸ヲ有スル單筋丁梁ニ對スル曲能率ハ左ノ各式ニ依リ算定セルモノヲ超過スヘカラス (同上)

$$M = \frac{n_1(3-n_1)}{6} f_c b d^2$$

$$M = \frac{3-n_1}{3m} f_t b d^2$$

- M 曲能率
- n₁ 中軸比 (梁ノ應壓端ヨリ中軸迄ノ距離ト梁ノ有效丈トノ比)
- f_c 第二百二條ノ「コンクリート」ニ對スル應壓力度
- f_t 第二百二條ノ鐵筋ニ對スル應張力度
- m 對筋比
- b 梁ノ幅
- d 梁ノ有效丈